



機動戦士ガンダム  
モビルスーツ  
**MS大図鑑**  
PART.2  
【グリップ戦争編】

Illustration by Kenichi Ishibashi.

# GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】

## 1.序章 ～ガンダム強奪事件～

U.C.0087年3月2日、返連邦政府組織A.E.U.G.の特務部隊が、サイド7第1号バンチ『グリーンオアシス1』(グリップス1)でテスト飛行中であつた新型MS、RX-178ガンダムMK-II 3機を強奪し逃走した。

エウーゴの目的は、ティターンズが開発していた新型機のデータを入手することで、連邦軍にもその存在が知られていない新造巡洋艦アーガマ1隻と、新型MS、RMS-099リック・ディアス3機を投入した。

同MS部隊の隊長は、かつて一年戦争において『赤い彗星』の異名を持つたシャア・ア

ティターンズは確かにRX-78ガンダムの後継機、RX-178ガンダムMK-IIを開発していた。開発地は奇しくもRX-78と同じサイド7であった。エゥーゴはこの新鋭機の情報を得るため、特別部隊を送り込んだ。

## 【第二章『グリップス戦争』と『第1次ネオ・ジオン抗争】

イラスト／岡本英郎



ズナブル大佐（偽名はクワトロ・パジーナ大尉）であった。また、この時、ガンダムに乗り込み、シャアとともに脱出した少年こそ、のちにエゥーゴの再新録可変MS、MSZ-1006Zガンダムの正パイロットとなつたカミーユ・ビダンであった。

ティターンズはこの事件を重視し、巡洋艦アレキサンドリアを出動させ、アーガマを追撃させた。数度の交戦ののちアーガマは月面で追跡を振り切つたが、ティターンズに強い警戒心を抱かせてしまつた。

この事件はエゥーゴのテロ行為として報道され、ティターンズの正統性を世論に訴える宣伝材料とされた。

だが、この事件も第2次宇宙大戦の前触れに過ぎなかつた。

# GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



## 2. 開戦

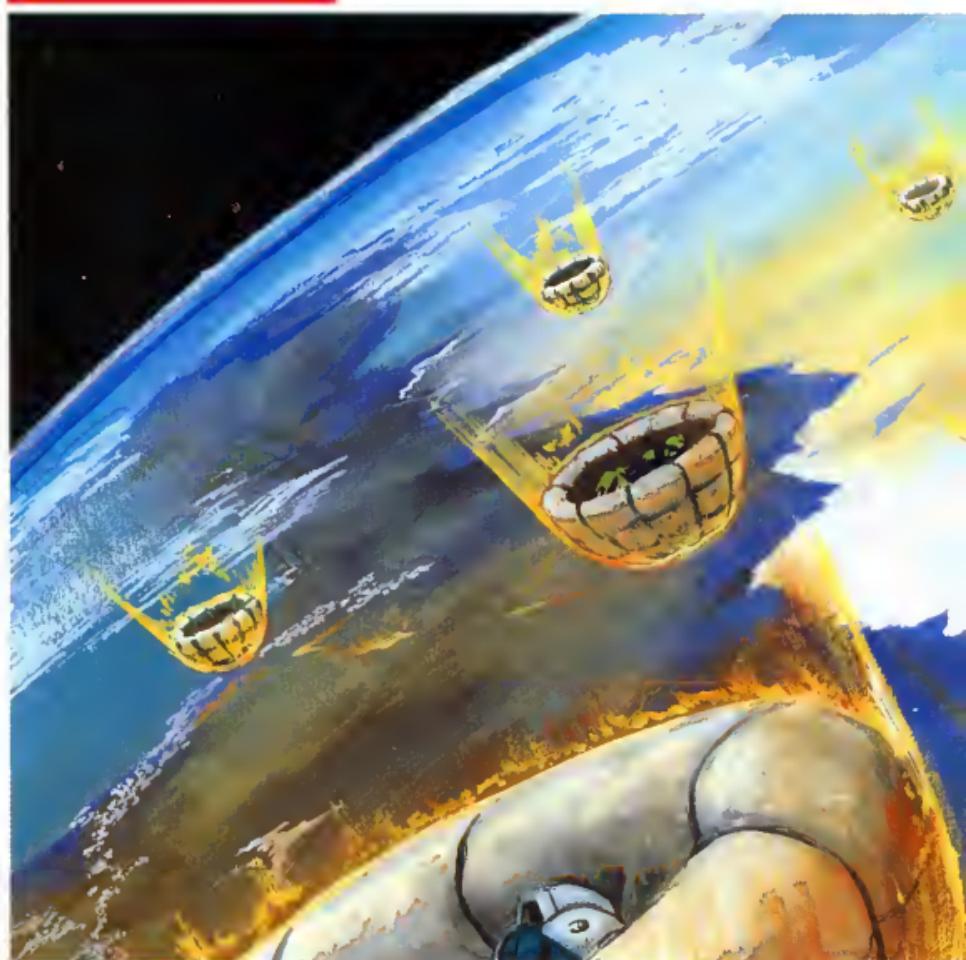
### ジャブロー降下作戦

同年4月29日、エウーゴはMS部隊を宇宙から南米のジャブローに降下させた。ここには連邦軍総司令基地があり、MSによって武力制圧し、ティアーンズの解体を要求しようという計画であった。

その準備として防空戦闘衛星を沈黙させ、太陽発電衛星を撃破し、地上の混乱に乘じて、MS部隊を降下させた。また、宇宙艦の不足を補うため、グラナダ基地の巡洋艦を奪取していた。

電撃作戦によりエウーゴのMS部隊は、防衛網をかいくぐり地下の大洞窟内にある総司令本部までせまった。しかし、そこは空であった。エウ

エウーゴはジャブロー降下作戦を開始した。およそ30機のM.S.がパリュートの花を開き、大気圏に突入する。これに対しティーターンズのアレキサンドリア隊が阻止行動に出るが、突入中は両軍とも戦闘にはならなかった。



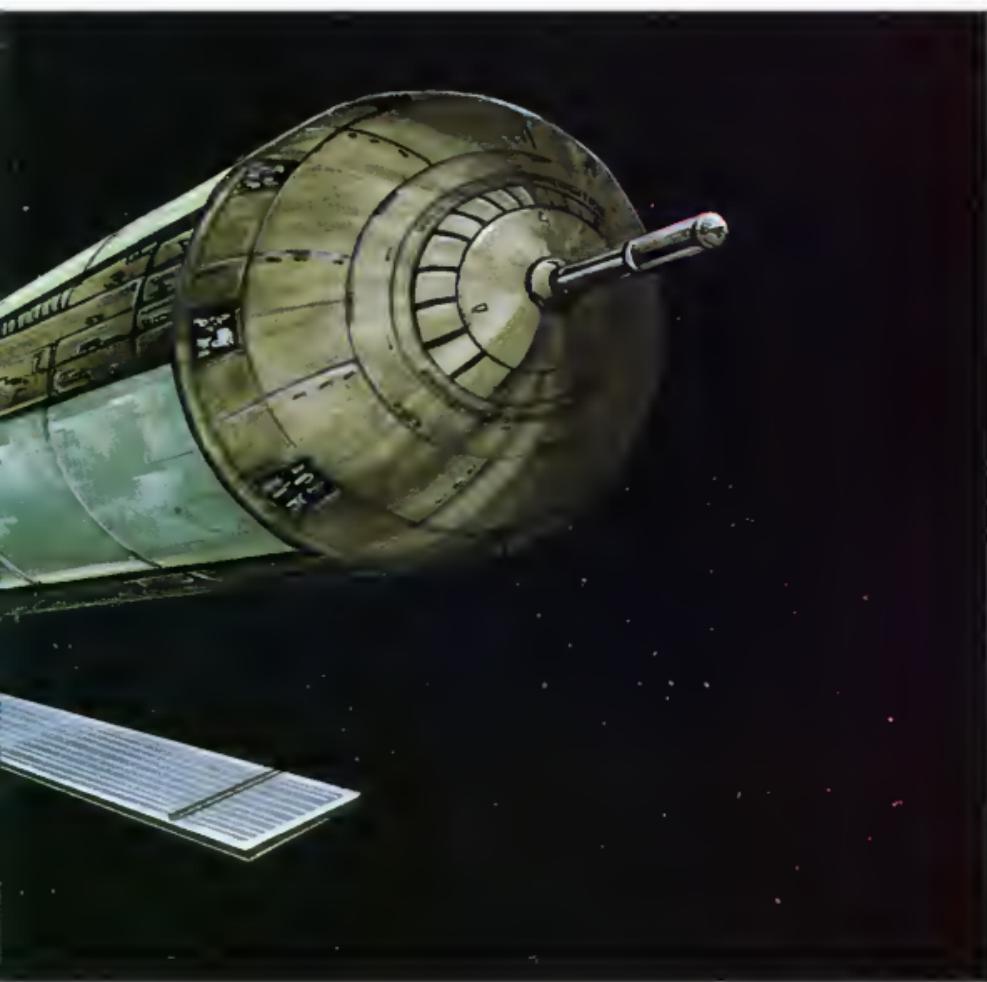
エウーゴの攻撃を予測したティーターンズが1週間前にジャブローの戦力、要人を各基地に分散させていたのである。この基地には旧型の兵器だけを残して……。

しかも、地下には核爆弾が仕掛けられ、エウーゴの攻撃とともに点火されることになっていた。運良く爆弾の存在に気付いたエウーゴのM.S.部隊は、間一髪脱出に成功した。だが、作戦に失敗し、ティーターンズの勢力の強い地球に取り残され、討伐部隊の追撃の中、宇宙に脱出するのは至難の技であった。

エウーゴの地球における協力組織カラバの援助により、からくも脱出に成功するが、その間ティーターンズは、連邦議会を動かし、連邦軍のティーターンズ化を進めていた。

# GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】

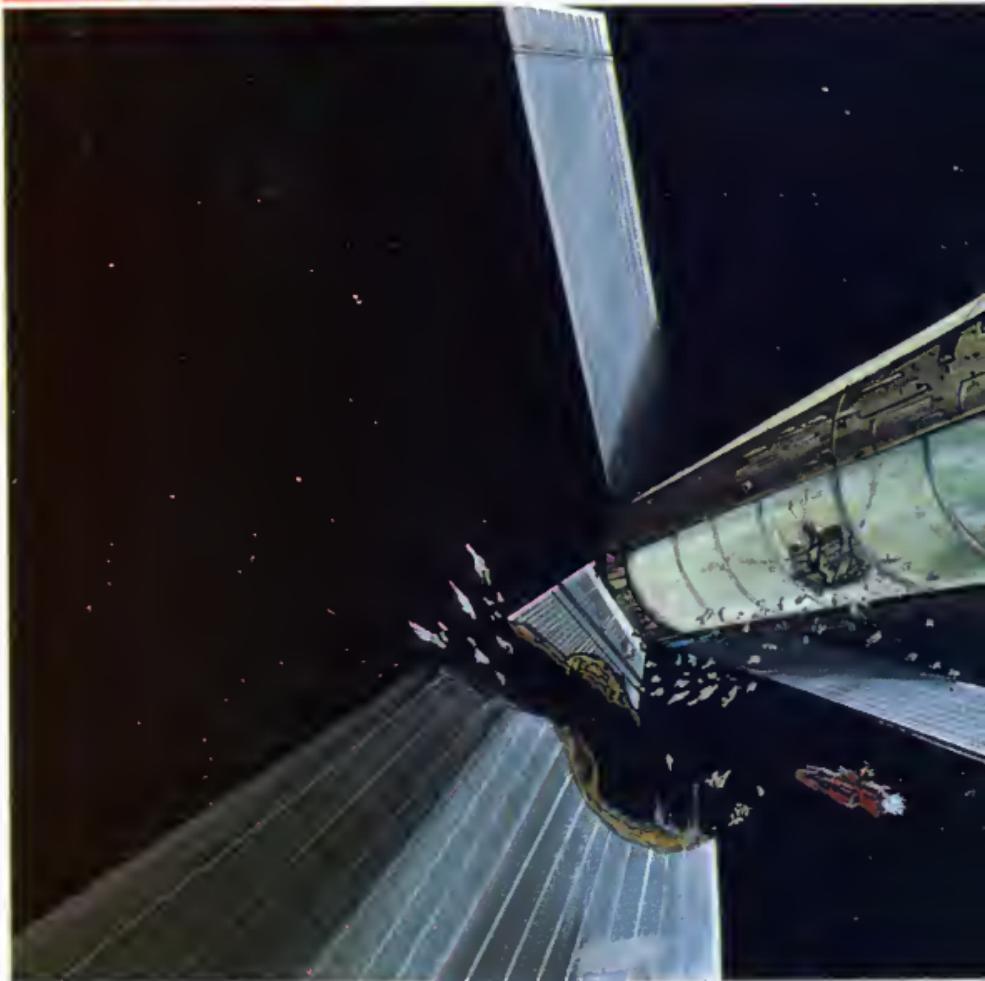


## 3. 無差別攻撃

同年6月8日、ティターンズは、軍事コロニーであるグリップス2と旧ア・バオア・クーをルナII海域に集結させ、宇宙における拠点を完成させた。コードネームは、"ゼダンの門"である。

そして、連邦軍のティターンズ化を押し進める一方、ジヤブロー攻撃の報復として、エウーゴの拠点と思われる月面都市やコロニーを次々に攻撃した。しかも、通常の方法ばかりではなく、南極条約で禁止された毒ガス兵器や、コロニー落しを行い、直接的に関係のない一般市民をも巻きぞえにした皆殺し作戦を実行した。物量で劣るエウーゴは

0087年12月7日、ティターンズのコロニーレーザーにより、サイド2・18パンチは壊滅し、住民も全員死亡した。直径3キロメートルのレーザーがコロニーの外壁を貫通し、内部の空気を瞬時に奪ったのである。



ゲリラ的にこの非道な作戦の阻止に回ったが、広大な地球圏全てに目が届くわけもなかつた。

だが、ティターンズの暴挙を訴えるシャア・アズナブルの演説により、ティターンズは孤立し、指導者であるジャミトフ・ハイマン准将も同年11月、地球を追われ、ゼダンの門に移らざるをえなかつた。彼には切札があつた。

グリップス2を改造成したコロニーレーザー砲が完成していいたのだ。前大戦に投入されたものより性能がすぐれ、遠く離れたコロニーをも狙い撃ちが可能で、再発射のための冷却・再充填時間も大幅に短縮されたのである。エウーゴはまさにスペースノイド全体を人質に取られた状態に陥つたのであつた。

# GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



## 4. 決戦 グリップス戦役

0088年1月18日、アストロイドから帰還したジオンの残党軍『アクシズ』は、ゼダンの門の旧ア・バオア・クランに、核パルス推進機械を装備した小惑星アクシズを衝突させ、破壊した。

アクシズはこの戦争に対し、両陣とも同盟は結ばず、第3勢力として参戦したのだ。

同年2月2日、エウゴはメルシュトローム作戦を発動し、アクシズの手に落ちたコロニーレーザー砲を奪回した。だが、指導者であるハーマン・カーンは、再び小惑星アクシズを動かし、エウゴの本拠である月面のグラナダに落とした。この作戦は

グリップス戦役では、エウーゴ、アクシズ、ティターンズ全てを集めれば、300隻を越す宇宙艦が互いに砲火を交えた。激しい火線と爆光の中、コロニーレーザーは最後の光を放って爆発した。



コロニーレーザーによりその落とコースをそらすことになり、成功し、グラナダを守ることができた。

同年2月22日、ジャミミトフを暗殺し、分裂寸前のティターンズをまとめ上げ、新たな指導者となつた。パプティマス・シロッコがアクシズと歩調を合わせ、グリップス2のエウーゴ艦隊に襲いかかつた。ティターンズ、エウーゴの大半の戦力がこの地域に集結し、大攻防戦が繰り広げられた。

指導者シロッコがMS戦で戦死し、かろうじてエウーゴは勝利を治めた。だが、両軍とも破壊的被害を受け、エウーゴの新たな指導者といわれていたシャアも行方不明となつた。アクシズが撤退したのも單にコロニーレーザーが破壊されたためであつた。

# GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



## 5. 地球侵攻 ～第一次ネオ・ジオン抗争～

グリップス戦役の敗北により、ティターンズは破滅し、指揮系統も元に戻った。だが、その混乱に乘じ、ネオ・ジオンと名を変えたアクシズがグリップス戦役からおよそ4カ月後、地球に降下部隊を送り込んだ。もちろん巡洋艦数隻による先遣隊であったが、連邦軍の攻撃はほとんどなく、容易に本隊降下のための地盤を築くことができた。これは前大戦中投降を拒み、ゲリラ化した旧公国残党の協力のおかげともいえる。

宇宙では、すでにエウゴンが壊滅状態にあると判断したハマーンが各コロニーに制圧部隊を送り込んでいた。事実

ネオ・ジオンの旗艦サダラーン他、多数の宇宙艦がダカール市の港に停泊し、市を制圧した。警備には自軍のMSの他、ゲリラとなつて生き延びてきた旧公国軍の残党たちが乗る旧型MSの姿もあった。



エウーゴの反撃はなく、同年8月1日の本隊降下の際も、アーガマただ1隻しか出動してこなかつた。

同年8月29日、ハマーンは連邦議会のあるダカール市を無血占領した。だが、カラバとアーガマによる攻撃が行われ、ダカールを退却した。そして同年10月31日、示威行動としてイギリスのダブリンにコロニーを落した。これによつて連邦政府は、サイド3(ジオン共和国)をネオ・ジオンに譲渡し、11月14日、ハマーンは宇宙に戻つた。

しかし、これはザビ家の血を引くと自称するグレミー・トトの反乱を警戒したためといわれる。ハマーンはサイド3を拠点として、地球圏支配のための地盤固めに入つていた。

地球圏を手中に收めかけたハマー・カーンは死んだ。だが、連邦、そしてエウーゴを操つる資本家たちは何ら変わることはない。スペースノイドとアースノイドの関係が改められない限り、再び戦争は起きる……。



同年12月25日、グレミー・トトはついにハマーンに反旗を翻した。モウサを拠点として、サイド3の中心的コロニー「コア3」にいるハマーン軍に戦いを挑んだのである。0089年1月16日、グレミー艦隊は、小惑星モウサを前面に押し出し、コア3を攻撃した。グレミーを正面の敵としたネエル・アーフガマのMS部隊がコア3内部に侵入し、グレミーを倒した。そしてモウサがコア3に衝突し、両艦隊がその余波で壊滅した。ハーマーンもZZガンダムにMS戦で敗れ、戦死した。再編成し終えたエウーゴ艦隊が到着したのは、その後である。

## 6. 終章 ネオ・ジオン内乱

# MS名鑑

## ガンダムMK-II～ネモ

RX-178  
ガンダムMK-II



- ①汎用試作型MS
- ②ティターンズ
- ③Ζ
- ④――

RX-178  
ガンダムMK-II



- ①汎用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Ζ、ΖΖ
- ④1/100 1/144 1/220

MSA-003  
ネモ



- ①迎撃用量産型MS
- ②エウーゴ
- ③Ζ
- ④1/144

FXA-05D + RX-178  
Gティフェンサー(スーパーガンダム)



- ①MK-II専用  
可変装甲ブースター
- ②エウーゴ
- ③Ζ ④1/144

①分類、②所属、③登場シリーズ、④模型対応表

## ジムII-リック・ディアス

RGM-179  
ジムII

- ①汎用量産型MS  
②連邦軍(グリップス製)  
③Ζ  
④—

RGM-79R  
ジムII

- ①汎用量産型MS  
②エウーゴ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{144}$

RMS-099  
リック・ディアス

- ①攻撃用量産型MS  
②エウーゴ  
③Ζ  
④—

RMS-099  
リック・ディアス

- ①攻撃用量産型MS  
②エウーゴ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{100}$   $\frac{1}{144}$   $\frac{1}{220}$

# Zガンダム～メタス

MSN-100  
百式



MSZ-006  
Zガンダム



- ①攻撃用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Ζ ZZ
- ④ $1/100$   $1/144$   $1/220$

- ①攻撃用試作型可変MS
- ②エウーゴ
- ③Ζ ZZ
- ④ $1/60$   $1/100$   $1/144$   $1/220$

MSA-005  
メタス



MSK-008  
ディジエ



- ①攻撃用試作型可変MS
- ②エウーゴ
- ③Ζ
- ④ $1/144$

- ①攻撃用試作型MS
- ②エウーゴ(カラバ)
- ③Ζ
- ④ $1/144$

## ハイザック→マラサイ

RMS-106  
ハイザックRMS-106  
ハイザック

- ①汎用量産型MS  
②連邦軍  
③Ζ  
④—

- ①汎用量産型MS  
②ティターンズ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{100}$   $\frac{1}{144}$

RMS-108  
マラサイRMS-106CS  
ハイザック・カスタム

- ①汎用量産型MS  
②ティターンズ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{144}$   $\frac{1}{220}$

- ①狙撃用試作型MS  
②ティターンズ  
③Ζ  
④—

RMS-154  
バーザム



- ①汎用量産型MS
- ②ティターンズ
- ③Ζ
- ④—

RMS-117  
ガルバルティ $\beta$



- ①局地戦専用MS
- ②ティターンズ
- ③Ζ
- ④ $1/100$   $1/144$

AMX-003  
ガザC



- ①量産型可変MS
- ②アクシズ
- ③Ζ
- ④—

RX-160  
バイアラン



- ①局地戦専用試作MS
- ②ティターンズ
- ③Ζ
- ④ $1/220$

RX-110  
ガブスレイORX-005  
ギャブラン

- ①可変試作型MS  
②ティターンズ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{144}$

- ①汎用試作型可変MA  
②ティターンズ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{144}$

NRX-044  
アッシマーRX-139  
ハンブラビ

- ①汎用試作型可変MA  
②ティターンズ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{220}$

- ①可変試作型MS  
②ティターンズ  
③Ζ  
④ $\frac{1}{144}$

PMX-002  
ボリノーク・サマーン



- ①汎用試作型MS
- ②ジュピトリス
- ③Ζ
- ④—

PMX-000  
メッサーラ



- ①汎用試作型可変MA
- ②ジュピトリス
- ③Ζ
- ④ $1/220$

PMX-003  
ジ・オ



- ①局地専用試作型重MS
- ②ジュピトリス
- ③Ζ
- ④—

PMX-001  
バラス・アテネ



- ①汎用試作型重MS
- ②ジュピトリス
- ③Ζ
- ④ $1/144$

NRX-055-3  
バウンド・ドッグNRX-055-2  
バウンド・ドッグ

- ニュータイプ  
 ① NT 専用試作型MA  
 ② ティターンズ  
 ③ Z  
 ④ —

- ニュータイプ  
 ① NT 専用試作型MA  
 ② ティターンズ  
 ③ Z  
 ④ —

MRX-010  
サイコガンダムMK-IIMRX-009  
サイコガンダム

- ニュータイプ  
 ① NT 専用試作型可変MA  
 ② ティターンズ  
 ③ Z, ZZ  
 ④  $\frac{1}{220}$

- ニュータイプ  
 ① NT 専用試作型可変MA  
 ② ティターンズ  
 ③ Z  
 ④  $\frac{1}{220}$

MSZ-007  
量産型Zガンダム



FA-178  
フルアーマー・ガンダムMK-II



- ①攻撃用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Z-MSV
- ④—

- ①増加装甲装備汎用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Z-MSV
- ④—

MSZ-006-X2  
プロトZガンダム



MSZ-006-X1  
プロトZガンダム



- ①攻撃用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Z-MSV
- ④—

- ①攻撃型試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Z-MSV
- ④—

MSF-007

## ガンダムMK-III



MSZ-008

## ゼッター



- ①攻撃用試作型MS  
 ②エウーゴ  
 ③Z-MSV  
 ④—

- ①攻撃用試作型MS  
 ②エウーゴ  
 ③Z-MSV  
 ④—

MSR-100S  
百式改量産型MSR-100S  
百式改

- ①攻撃用試作型MS  
 ②エウーゴ  
 ③Z-MSV  
 ④—

- ①攻撃用試作型MS  
 ②エウーゴ  
 ③Z-MSV  
 ④—

MSA-005S  
メタス改



MSA-005K  
ガンキャノン・ディテクター



- ①攻撃用試作型可変MS
- ②エウーゴ
- ③Z-MSV
- ④—

- ①砲撃戦用試作型MS
- ②エウーゴ(カラバ)
- ③Z-MSV
- ④—

MSK-004K  
ネモIII



MSA-099-2  
リック・ディアスII



- ①攻撃用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Z-MSV
- ④—

- ①攻撃用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Z-MSV
- ④—

## キュベレイ一量産型キュベレイ

AMX-004-2

キュベレイMK-II



AMX-004

キュベレイ



ニュータイプ

- ① NT 専用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④—

ニュータイプ

- ① NT 専用試作型MS
- ②アクシズ
- ③Z、ZZ
- ④ $\frac{1}{220}$

AMX-004G

量産型キュベレイ



AMX-004-3

キュベレイMK-II



ニュータイプ

- ① NT 専用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④—

ニュータイプ

- ① NT 専用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④—

FA-010S  
フルアーマーZZガンダム



MSZ-010  
ZZガンダム



- ①汎用試作型可変重MS
- ②エウーゴ
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{100}$   $\frac{1}{144}$

- ①汎用試作型可変MS
- ②エウーゴ
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{100}$   $\frac{1}{144}$

RMS-099B  
シュツルム・ティアス



- ①攻撃用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④—

RGM-86R  
ジムIII



- ①汎用量産型MS
- ②エウーゴ
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-103

ハンマ・ハンマ



AMX-101

ガルスJ



- ①騎士専用試作型MS  
 ②ネオ・ジオン軍  
 ③ZZ  
 ④1/144

- ①局地戦用試作型MS  
 ②ネオ・ジオン軍  
 ③ZZ  
 ④1/144

AMX-104

R・ジャジャ



AMX-102

ズサ



- ①騎士専用試作型MS  
 ②ネオ・ジオン軍  
 ③ZZ  
 ④1/144

- ①砲撃用試作型MS  
 ②ネオ・ジオン軍  
 ③ZZ  
 ④1/144

AMX-008  
ガ・ゾウム



AMX-006  
ガザD



- ①汎用量産型可変MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④1/144

- ①汎用量産型可変MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④1/144

AMX-117L  
ガズエル



AMX-117R  
ガズアル



- ①汎用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④1/144

- ①汎用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④1/144

MS-09G  
ドワッジMS-14J  
リゲルグ

- ①陸戦用量産型MS  
②旧公国軍  
③ZZ  
④ $1/144$

- ①汎用量産型MS  
②ネオ・ジオン軍  
③ZZ  
④ $1/144$

AMX-009  
ドライセンMS-09H  
ドワッジ改

- ①汎用量産型MS  
②ネオ・ジオン軍  
③ZZ  
④ $1/144$

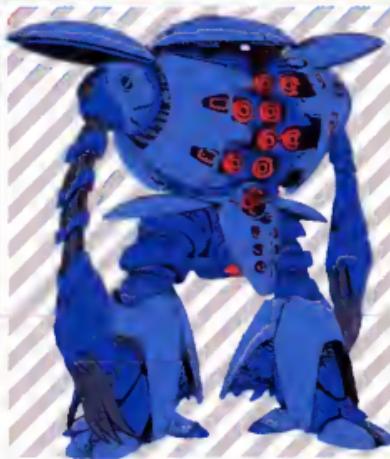
- ①陸戦用試作型MS  
②旧公国軍  
③ZZ  
④ $1/144$

RMS-119  
アイザック



- ①偵察用量産型MS
- ②連邦軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-109  
カプール



- ①水中用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④—

MS-06D  
ティザート・ザク

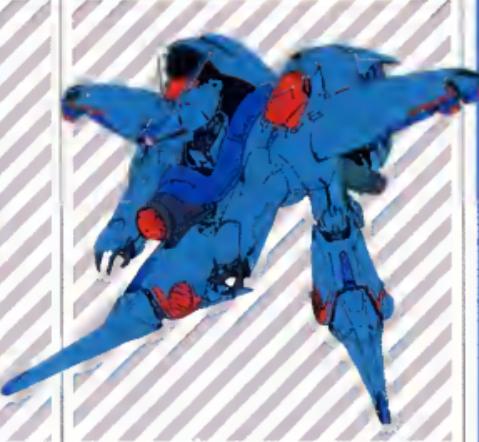


- ①砂漠戦用量産型MS
- ②旧公国軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

RMS-192M  
ザク・マリナー



- ①水中用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-107  
ハウAMA-01  
ジャムル・フィン

- ①汎用試作型可変MS  
②ネオ・ジオン軍  
③ZZ  
④ $\frac{1}{144}$

- ①宇宙戦用試作型MA  
②ネオ・ジオン軍  
③ZZ  
④ $\frac{1}{144}$

AMX-011S  
ザクIII改

- ①汎用量産型MS  
②ネオ・ジオン軍  
③ZZ  
④—

AMX-011  
ザクIII

- ①汎用量産型MS  
②ネオ・ジオン軍  
③ZZ  
④ $\frac{1}{144}$

# ドーベン・ウルフ～キャトル

AMX-015  
ゲーマルク



AMX-014  
ドーベン・ウルフ



- ニュータイプ  
 ① NT 専用量産型重MS  
 ②ネオ・ジオン軍  
 ③ZZ  
 ④—

- 汎用量産型重MS  
 ②ネオ・ジオン軍  
 ③ZZ  
 ④ $1/144$

キャトル



NZ-000  
クイン・マンサ



- ①大型作業用MS  
 ②民間(ムーン・ムーン)  
 ③ZZ  
 ④—

- ニュータイプ  
 ① NT 専用量産型重MS  
 ②ネオ・ジオン軍  
 ③ZZ  
 ④—

## ゲゼー・デザートゲルグク

RMS-188MD  
サクダイバー

- ①深海作業用MS  
②連邦軍  
③ZZ-MSV  
④—

ゲゼ



- ①大型作業用MS  
②民間(シャングリラ)  
③ZZ  
④—

MS-14D  
デザートゲルグク

- ①砂漠戦用試作型MS  
②旧公国軍  
③ZZ-MSV  
④—

MS-06DC  
デザートサク ロンメルカスタム

- ①砂漠戦用試作型MS  
②旧公国軍  
③ZZ-MSV  
④—



モビルスーツ

# MS開発史

MS Development History

●一年戦争以降、MSとMAは急速に進歩をとげ、可変型、ニュータイプ専用機、ハイ・メガ粒子砲搭載機などを生み出す。その技術史とともに、背景である政治的変動も合わせ解説していく。

# 1. 一年戦争後のMS開発

一年戦争の勝利により連邦軍は、公国軍のMS研究・開発資料及び技術者を手中に収めた。戦後数年は連邦軍と公国軍の技術上の融合期であったといえよう。

大戦終了後もMSの需要は絶えることはなかつた。旧公国軍の残党は武装解除もされずにゲリラ化し（当然MSを保有する部隊が多く存在した）、連邦軍は残党狩りに高性能MSを必要とした。だが、大戦で多額の戦費を消耗し、戦死した連邦軍人の遺族に対する保険問題も棚上げされている。台所事情では、おいそれと新型機の開発費は念出できなかつた。結果として旧型機のマイナーバージョン化が行われ

る。その代表例がRGM-17

9RジムIIとRMS-117ガルバルティムである。後者

などは公国軍の機体であり、連邦軍パイロットから一部拒否反応があつたといわれる。

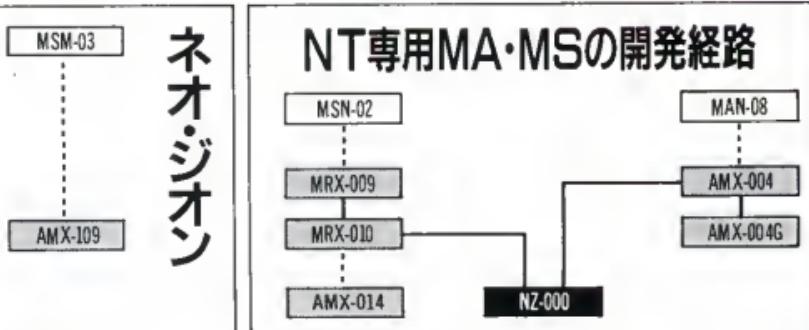
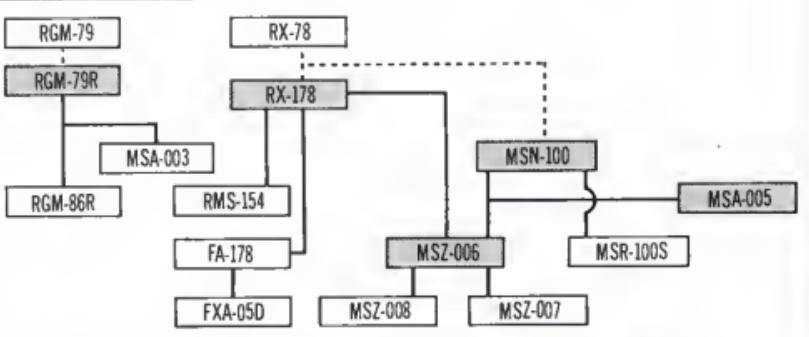
0083年、ジョン・残党狩

り部隊“ティターンズ”が結成され、それを契機としてMS開発は活発化した。予算が

増え、公国軍系の技術者も積極的に登用された。だが、両軍のMS設計コンセプトは山と海ほどに違いがあり、その融合には時間を要した。

戦後初の量産型MS、RMS-106ハイサックは、0084年7月にロールアウトした。外観は旧公国軍の名機

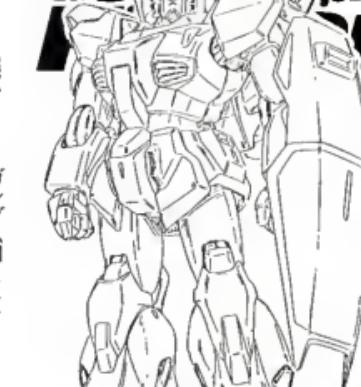
MS-106ザクを継承している。S-106ハイサックは、0084年7月にロールアウトした。外観は旧公国軍の名機



RX-117-8 ガンダム Mk-II

RGM-79-R ジムII

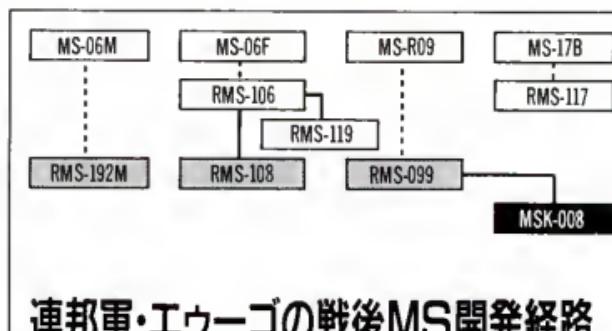
RMS-117 ガルバルドイβ



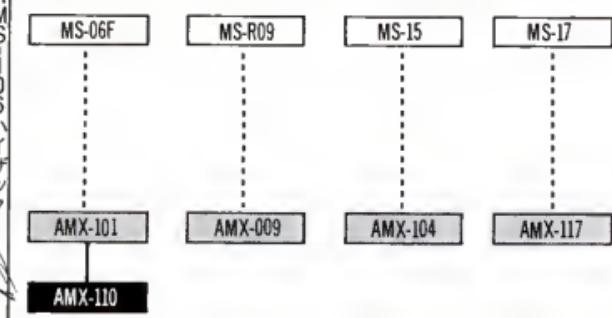
たが、中身はジムの発展版というべきはぎの機体であった。性能的にも目新しさのない機体で、ビームライフルの開発が遅れ、実戦配備後もしばらくは120ミリマシンガンを装備していた。しかし、このハイザックで初のリニアシートが採用された。この操縦システムはまだ完成されていなかったとはいえないが、従来よりも視界が向上し、操縦性は高かつた。翌年には全周回モードとした

新型リニアシートが完成し、在来機種を全てこのシステムに換装した。

0085年よりティターンズは、グリップス1・2においてRX-117-8 ガンダム Mk-II の開発に着手した。この開発には公国軍系の技術者は外され、連邦軍は抜きの技術者が投入された。この機体で初めてムーバブルフレームが導入され、人間並のフレキシビリティ（柔軟性、多用途性）を得たが、まだまだ設計に改良の余地があった。



## 連邦軍・エウーゴの戦後MS開発経路



## 2. 第2世代MSとガンダリウム

ガンダムMK-IIのムーバブルフレームは、合計6回の設計変更が行われた。だが、フレーム材質に欠陥があつた。構造的に柔軟性はあつたが、瞬発的な外力に対して剛性が不足していたのだ。3機製造された試作機は6カ月に渡りテスラが繰り返された結果、量産の中止が決定した。

MK-IIの試作とほぼ平行して、アナハイム・エレクトロニクス社はさらに革新的なMSを開発していた。同社は大戦中公国軍のMSを開発・製造し巨利を得た企業で、連邦政府との裏取り引きによって軍の接收をまねがれた。戦後は連邦軍一の軍需メーカーとなつたが、反連邦組織“エ

ウーゴ”に新型MSを供給する契約を結んだ。また、同時にアステロイドベルトに逃げのびたジオン残党軍“アクシズ”から技術協力の申し出があり、アクシズはムーバブルフレーム（試作品であったが）とリニアシートシステムと交換でガンダリウム・イン社は、この新合金を元に新技術開発着手した。まず最初に核融合炉の小型・軽量化と高出力化、そして、材質的欠陥のあつたムーバブルフレームの改良、さらにガンダリウムを主材とした強化・軽量化装甲板が産み出されていった。これらの新技術を導入したMSは、第2世代MSと呼

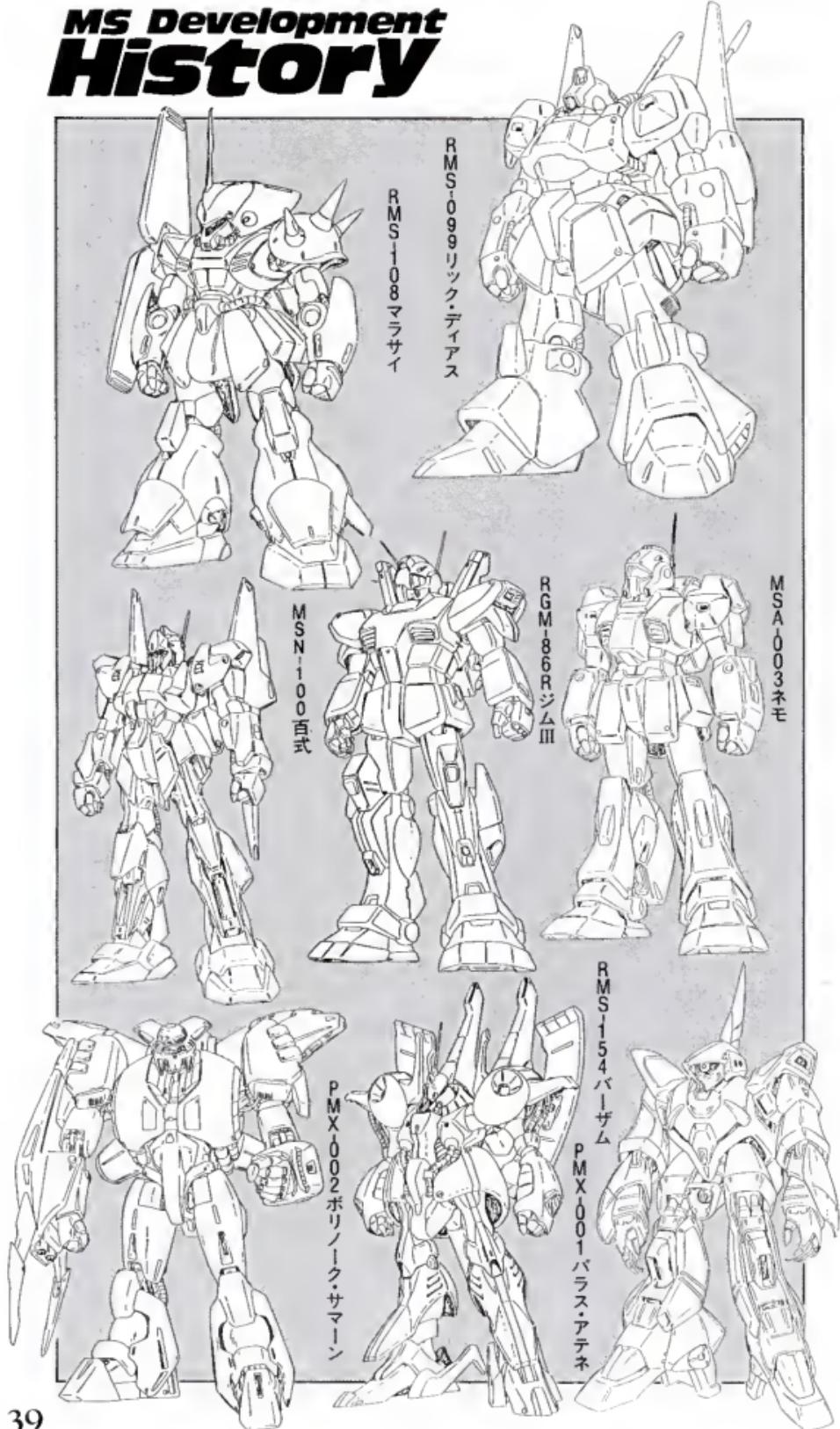
ばれることになる。その第1号機がRMS-099リック・ディアスであった。同機は公国軍系技術者だけで開発され、攻撃力、防御力、移動力等極めてバランスの良い機体に仕上つた。しかもガンダリウム系の新技術により、在来機とは一線を画す総合性能を有していた。

0087年3月まで、このガンダリウム・インの存在は、連邦軍・ティターンズには知られていなかつた。彼らもガンダリウムの改良を行つていたが、アクシズ、エウーゴに大きく遅れていたのだ。だが、エウーゴがリック・ディアスによりガンダムMK-IIを強奪する事件が起き、連邦軍はアナハイム社を疑つた。同社の代表マラニー・ヒュー・カ

ーバインは、軍の追及をかわすため新戦機RMS-108マラサイを無償供給し、ガンダリウム系の新技術を渡した。これによつて第2世代MSは、連邦軍、ティターンズでも使われることになった。

この第2世代MSは、0087年から0089年までに試作型を含めて50数種が実戦に登場し、総生産台数は400機を越えた。MSは後述する第3世代、第4世代と進化を続けていくが、生産台数においてはこの第2世代が圧倒的に多い。これは3、4世代が非常に高価で、生産性が低いためだ。0093年の第2次不オ・ジオン抗争においても主力は第2世代であつた。

# MS Development History



## 3. 可変MAの登場

1983年よりMSとは別に可変能力を有するモビルアーマー（以下MA）の開発が開始されていた。大戦中公国軍が作り出したMAは、極めて高い局地戦能力を有していたが、人型のMSほどの多用途性、汎用性はなかった。そこでMA形態からMS形態への可変機能を持たせ、欠点を補なおうとした。

ORX-005ギヤプランは、アッシマー以上の運動性、大気圏内飛行能力を有するN RX-044アッシマーである。当MS用サブフライテシステムとして、ベースジャバーやドライバーができていたが、昇性能が低く、迎撃機としては役に立たなかつた。そこでMA形態を円盤のリフ

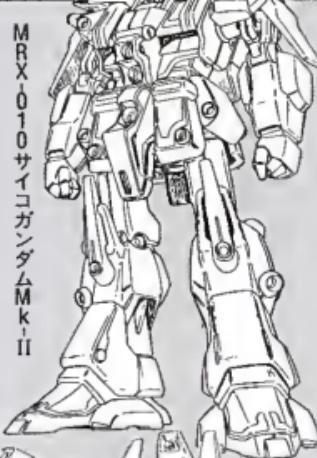
テイングボディとしたアッシマーが必要とされた。可変機構もMS形態時の関節部の自由度を高めただけで、比較的問題も少なく1985年には試作機が完成している。だが、携帯兵器がロングバレルのピームライフル1丁と火力の充実が求められ、新形機の開発が行われた。

ORX-005ギヤプランは、アッシマー以上の運動性、火力を有する航空戦対応TM Aである。MS形態時の両腕に装備されたペニニアパイシスターと両脚のスラスターは、飛行時にも自由に可動し、およそ航行機とは思えない運動を行う。その分、機体形状の飛行特性はアッシマーに劣り

航続時間は短い。だが、本来この機体は高々度迎撃用に開発されたもので、大型フレースターによって成層圏まで打ち上げられ、後は半ば自由落下状態で戦闘するように想定されているため、さほどの問題ではなかつた。推進システムは熱核ジェットであるが、のちに開発された宇宙用では熱核ロケットに変更されている。このギヤプランでは変形機構を組み込んだムーバブルフレームを採用した。機体剛性を高め、変形に要する時間を1秒以内に短縮するためには必要で、ガンダリウム・ヤットマグネットコートティングといった新技術を導入して完成させた。戦後すぐに設立された連邦軍のムラサメ、オーガスタ両

N-T研究所は、公国軍のフランガン機関の資料を元にサイコミュの研究を続け、同時に強化人間と呼ばれる人口的にNTの育成を行つてた。ムラサメはMSN-102ジオングの開発資料を元に、MRX-1009サイコガンダムを完成させた。この機体はMA形態ではミノフスキーフラフトで浮遊し、巨大な推力によって高速飛行が可能だつた。内蔵する核融合炉の出力は戦艦級で同時に大型メガ粒子を多数稼働させ、さらにビーム偏向フィールドまでを装備していた。また、改良型のMK-IIはリフレクタービットや有線制御式メガ粒子砲まで備えていた。だが、サイコミュは未完成で、多くのパ

# MS Development History



MRX-010サイコガンダムMK-II



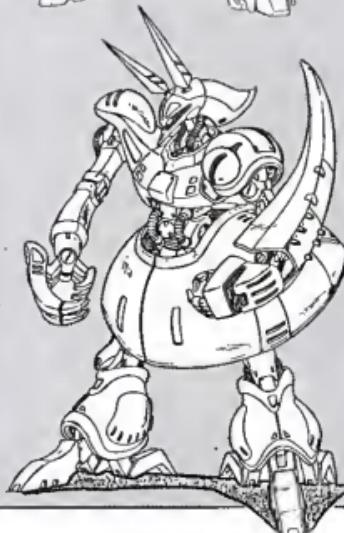
MRX-009サイコガンダム



PMX-000メツサーク



NRX-044アッシャー



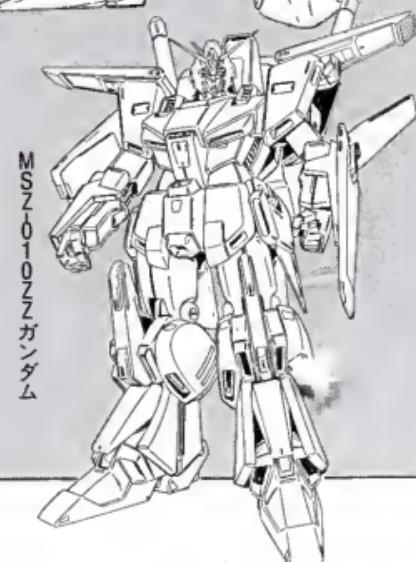
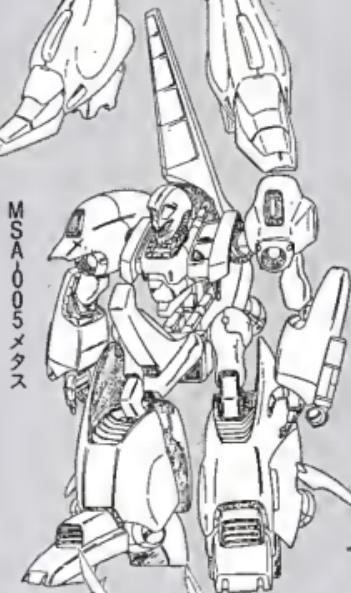
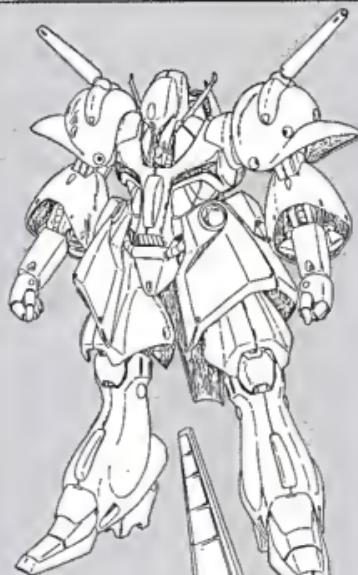
MRX-055バウンド・ドック



ORX-005ギャブラン



# MS Development History



## 5. ネオ・ジオン製MS

ジオンはまだアクシズを名乗っていた。参加したMSもガザA、Bの発展型であるAMX-1003ガザCのみで、地球侵攻作戦用に用意したMSは温存していた。例外はハマーン・カレン専用機AMX-1004キュベレイだけだ。

ネオ・ジオンのMSは、4系統に分類できる。第1にAMX-110ガルスJとAMX-1102ズサのような陸戦を想定した機種。ガルスJは一年戦争時の局地戦仕様機よりも汎用性が高いが、製造コストが低く、陸戦性能が極めて高い。さらにズサはミサイルを大量に装備し、ブースターユニットで大気圏内飛行も

可能である。ズサの任務はガルスJの後方及び上空からの支援で、ブースターとミサイルパックを除去すれば格闘戦にも対応できた。

第2の系統が宇宙戦・コロニー専用の主力機であるガザシリーズである。ガザCの他に格闘戦性能向上型のAMX-1006ガザD、爆撃戦能力を有するAMX-1008ガザウムがある。TMSとしては生産性が高く、攻撃力、防御力共に高い。

また、TMAの開発も行い、AMX-101X・ジャムル・フインを前線に送っている。だが、このMAはMA-108ビ

グ・ザムの後継機で、全高40メートルクラスの大型機になる予定であったが、地球侵攻作戦に間に合わず、メガ・ブースターと組み合わせた簡易TMAとして再設計された。

の設計思想を受継ぎ、見事に昇華させている。

トである。

ネオ・ジオン製MSには、

騎士用MSがある。これは工

リート軍人用のカスタムメイ

ドで、1機しか存在しない。

本来は何らかの理由で量産機

を断念した試作機で、それを

ベースに数々の改造、装飾を

加えて、専用機としたものだ。

単機のMSは敵側にデータを

知られにくいため、戦術的に

はかなり有利に展開可能だ。

確認された機体は、AMX-103ハ・ンマ・ハンマ、AMX-1104R・ジャジャの2機で、量産機を大幅に改造し

たAMX-1110SザクIII改

もその範疇に入る機体といえよう。

第3の系統が第2世代ながら重武装、高機動力を有する汎用重MSで、代表機はAMX-1009ドライセンとAMX-1110ザクIIIである。両機ともかつての公国軍の名機

トである。

ネオ・ジオン製MSには、

騎士用MSがある。これは工

リート軍人用のカスタムメイ

ドで、1機しか存在しない。

本来は何らかの理由で量産機

を断念した試作機で、それを

ベースに数々の改造、装飾を

加えて、専用機としたものだ。

単機のMSは敵側にデータを

知られにくいため、戦術的に

はかなり有利に展開可能だ。

確認された機体は、AMX-103ハ・ンマ・ハンマ、AMX-1104R・ジャジャの2機で、量産機を大幅に改造し

たAMX-1110SザクIII改

もその範疇に入る機体といえよう。

機ともかつての公国軍の名機

# MS Development History

AMX-102 ザクII

AMX-009 ドライゼン

AMX-008 ガ・ゾウム

AMX-006 ガザD

AMX-110 ザクIII

AMX-101 ガルスJ

AMX-003 ガザC



## 6. 第4世代MS

第4世代MS——それはNT対応MSである。さかのばれば一年戦争時代の、マグネットコーティング処理を施されたRX-78ガンダム、そ

の発展型RX-78-1NTアレックスもその範疇に入ってしまうため、さらに条件をくわえよう。まず、核融合炉の飛躍的出力向上。そして固定武装としての高出力型メガ粒子砲の搭載である。さらにサイコミュも安全性が高く、低レベルのNTパイロットでも操縦が可能であることも含まれる。

この条件をあてはめると、

MSN-1006ガンダム、  
PMX-1003ジ・Q・AM  
X-1004キュベレイはわす

かに条件に満たない。この3機が開発された時点では、第4世代MSを産む技術的土壤が足りなかつたのだ。また、通常人のNT能力を強化するマインドコントロール技術も未完成であつた。

ネオ・ジオンが生んだAM-X-014ドーベン・ウルフとAMX-1105ケーマルクの2機が第4世代機と呼ぶに値するMSだ。特にドーベンウルフは強化されていない通常パイロットでも、インコムや有線制御式メガ・アームといつたサイコミュ兵器を使用可能であつた。ゲーマルクはドーベン・ウルフより高いNT能力を必要とするが、キュベレイなどよりよほど扱い易く、

その程度のパイロット強化は不可能ではなくなつていて、このサイコミュ技術の向上は、グリップ戦争の際、破壊された宇宙を漂流するサイコガンダムMK-IIを回収し、連邦軍の技術を吸収できることによる。

また、エウーゴ側もただ1

機のみ第4世代MSを開発、完成させた。それがMSN-1

0102ガンダムである。

Zガンダムにはバイオセンサーと呼ばれる、簡易サイコミュが搭載されていた。これは

Zガンダムにはバイオセンサーと呼ばれる、簡易サイコミュが搭載されていた。これは

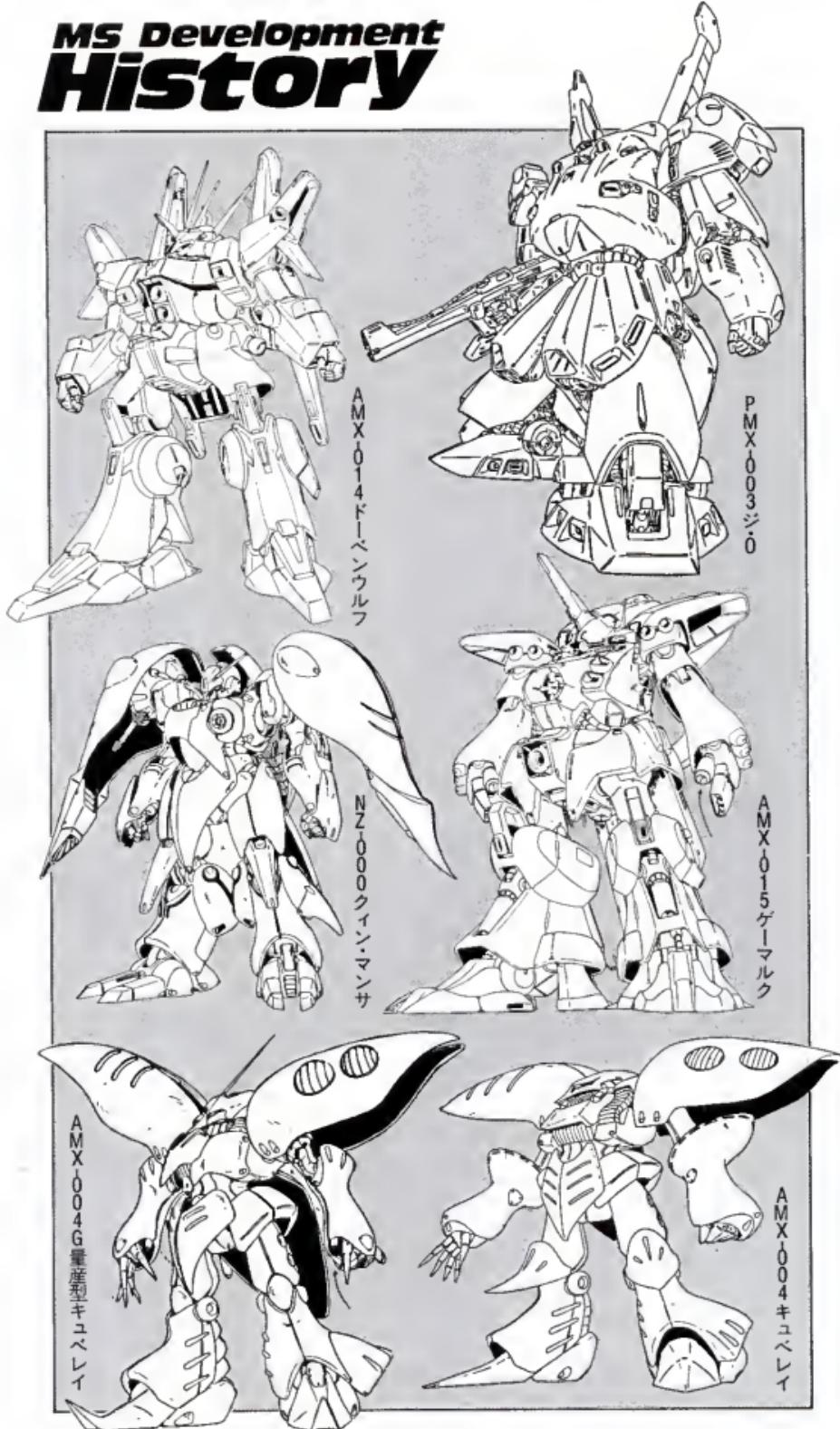
脳波制御によつて操縦系のサポートを行い、機体の追従性を高めようというシステムで、

NT能力の低いパイロットが搭乗した場合、保護機構によりシステムは作動しない。Z

ガンダムには改良型が搭載された。これはZ-Zのコア・ブロツクシステムを利用し、自由に換装が可能なコア・ファイターごとにパイロットの脳波パターンを入力し、パイロットが操縦した場合、元のパイロットのクセがついていて乗りにくいという印象を受ける。

その他、Z-Zは上半身のコア・アトープと下半身のコアベイスにそれぞれ核融合炉を搭載し、出力はZの3倍強である。頭部にはメガバズーカランチャーフ級の出力を誇るハイ・メガ・キヤノンを装備し、火力でもMA級に達している。合体・変形システムによる多用途性、汎用性も注目に値する

# MS Development History



# MS Dictionary (1)

## アーマード・ガンダリウム

アーマー [Armor] 装甲。この時代のMS用装甲はガンダリウム系合金が導入され、飛躍的に耐弾性が向上している。ただし、ビーム兵器に対しては無力であった。だが、耐ビームコートイングの技術研究が進み、メガ粒子の運動エネルギーを減衰させることができなくなつた。(熱エネルギーによりコートイング面が気化するため、効果は完全ではない)

インジエクション・ポッド [Injection Pod] 脱出ポッド。戦後使用されるMSは全て、バイ

ロット保護のため、コックピットブロックが機外に脱出するシステムが採用されている。

ただし、ポッド 자체の移動ではなく、再びコアブロックシステムが見直された。

エネルギー・パック [Energy pack] ビームライフル用カートリッジ。超小型のエネルギーCAPであり、ミノフスキ粒子が縮退しメガ粒子になる直前の状態で保持蓄積されている。予備のパックを多數携帯することでMSの射撃回数は増大する。

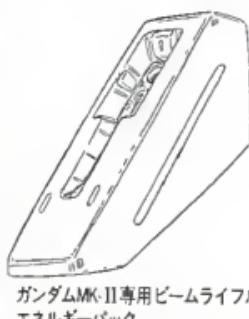
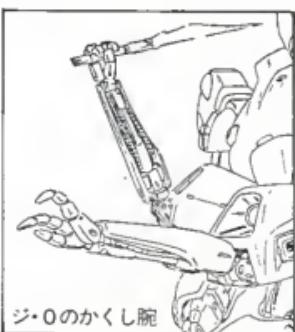
かくし腕 [Secret hand] MX-003ジン・0やAMX-014ド・ベンウルフには、本来のマニュピレータとは別に腕が装備されている。

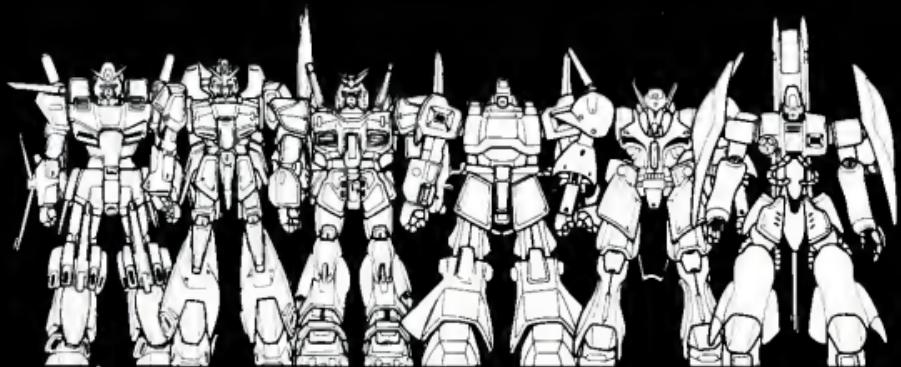
かくし腕 [Secret hand]

MX-003ジン・0やAMX-014ド・ベンウルフには、本来のマニュピレータとは別に腕が装備されている。

格闘戦時に敵の意表をつくためのものだが、効果は極めて高い。この時代、MSの技術はコンピュータにより高度なバツクアップを受け、反面敵のデータが入力されていないと対応がきかなくなつていて。そのためMSの外観や戦闘データからその性能を分析。入力するハード&ソフトウェアが進歩したが、それに対抗する偽装設計も高度化している。

遮断し、耐熱性も従来の合金よりはるかに高い。硬度が極めて高く、MS用装甲材として採用されている。戦後、改良が進み「J型」が広く使用されている。





モビルスーツ

# MS性能比較

An ability symmetry of MS.

●MSやMAの性能は外観からは判断しにくいものである。今回、初めて「Ζガンダム」「ガンダムZZ」に登場したMS・MAのスペック・データをリスト化した。

illustration by Hideki Hoshino.

# 1. 連邦軍/エウーゴ製モビルスーツ

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
62,000	8,800	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル
64,800	8,900	120mmマシンガン、ビームライフル、ビームサーベル他
126,400	9,200	ビームライフル、サーベル、ミサイル装備専用シールド
81,200	11,300	60mmバルカンポッド、ビームサーベル×2、他
74,800	11,500	バルカン1・ファランクス、ビームピストル×2、クレイバズーカ他
72,800	10,020	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
74,800	11,200	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
74,600	10,900	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
80,400	9,870	60mmバルカンポッド、ビームライフル、ビームサーベル×2
74,000	11,700	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ツインビームサーダー他



RMS-099 リック・ディアス

RX-110 ガブスレイ

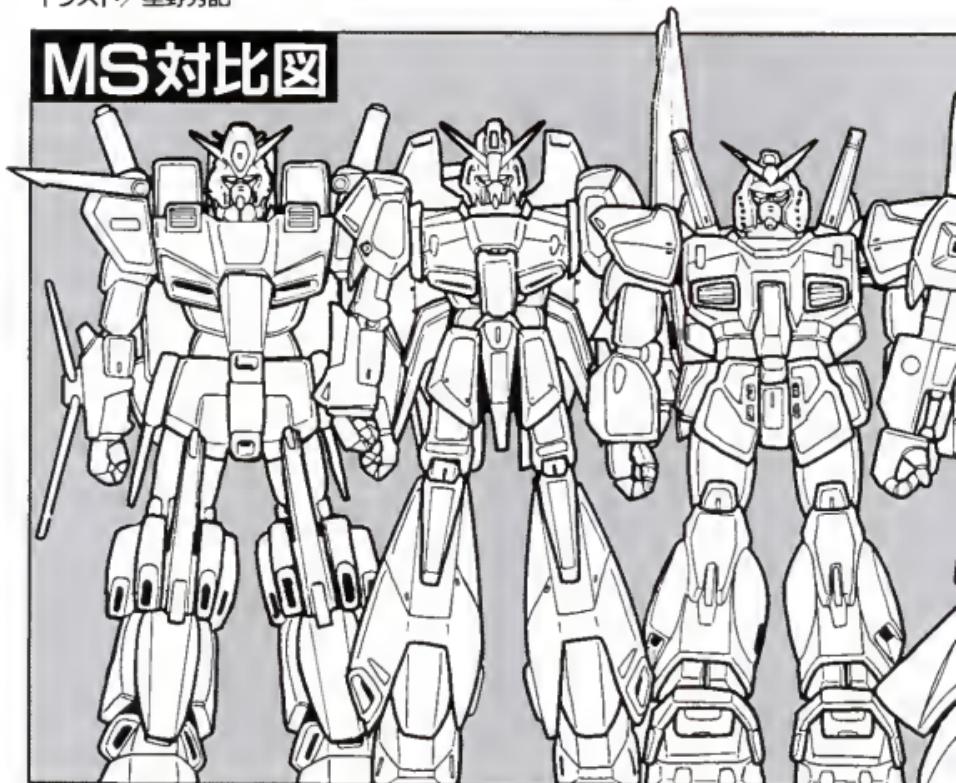
AMX-001 ガザC

# MS・MA性能比較

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
ジムII	RGM-79R	19.1	18.1	40.5	58.7	1,518
ハイザック	RMS-106	21.2	18.0	38.7	59.6	1,428
ガルバーレディβ	RMS-117	19.0	19.0	36.3	56.9	1,507
ガンダムMK-II	RX-178	18.5	18.5	33.4	54.1	1,930
リックディアス	RMS-099	18.7	18.7	32.2	54.7	1,833
ネモ	MSA-003	19.5	18.5	36.2	55.6	1,620
百式	MSN-100	19.2	18.5	31.5	54.5	1,850
マラサイ	RMS-108	20.5	17.5	33.1	59.4	1,790
バーザム	RMS-154	24.2	19.4	40.4	62.2	1,670
ディジェ	MSK-008	23.0	18.4	33.9	51.8	1,892

イラスト／星野秀記

## MS対比図



MSZ-010 ZZ ガンダム

MSZ-006 Z ガンダム

RX-178 ガンダムMK-II

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
86,400	9,890	メガ粒子砲×2、ビームサーベル×2
105,000	11,500	ビームカノン×2、バルカンファランクス、ビームビストル×2
109,000	10,900	ミサイルポッド×2(30発)、2連装ミサイルランチャー×2他
64,800	26,000	なし(作戦内容に応じ、ハイザック用携帯火器を装備)
8,800	4,600	サブロックガン、サブロック×14
77,000	11,300	アームビームガン×2、ビームサーベル×6
598,000	10,900	フェーダーインライフル、80mmバレカン砲、ビームサーベル×2
59,800	10,020	ビームガン×2、ビームライフル、ビームサーベル×2、海ヘビ
112,600	14,000	60mmバレカン砲×2、グレネイドランチャー×2他
101,000	16,200	ハイメガキャノン、ダブルキャノン×2、ダブルバレカン他
76,000	10,100	2連装ビームガン、メガビーム砲×2、拡散ビーム砲×2他
76,000	10,100	メガ粒子砲装備専用シールド、グレネイドランチャー×6他
135,400	11,300	ビームライフル、ビームソート×4

## 2. ネオ・ジオン旧公国軍製モビルスーツ

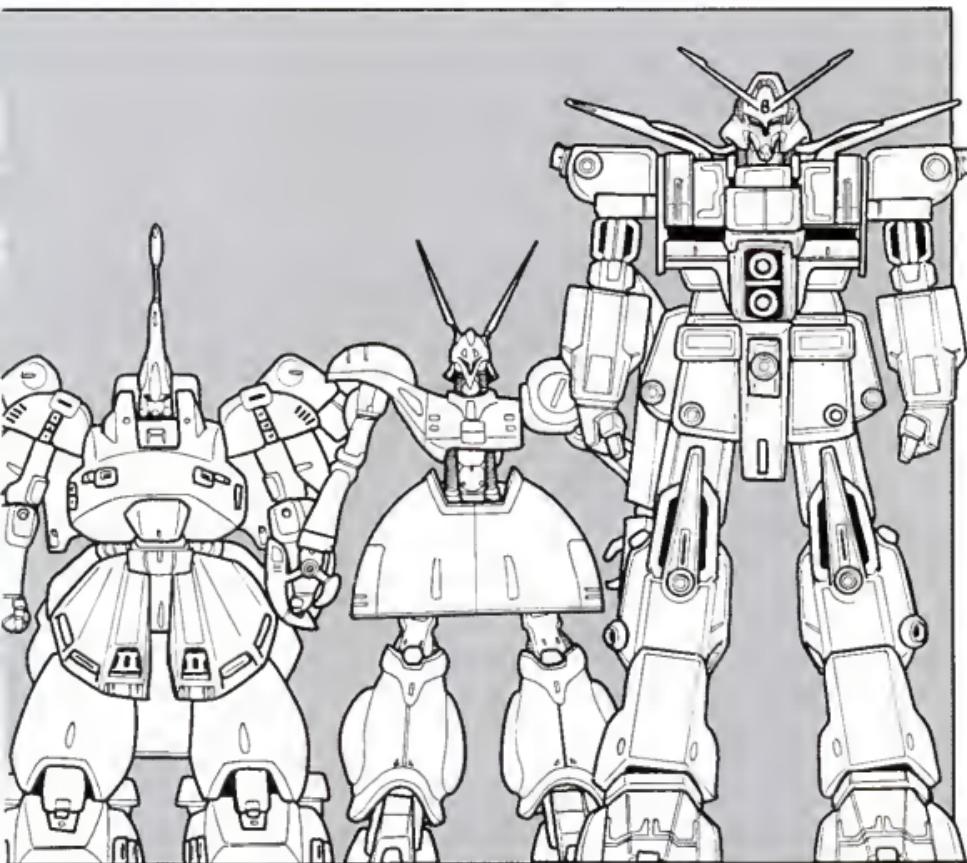
スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
79,200	10,600	ナックルバスター、ビームガン×2、ビームサーベル
61,600	10,900	ビームサーベル(ビームガン)×2、ファンネル×12
61,600	10,900	ビームサーベル(ハンドランチャー)×2、アクティブカノン×2、ファンネル
98,200	10,800	5連装ミサイルランチャー×2、ビーム砲×2、ナックルバスター他
92,280	11,200	ハイパーナックルバスター、9連装ミサイルランチャー×2他
107,800	13,100	ハンドキャノン×2、トライブレード×2、ビームランサー他
172,600	9,700	ビーム砲×3他
211,500	9,700	ビーム砲×2、30mmバレカン砲×2、ハイドポンプ投下機他
87,300	12,000	ビームカノン×2、対艦ミサイル×2、ハンドビーム砲×2他
92,400	11,700	マザーファンネル×2、チルドファンネル×28他
121,900	11,200	フィンガーランチャー、ミサイルポッドガン他
120,400	10,800	ミサイル(⑩22⑪6⑫38)ビームサーベル×2

# MS・MA性能比較

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)	
バイアラン	RX-160	23.1	18.6	34.2	54.7	7,760	
シュツルム・ディアス	RMS-009B	28.0	18.0	32.5	61.3	1,920	
ジムIII	RGM-86R	18.6	18.0	38.6	56.2	1,560	
アイザック	RMS-119	19.2	18.0	41.6	73.5	1,430	
ザク・マリナー	RMS-192	19.4	17.5	48.8	68.3	1,440	
メタス	MSA-005	26.0	18.1	27.8	52.4	1,640	
ガブスレイ	RX-110	18.5	18.5	32.6	56.2	1,800	
ハンブラビ	RX-139	19.9	19.9	34.6	56.9	1,540	
Zガンダム	MSZ-006	18.7	19.8	28.7	62.3	2,020	
ZZガンダム	MSZ-010	21.11	19.86	32.7	68.4	7,340	
バラス・アテネ	PMX-001	27.4	21.6	65.0	80.0	1,790	
ボリノーク・サマーン	PMX-002	19.9	19.9	31.6	56.2	1,760	
ジ・0	PMX-003	28.4	24.8	57.3	86.3	1,840	

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)	
ガザC	AMX-003 (MMT-1)	22.5	18.3	40.8	72.5	1,720	
キュベレイ	AMX-004	18.9	18.4	35.2	57.2	1,820	
量産型キュベレイ	AMX-004G	18.9	18.4	35.2	62.1	1,820	
ガザD	AMX-006	23.66	17.0	28.7	68.4	2,140	
ガ・ゾウム	AMX-008	18.56	18.0	31.6	58.2	1,840	
ドライセン	AMX-009	26.4	22.0	36.7	66.8	2,380	
ザクIII	AMX-011	23.9	21.0	44.2	68.3	2,150	
ザクIII改	AMX-011S	25.3	21.0	44.3	71.4	2,860	
ドーベンウルフ	AMX-014	25.9	22.0	36.8	74.5	5,250	
ゲーマルク	AMX-015	25.5	22.0	46.3	78.3	8,320	
ガルスJ	AMX-101	21.11	19.5	52.7	78.3	2,840	
ズサ	AMX-102	25.11	15.0	23.7	74.5	1,820	

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
258,200	14,200	3連装ビーム砲×2、メガ粒子砲・ハイドポンプ投下機付シールド他
75,040	13,700	銃剣付ビームライフル、3連装ミサイルランチャー他
75,040	12,200	ビームライフル、メガ粒子砲付シールド、ミサイル×6他
6,800	12,300 (水中7,600)	レーザービーム、ソニックブラスト、ミサイル×8
76,400	10,300	ビームキャノン(ビームサーベル)×2、ヒートランス他
104,300	8,800	30mm2連装バルカン砲×2、360mmバズーカ砲
122,700	8,800	30mm2連装バルカン砲×2、ビームカノン、ヒートホーク他
150,800	8,700	グレネイドランチャー×2、8連装ミサイルランチャー他
84,000	8,800	60mmバルカン砲×2、270mmロケットランチャー、120mmマシンガン



PMX-003 ジ・O

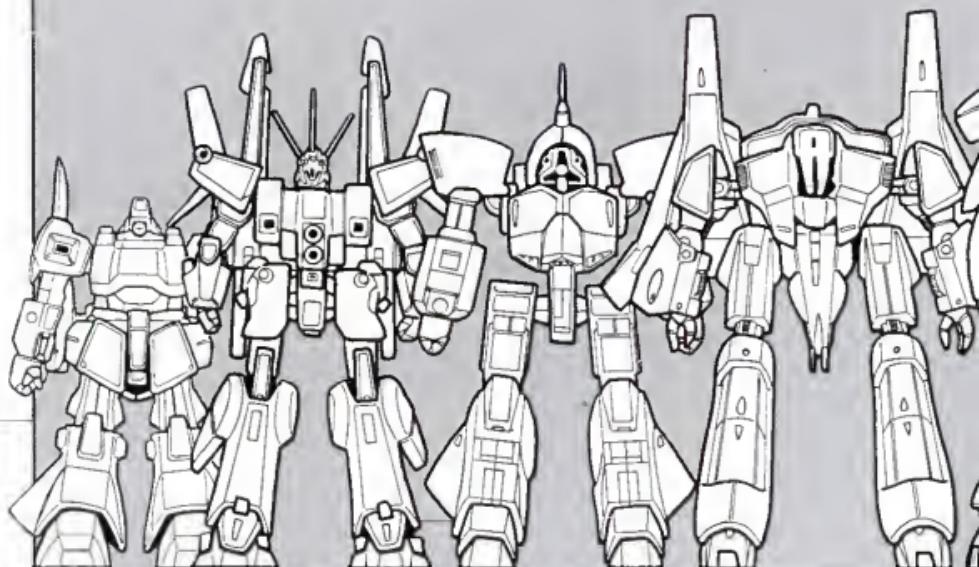
NRX-055 バウンド・ドッグ

MRX-010 サイコガンダムMK-II

# MS・MA性能比較

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)	
ハンマ・ハンマ	AMX-103	24.03	21.5	40.3	79.4	3,820	
R・ジャジャ	AMX-104	23.55	20.0	36.4	67.5	2,320	
ハウ	AMX-107	22.05	18.5	34.7	67.5	2,410	
カブール	AMX-109	16.5	16.5	38.7	57.5	3,680	
ガズアル(ガズエル)	AMX-117R (L)	22.7	79.0	40.5	70.8	2,130	
ドワッジ	MS-09G	19.3	18.2	43.5	81.7	1,440	
ドワッジ改	MS-09H	19.3	18.2	43.5	87.4	1,440	
リゲルグ	MS-14J	23.1	21.0	43.7	82.6	1,890	
ディザート・ザク	MS-060	19.6	18.5	44.7	69.5	1,440	

## 重MS・MA対比図



RMS-099 リック・ディアス

AMX-014 ドーベン・ウルフ

NRX-044 アッシマー

PMX-000 メッサー

### 3. Z-MSV登場モビルスーツ

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武装
124,500	11,300	2連装ビームガン、60mmバレカン砲×2、グレネイドランチャー×2
102,200	11,200	2連装メガビームガン×2、ビームサーベル×2他
93,500	11,500	バレルスレーバー砲×2、ビームガトリングガン×2他
68,600	12,050	ビームキャノン、60mmバレカン砲×2、ビームサーベル
64,600	9,200	ビームキャノン×2、ビームライフル、60mmバレカン砲×2他
83,000	12,000	ハイメガキャノン、ビームサーベル×2
99,000	14,000	ビームライフル、ビームサーベル×2
107,500	11,500	2連装ビームキャノン、ビームサーベル×2、ビームライフル
73,700	11,900	メガビームライフル、ビームサーベル×2
114,300	14,000	メガビームライフル、ビームライフル×2

#### 型式番号解説

①連邦軍／一年戦争終結後、連邦軍に所属するMSは、全て型式番号を統一した。基本的に英文字は試作機(RX)と量産機(RMS)を区別する。数字は開発基地(上2ケタ)と開発順番(下1ケタ)を示す。基地のコードは以下の通り、基地のコードは以下の通り、

機種で、例外は大戦中の機体の改造もビルドMSのナンバーを踏襲している。MS-17B-RMS-1の場

18 17 16 15 14 13 12 11 10  
19 : : : : : : : : :  
旧ア・バオア・クリーナー・ギニアロ・グランダ  
軍事機密のため不明  
キリマンジャロ・グリップス・ソロモン・ルナII

### 4. モビルアーマー

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武装
96,000	11,300	メガ粒子砲×2、9連装ミサイルポッド×2、グレネイドランチャー×2他
68,200	10,200	ビームライフル
183,000	13,000	メガ粒子砲×2、ビームサーベル×2
84,000	10,200	拡散メガ粒子砲×3、ビーム砲×10、小型メガビーム砲
244,240	16,230	サイコミュ式ビームソード×2、レクレクタービット×20他
145,000	9,840	ビームライフル、メガ粒子砲
82,600	13,400	ハイメガキャノン、2連装ミサイルランチャー×2、ビーム砲×2
287,100	14,800	メガ粒子砲×2、ファンネル×30、ビームサーベル×2

# MS・MA性能比較

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
フルアーマーガンダム MKII	FA-178	—	18.5	53.2	74.3	1,930
リック・ディアス改	MSA-099-2	24.05	18.52	30.7	58.2	1,850
百式改	MSR-100S	19.2	19.2	39.2	63.6	2,015
ネモIII	MSA-004K	21.4	18.5	45.4	56.1	1,620
ガンキャノン・ディテクター	MSA-005K	18.5	17.3	34.5	54.5	1,780
メタス改	MSA-005S	—	18.3	34.9	50.9	2,000
プロトZガンダム	MSZ-006×1	—	19.6	29.9	52.1	1,790
ガンダムMK-III	MSF-007	22.0	19.5	32.1	48.2	2,022
量産型Zガンダム	MSZ-007	—	20.4	30.9	48.3	1,830
ZII	MSZ-008	—	18.3	31.1	69.7	2,130

合は開発基地と試作機コードを組み合わせる。④M（ムラサメ研）RX（試作機）—09（9番目）サイコガンダム

②エウーゴ／試作機を問わずMSをつけ、その後にA（アナハイム社）をつけ。他にもZ（ロジエクト）N（ナガノ設計主任）などがある。数字コードは開発順である。

③不才・ジョン／A（アクシズ）M（モビルスーシズ）X（試作型）—000（開発順）が基本。000番代と100番代の2種類があるが、開発部門が分かれているためだ。

④ジュピトリス／これは単純に設計者であるパブティマス・シリコニの頭文字を入れ、P MXと示す。後は開発順である。

愛称	型式番号	全高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
メッサーラ	PMX-000	30.3	23.0	37.3	89.1	4,900
アッシマー	NRX-004	23.1	19.6	41.1	63.8	2,010
キャブラン	ORX-005	25.2	19.8	50.7	94.2	3,040
サイコガンダム	MRX-009	41.0	40.0	214.1	388.6	33,600
サイコガンダム MK-II	MRX-010	40.74	39.98	187.8	283.9	19,760
パウンドドッグ	NRX-055	29.7	27.3	82.7	129.4	2,260
ジャムル・フィン	AMA-01X	17.2	15.0	24.7	58.5	4,750
クイン・マンサ	NZ-000	40.0	39.2	143.2	264.7	21,370

# MS用語辞典(2)

## グレネイド・ランチャーダミー

グレネイド・ランチャーダミー [grenade launcher dummy]

手榴弾発射器。

弾体自体に推進力はなくランチャーナー内の炸薬の爆発力で撃ち出されるが、光学探知方式誘導装置を内蔵した小型ミサイルを装備する例が多く見られた。コンパクトであるため、かくし武器として用いられる。

サイコミュー [psycomu] 脳波制御システム。戦後、連邦

軍、ネオ・ジオン両方で研究が進み、さまざまな面で改良された。第一に掲げられる改良点は、コンバクト

化である。一年戦争時はMAクラスでなければ搭載が不可能であったが、現在ではMSに搭載できるようになつた。ソフトウェアの面ではバイロットの強化人間化がある。これはマインドコントロール(精神改造)によって人工的NTを育成する技術で、人格や記憶

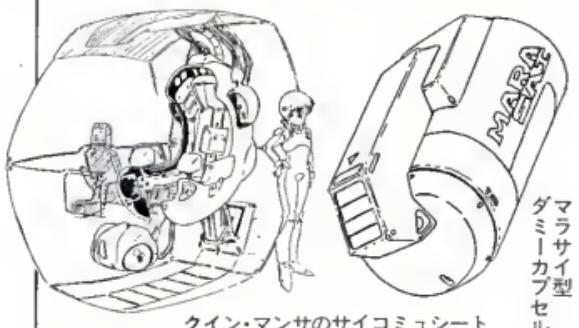
サイコミュー・コントローラー

[Psycomu controller] MS用サイコミュー・インターフェース。機外からMSやファンネルを制御することができる。

サイコミュー・シート [Psycomu suit] サイコミュー対応型リニアシート。

接触通信 [Direct communication] MSのマニュピレータを他のMSの装甲に接触させ、震動によって音声を伝達する通信方式。別名「お肌の触れ合い通信」。

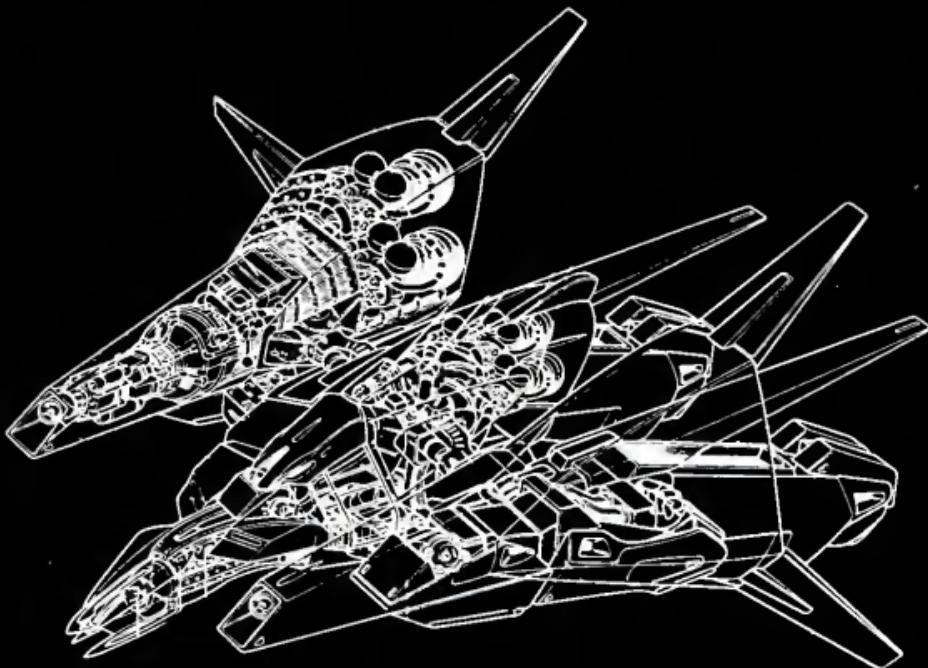
ダミー [dummy] ミノフスキ



クイン・マンサのサイコミュシート

マラサイカ型  
ダミーカブセル

粒子散布下用欺瞞兵器。岩  
やMS、戦艦などを模した  
風船によって、敵の電子光学系センサーをあざむく。  
高度なダミーは、小型のア  
ボジモーターを装備し、本  
物と変わらない動き、赤外線  
反応を発する。



# ガンダム オフィシャル レポート

**GUNDAM Official Report.**

●一年戦争から7年間、TVでは空白の期間があ  
った。この間歴史はどのように流れていったか?  
そして兵器はどのように進歩していったか?  
その答えはここにある!

Illustration by Hideki Hoshino.

## 歴史

History

UC.0080~0089

戦後処理

UC (ユニバーサルセントリィ) 008

0年1月1日、人類初の宇宙大戦が終結した。中立コロニー、サイド6の仲介により、地球連邦とジオン共和国の間で終戦協定が結ばれたのである。

だが、真の意味での終戦ではない。アースノイド（地球居住者）とスペースノイド（宇宙移住者）の今後の関係を決める重大な協議が残されていたのだ。

連邦政府は共和国との条約締結に際し、あえて戦勝国の高圧的姿勢をとらなかつた。この大戦の責任は公国の指導者であつたザビ家にあつたとし、懷柔策に出たのである。この背景には連邦軍の弱体化があつた。すでに宇宙艦隊は

同年2月18日、異例の速さで両国間に終戦条約が結ばれた。その主な内容は、共和国の独立承認、国軍の

約締結にもたつき、中立で味方すれば、むしろ連邦が不利になる。

また、地球に残された旧公国軍勢力も恐しい存在であつた。

0080年6月、最後まで抵抗を続けていた公国軍アフリカ方面軍が降伏し、地球上でのジオン勢力は一掃された。だが、一年戦争以前から独立運動を続けていたFLN（アフリカ人民解放戦線）とジオン残党が結びつき、ゲリラ化していく。



History

# 歴史

## 年・月・日

## 事 柄

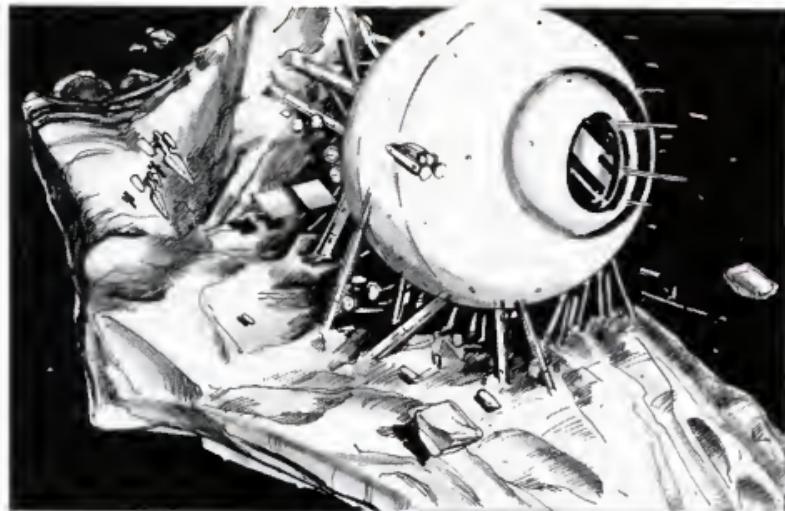
0080-01-01	月グラナダにて地球連邦とジオン共和国の間に終戦協定が結ばれる。
06	アフリカ戦線の旧公国軍、武装解除。
0081-03-28	旧公国軍の残党、小惑星基地アクシスに到着。
05-05	ドブル・ザビ夫人(ゼナ)、アクシスで病死。
10-05	連邦軍再建計画が連邦議会で可決。
0082-04	連邦軍、ニュータイプ研究機関の設立を決定。
0083-08-09	アクシスの指導者、マハラジャ・カーン死亡。
08-11	ハマーン・カーン(当時14歳)、ミネバ・ザビの攝政役に就任。
09	アクシス、新合金“ガンダリウム・ガンマ”の開発に成功。
12-04	ジャミトフ・ハイマン准将の提唱によるティターンズ結成。旧公国軍の残党狩り、活発化。
0084-06-17	連邦議会、地球圏の現状維持を発表。
09-21	シャア・アズナブル、地球圏に帰還。非合法で連邦軍の軍籍を得る。
0085-07-31	30パンチ事件。ティターンズがサイド2・30パンチに毒ガスを注入し住民を虐殺。A.U.G.E.運動活発化。
09-08	グリップス2、サイド7に建設される。
0086-02-06	アクシス、地球圏に向けて発進。
0087-03-02	エウーゴ、グリップス1より試作MS3機を強奪。
04-29	最後の木星エネルギー輸送船ジュピトリス地球圏に帰還。
05-11	エウーゴ、地球連邦軍ジャブロー基地を攻撃。
06-08	ティターンズ、ルナII宙域にグリップス2、旧アバオア・クーを移動。ゼダンの門完成。
06-29	ティターンズ、ホンコン・シティを襲撃。
08-10	ティターンズ、アポロ作戦発動。フォン・ブラウン市を襲撃。
08-17	エウーゴの指導者、ブレックス・フォーラ准将暗殺。
08-24	ティターンズ、グラナダにコロニー落としをかける。失敗。
09-21	ティターンズ、サイド2・25パンチに毒ガス攻撃。失敗。
10-12	アクシス、地球圏に帰還。
11-02	エウーゴ・カラバ共同軍、キリマンジャロの連邦軍基地を襲撃。
11-16	エウーゴ、ダカールの連邦議会を占拠。全世界にティターンズの悪を訴える。
12-07	ティターンズ、グリップス2のコロニーレーザーによってサイド2・18パンチを破壊。
12-14	ティターンズ、サイド2・21パンチを毒ガス攻撃。住民は全員死亡。
0088-01-18	アクシス、ゼダンの門の旧アバオア・クーを破壊。グリップス2を占拠。
02-02	エウーゴ、メールシュトローム作戦発動。艦隊戦によりグリップス2を奪回。
02-22	エウーゴ、アクシス、ティターンズの三つどもえの艦隊戦。ティターンズ敗北。コロニーレーザー破壊。エウーゴも戦力の大半を失う。シャア・アズナブル行方不明。
02-29	アクシス、ジオンの再興を宣言。ネオ・ジオンを呼称する。ネオ・ジオン、各サイドに制圧部隊を送る。
06-06	ネオ・ジオン、先遣部隊を地球に降下させる。
08-01	ネオ・ジオンの本隊、地球侵攻。
08-29	ネオ・ジオン、ダカールを占拠。旧公国軍、ティターンズ残党を配下に治める。
10-31	ネオ・ジオン、ダブリンにコロニーを落とす。
11-14	地球連邦政府、ネオ・ジオンにサイド3を譲渡。ネオ・ジオンの戦力、地球より撤退する。
12-25	ネオ・ジオン内でグレミー軍が反旗を翻す。
0089-01-16	アクシス、コア3に激突。
17	エウーゴ、ネオ・ジオンを制圧。第1次ネオ・ジオン抗争終結。ハマーン・カーン戦死。ミネバ・ザビ行方不明。
03-15	木星エネルギー輸送再開。ジュピトリスII発進。

存続 平和条約  
の締結などて戦  
費 保障問題は  
たな上げされた。

History

## アクシズの成立

共和国政府にしてみれば連邦の軟弱姿勢は幸運だった。



0083年、旧公国軍の残党は小惑星基地アクシズの居住スペース拡大のため、モウサと呼ばれるブロックを増設した。その内部には直径1000メートル、幅250メートルの遠心重力ブロック、さらに生産プラント、宇宙港などが作られた。

連邦はグラナダ基地とジオン本国軍の戦力が温存され込んでいると思いついたが、

実は旧公国軍の宇宙艦隊のおよそ50パーセントが共和国

国政府の命令を無視して、いすこかへ逃亡していたのである。この逃亡艦隊には1万人の軍人の他、その家族までが同乗していた。

この艦隊の指導者は、デギン公王の側近であった、マハラジャ・カーンで、ザビ家の血筋を唯一残す、ドズル・ザビの忘れ形見であるミネバと母親のゼナを連れ、ザビ家の再興を宿願として、地球圏を脱出したのである。艦隊の目的地は、アステロイドベルト帶にある小惑星基地『アクシズ』である。この基地は0072年に公国軍と月企業連合体のうちのエウーゴの母体)が宇宙資源採掘を目的として極秘に建設した恒久基地である。ソロモンやア・バオア、クーを地球圏に送り出し、大戦中も木星ヘリウム輸送船団

0084年ごろより反地球連邦運動が活発化し、各コロニーにおいて市民デモが行われた。それに対し連邦政府は、暴動防止を名目にコロニー駐留軍を出動させ、デモを妨害した。それによって、反連邦感情はさらに悪化していった。

の基地として運用された。0081年3月、旧公国軍の残党はアクシズに到着した。だが、総勢3万人に及ぶ移住者を収容できるはずもなく、



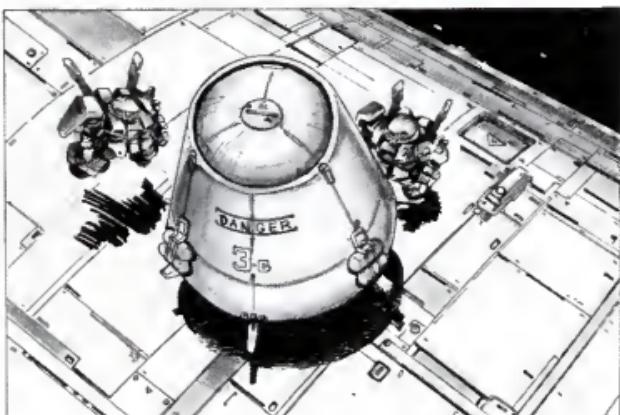
到着後2年余り、宇宙艦での生活を続けていたといわれる。アクシズはいわば鉄鉱石の塊であり、居住空間の拡張は困難を極めた。また、0083年には増設ブロックである「モウサ」の設置も完了し、ようやく永住のための準備が整つた。

その中でドズル・ザビ夫人、マハラジヤ・カーンがあいつて病死した。狭い閉鎖世界での指導者の不在は、集団の危機を意味する。0083年8月11日、マハラジヤの死から2日後、シヤア・アズナブルの推薦により当時14歳であったハマーン・カーンが、ミネバの攝政役に就任した。彼女の姉はドズルの愛妻だった。だが、血筋だけではなく、ハマーンには天才と呼ぶにふ

さわしい指導力、政治力、とりわけ民衆の心をとらえるカリスマ性がそなわっていた。就任後、彼女はまたたく間にアクシズを掌握し、マハラジヤ時代の生きるための建設から地球圈帰還、ザビ家再興のための軍備増強を目指した。シヤア・アズナブルは当初ハマーンの補佐として働いたが、政策上の意見の相違から、アクシズを離れることになる。名目は地球圈の情勢を探り、軍事技術を入手するためのスパイであったが、当時(0084年頃)ハマーンは体制を強固なものとするために、旧ザビ派の高官、軍人を肅清しており、身の危険を感じての逃亡と思えなくもない。

シヤアは、反連邦組織「エウゴー」に身を置きつつ、スイートウォーターハウスの高官、軍人を肅清して0088年2月29日、ハマーンは、ネオ・ジオンの再興を地球圈の全住民に宣言した。これが第1次ネオ・ジオン抗争の幕開けであった。

0085年7月31日、ティターンズは反連邦活動の拠点であったサイド2・30・バンチにG3ガスを注入し、住民3万人を虐殺した。表向きには伝染病による死亡とされ、連邦軍以外の一切の立ち入りを厳禁し、遺体は放置された。



History

## クリーブス戦争

一年戦争の終戦条約においての連邦政府の軟弱な姿勢は、

アースノイドからも強い不満が生じた。それがジヤミトフ・ハイマン准将を首魁とする“ティターンズ”に力を与える土壤となつた。

ティターンズは優れた軍人による地球圏統制を目的とした集団である。旧公国軍の残党やスペースノイドのテロリスト集団の僕滅を主任務として行動し、着実に連邦軍内で勢力を伸ばしていく。連邦

政府の官僚政治と違い、この組織はトップから末端の一兵士まで有機的に機能した。だが、このシビリアン・コントロール（文民統制）から離れた組織は、当然のことながら独裁者を生み出す危険性があ

つた。事実、ジヤミトフはティターンズによるスペースノイドの弾圧を始め、同時に連邦政府を形骸化した。反連邦組織エウーゴは、戦後スペースノイド間で急速に勢力を伸ばした。その背景には連邦政府の地球圏経営の縮小にある。前大戦でスペースコロニーは荒廃した。だが、コロニーは荒廃した。だが、連邦の管理下にあるコロニー公社は難民に対しての救済処置を行わず、さらに連邦政府は新たなコロニーの建設を行わないことを発表した。反連邦主義者たちは、これをスペースノイドを切り捨てる政策として猛烈に非難し、各地で市民デモ、抗議集会、サボタージュを開催した。

だが、ティターンズは、テロ防止を名目に軍を派遣し、組織の壊滅をはかった。そして、月31日、30バンチ事件が発生した。これはティターンズが反連邦運動熱が高まつたサイド2・30バンチを毒ガスによって市民を皆殺しにした事件である。この事件がきっかけとなり、エウゴは独自の軍隊を築き上げる。元々スポーツサーである月企業連合体は、巨費を投入し、連邦軍人をエウゴ軍に引き抜き、独自の艦船MSなどの兵器

0087年6月8日、ティターンズの宇宙軍事拠点“ゼダンの門”が完成した。続けてクリーブス2をコロニーレーザー砲へ改造する工事が開始された。（写真左がクリーブス2、右手前が旧公国軍の宇宙要塞ア・バオア・クー、左奥がルナII）





0087年11月16日、エウーゴはダーカルの連邦議会を武力占拠し、クワトロ・バジーナ大尉がティータンズの悪を全世界に訴える。彼はジオン公国の創始者ジオン・ズム・ダイクンの長子、キャスバル・レム・ダイクンであることを明かした。

を保有し始めた。その中心となつたのが、連邦軍のブレッカス・フォーラ准将と、アナハイム・エレクトロニクスのメラニー・ヒュー・カーバインであった。

0085年にティ

ターンズがサイド7

に軍事基地グリップス2を建設したこと

より、両軍の緊張は

急速に高まつていっ

た。0087年3月

2日、エウーゴは新

造巡洋艦アーガマと

新型MS、リック・

ディアス3機を投入

し、グリップス内を偵察、ガンダムMK-IIを強奪した。グリップス戦争の前触れともいえる事件であった。そして、同年5

月11日、エウーゴは連邦軍の本部であるジャブロー基地に向けMSによる機動部隊を衛星軌道上から降下させた。これが事実上の開戦といわれる。もつとも、ティータンズはすでに、ジャブローの戦力を他の基地に分散させており、エウーゴの攻撃とともに基地を核爆弾により爆破した。

グリップス戦争は前大戦と比較して大規模な艦隊戦はほとんどない。ティータンズがエウーゴの拠点的都市やコロニーに、毒ガス攻撃やコロニー落しなどを行い、それに対しエウーゴはMS部隊を出動させ、その攻撃を阻止するといった小規模な（あくまで前大戦と比べての話）戦闘が続いた。しかし、シャア・アズナブルが連邦議会でジャミミットの独裁の危険を訴え、ティタ

ンズをアースノイドからも孤立させることに成功してからは、ティータンズも温存していた牙をむき出しにした。その牙とはグリップス2を改造したコロニー・レーザー砲である。使用に踏み切つたもう一つの理由は、地球圏に帰還したアクシズ軍の存在であった。当初、ジャミットはサイド3の譲渡を条件として同盟を持ちかけたが、互いの不信から交渉が決裂し、ゼダンの門宇宙による三つどもえの決戦となつた。このグリップス戦役により、ティータンズは事実上壊滅し、エウーゴも戦力の大半を失つた。アクシズ軍はこの艦隊戦において全面衝突を避け、いわば漁夫の利を得た。しかし、シャア・アズナブルが連邦議会でジャミミット

# 宇宙戦艦

Space Battle Ship

U.C.0080~0089

## ティターンズ&連邦軍

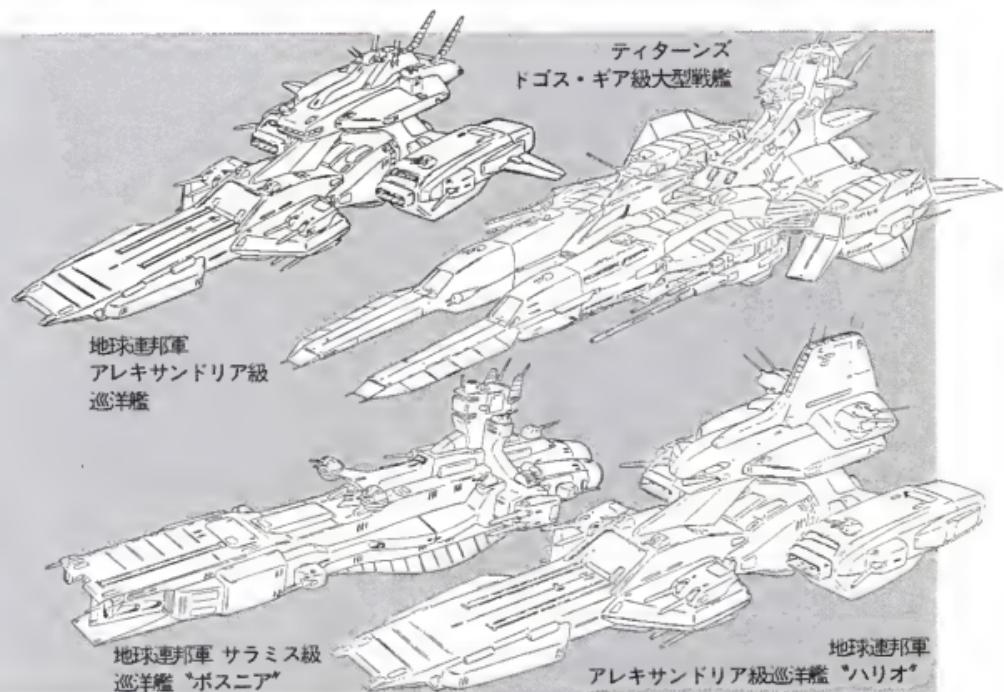
一年戦争以後、MSと同様に宇宙艦もまた長足の進歩をとげることになる。グリプス戦争と第1次ネオ・ジオン抗争に投入されていた宇宙艦は、およそ3世代に分類できる。

第1世代は前大戦時に建造された船体の改裝艦。MSデッキが増設され、武装も一部が改修されている。

第2世代はMS運用を前提に設計され、戦艦空母的性格を持つ。全般的に大型化の傾向が強い。

第3世代はさらに主砲にハイメガ粒子砲を装備し、バリュートにより大気圏突入、加えてミノフスキュー・クラフトにより離脱も可能な機動艦である。

● サラミス (改) 級巡洋艦



Space Battle Ship

# 宇宙戦艦

第1世代宇宙艦。MSデッキが艦首に増設された他には目立つ改装はない。連邦軍、エウーゴの主力艦。兵装は2連装砲×2、単装砲×5、2連装機関砲×2、ミサイル発射管×4。

●アレキサンンドリア級巡洋艦  
旧公国軍のムサイを参考に建造した第2世代宇宙艦。艦首上下にMSカタパルトデッキを持つ。2連装砲×4、単装砲×2。さらに2連装砲2門を増設したハリオタイプもある。

●ドゴス・ギア級戦艦  
ティターンズの旗艦として建造された超弩級戦艦。第2世代。MSデッキが8基という戦闘空母とよぶにふさわしい戦艦。武装は大型單装砲に2連装砲を組み合わせた主砲が3門、単装砲4門。その他

大小火器を多数装備する。

●ジュピトリス型輸送艦

木星ヘリウム輸送艦。宇宙船ドック、大型重力ブロックまでも備えた超大型艦。核バルス推進によつて地球・木星間を往復する巡航性能を持つ。

●輸送艦

連邦軍・エウーゴで使用されている中型艦。艦首と両舷にドッキングアームを装備する。武装は単装砲1門と対空機関砲2門。

●スーサキヤリア

MS輸送艇。(分類上はMSサポートシステム)輸送艇より足が早い。ビーム砲3門を装備する。

●防空戦闘衛星  
静止軌道上に設置された無人戦闘衛星。大型メガ粒子砲2門にミサイルランチャーを装備する。

## ティターンズ/連邦軍 宇宙艦艇

地球連邦軍 超大型輸送艦 "ジュピトリス"

地球連邦軍 輸送艦

地球連邦軍 戰闘衛星

Space Battle Ship

# 宇宙戦艦

エウーゴ

エウーゴの軍人の多くはティターンズの台頭に反発して決起したスペースノイド系連邦軍軍人である。決起に当つて艦ごと軍を抜けたケースが多く、宇宙艦も連邦軍のものをそのまま使用している。(敵見方の識別のため艦体色を変えてはいる)しかし、新造艦1隻は、いずれも当時の技術の粹を集めた傑作艦として名高い。これらの新造艦は月面のアナイム・エレクトロニクスで極秘のうちに建造されたものだ。

● アイリッシュ級戦艦

第2世代宇宙艦。アーガマと似た船体である。MSデッキは2基で、武装は2連装大

2隻は、いずれも当時の技術の粹を集めた傑作艦として名高い。これらは新造艦は月面のアナイム・エレクトロニクスで極秘のうちに建造されたものだ。

● アーガマ

第3世代の宇宙戦艦。アイリッシュ級よりも大型艦である。3基のカタパルトデッキの他に、着艦用デッキを艦尾に設置している。遠心重力ブ

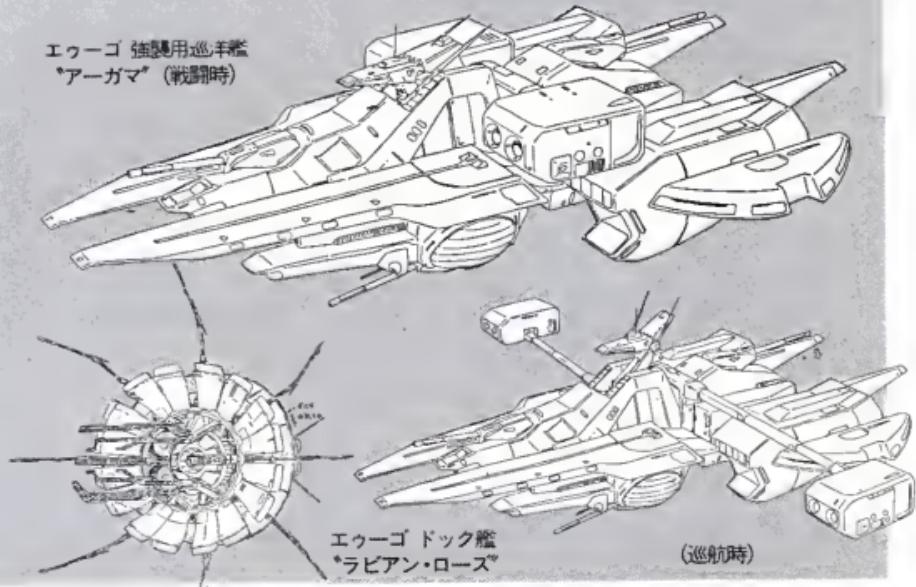
● 型砲2門、2連装砲5門。  
アーガマ

● アーガマ

第2世代と第3世代の中間的宇宙艦。強襲用機動型洋艦。バリュートの装備により大気圏突入が可能。また、ミノフスキ・クラフトにより大気圏内巡航が可能。非戦闘時には居住ブロックを回転させ、遠心重力を生み出す。機能的には前大戦時に建造されたペガサス級戦艦「ホワイトペガス」と同様のものである。

MSデッキは2基、武装は単装砲4門にメガ粒子砲2門。のちにハイパー・メガ粒子砲に換装されている。

## エウーゴ 宇宙戦艦



Space Battle Ship

# 宇宙戦艦

ロックは内蔵ドラム式になり、船体の強度も向上している。折りたたみ式の主翼はソーラー・ウイングで太陽電池板である。機能・性能・外観ともにホワイトベースに近くなつている。

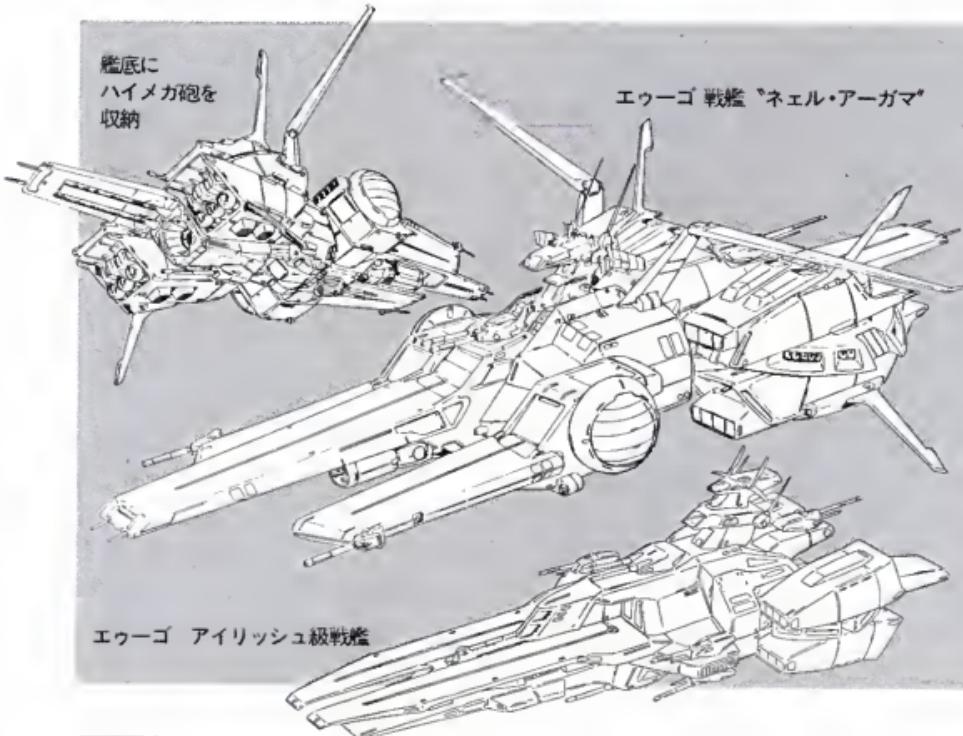
最大の特徴は艦底に装備されたハイパー・メガ粒子砲で、アーガマに装備されているものより、ひと回り大きい。威力はコロニーレーザー砲級である。他の武装は2連装大型砲2門に単装砲2門、単装副砲2門、メガ粒子砲2門などである。また、もうひとつ特徴としては、操艦砲の操作がコンピュータサポートによりプリッジから全てコントロールできることであろう。そのため、メカマン、パイロットを除けば、わずか5名程度で戦闘が可能である。なお、

「ネエル・アーガマ」とはアーガマに近きものという意味だ。

## ●「ラビアンローズ」

エウーゴの大型ドック艦。正面から見た形状がバラの花に似ていることからこの艦名が与えられた。

修理能力も高く、また多量の交換部品、補給物資を積載する。中央のドッキングアームは非常の場合ミサイルのように打ち出すことができる。もちろん爆薬はついていないが、質量が大きいため、直撃すれば戦艦といえど大ダメージを受ける。巡航速度はこの種のものとしては高い。エウーゴにもたつた1隻しかない。



# 宇宙戦艦

## ネオ・ジオン

アクシズ＝不オ・ジオンの宇宙艦は、連邦軍、エウーゴのものよりも質・量共に勝っている。これは前大戦の状況と変わらない。

### ● グワダン級戦艦

アクシズ艦隊の旗艦。旧公国軍のグワジン級戦艦はMS用カタパルトデッキがなかつたが、発展利手であるこの艦は、3基も備えている。しかも、下部の1基は回転式で360度のどの方向にでもMSを発進させることができる。武装は大型砲が2連装砲2門と、ドゴス・ギアと比較して火力が見劣りするものの、長距離巡航性能と加速性ではこちらが勝っている。

### ● グワンパン級戦艦

旧ムサイ級に変わる新造艦である。設計思想はそのまま継承しているが、MS搭載量、火力、巡航性能など大幅に向

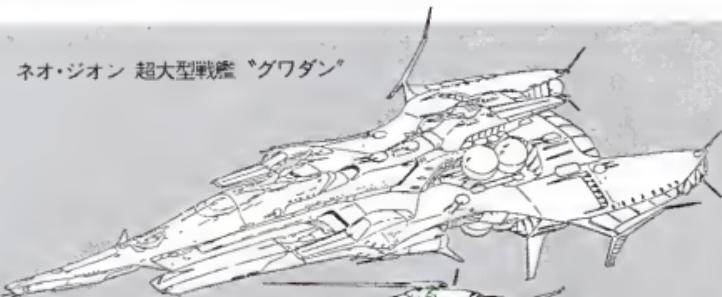
ジンが沈み、新旗艦サダラーンが完成するまで仮旗艦を務めていた。グワジンより小型。MSデッキは1基で、武装は単装砲6門にメガ粒子砲が3門である。

### ● サダラーン級機動戦艦

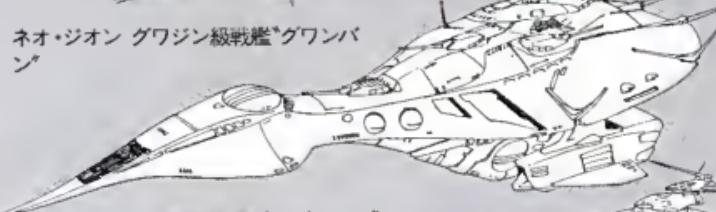
地球侵攻作戦用に建造された新旗艦。バリュート装備による大気圏突入能力、ミノフスキー・クラフトによる大気圏内巡航能力など第3世代宇宙艦としての条件を満たした設計である。武装も強力で、2連装砲6門、メガ粒子砲2門、ミサイル発射管6門、対空レーザー砲38門、MSデッキも2基設置されている。

### ● エンドラ級巡洋艦

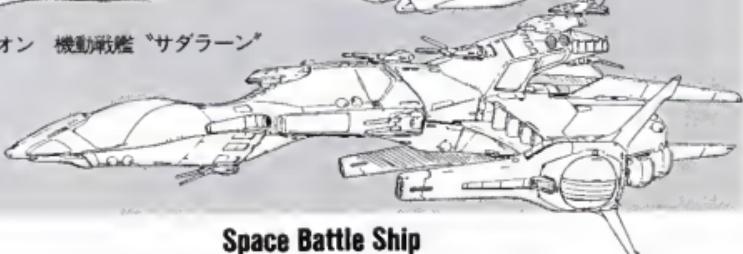
ネオ・ジオン 超大型戦艦“グワダン”



ネオ・ジオン グワジン級戦艦“グワンパン”



ネオ・ジオン 機動戦艦“サダラーン”



Space Battle Ship

# 宇宙戦艦

上している。中央ブロックの格納庫にはコンテナ状態でMSが収納されており、補給も容易となつた。また、MSも分解・組み立てが容易なようにならかじめ設計されている。ガルスJ型ならば6時間程度で完成する。武装はメガ粒子砲2門、単装砲5門、2連装砲1門。MSカタパルトは2基あり、一つのデッキから同時発進が可能だ。

## 共和国軍

ジオン共和国軍は、旧公国軍の改装艦を用いている。一年戦争の終戦条約の中には宇宙艦の制限があるため、新造艦が建造できないのだ。また、MSに関しては旧型のザクやリック・ドムを部分改修(コクピットのリニアシー)化して使用している。(の

ちにアナハイム社よりシュルム・ディアスを購入する)もとも、共和国軍はグリップス戦争当時弱体化しており、戦況に大きな影響力を持つていなかつた。グリップス戦争ではティエラーンズに味方し、第一次ネオ・ジオン抗争では、ネオ・ジオンに吸収されてしまった。

●ムサイ(改)級軽巡洋艦  
外装の一部を改修しただけで、大きな差はない。武装は2連装砲2門、ミサイル発射官2門、対空機関砲2門。艦尾にMSデッキ1基がある。

●チベ(改)級重巡洋艦  
艦首にMSデッキを増設している。武装は3連装砲2門、単装砲2門、対空機関砲14門である。共和国軍では最大の宇宙艦である。

## ネオ・ジオン/共和国軍 宇宙艦艇

ジオン共和国軍  
ムサイ(改)級巡洋艦

ジオン共和国軍 チベ(改)級巡洋艦

Space Battle Ship

# 機動兵器

Mobile Weapon

U.C.0086~0088

## 汎用重モビルスーツ

第2世代MSの駆動系は、内骨格式のムーバブルフレームを採用している。核融合炉のエネルギーをパルス状圧力に転換し各アクチュエータに伝達する流体パルスシステムは、そのままで、コンバータの性能向上により出力が増大し、高い剛性と柔軟性を合わせ持つムーバブルフレームの構造により、機動系の占める容積が約30パーセント減少している。その分をインテグラルタンク（内蔵式推進剤タンク）のスペースとし、結果戦闘時間の延長を果した。

推進システムは大半が熱核ロケットで、小型化により機体各所に分散配置が可能となり、反対に姿勢制御

用アボジモーターが大型化し、運動性は第1世代とは比較にならないほど向上している。また、補助推進システムであるバインダーが増設され、運動性向上に一役かっている。装甲はムーバブルフレームの採用により、構造材の役目を離れ、純粋な装甲板として用いられている。（頸部などは別）いわゆる浮き装甲（可動装甲板）が占める割り合いが増えたことで関節可動範囲が広がっている。

装甲はガンダリウム合金やセラミックなどによる複合装甲が主流だが、箇所により、セラミックなどによる複合装甲が用いられている。ガンダリウムを用いた装甲は、従来のチタン合金製装甲よりも軽量で瞬発的な外力に対する高い剛性を發揮する。

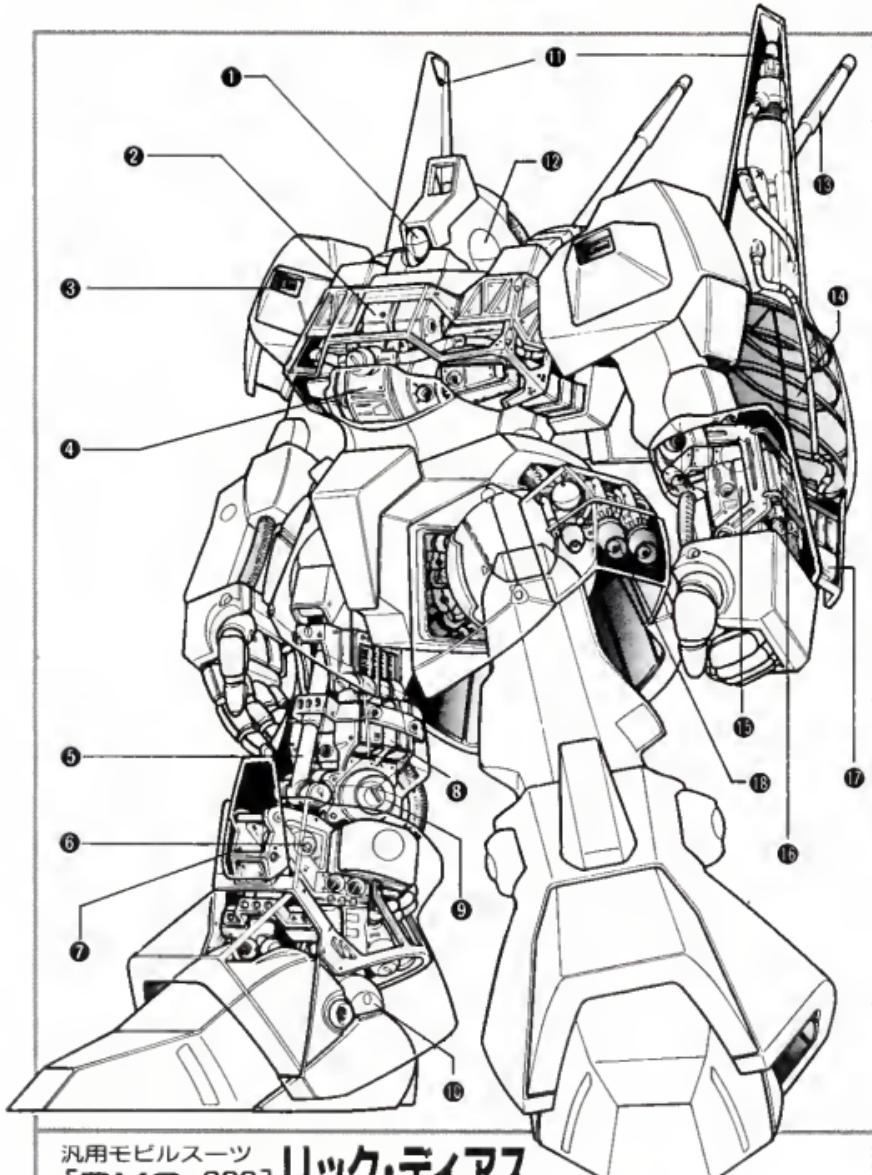
アボジモーターが大型化し、視覚センサーによって得た映像も任意に画像を拡大できる。また、ミノフスキーリンスキーによる映像の歪み

粒子の影響による映像の歪みを補正し現視に近いCG映像を再生する。

操縦システムでは360度からの加重（G）に対するシヨツクアブソーバーを果すように、リニアドライブによる浮き構造、リニアシートが開発され、前天周囲モニターと合わせて操縦性向上をとげた。

武装の面でもエネルギー・パックの開発により、ビームライフルの使用回数が増え、その出力も増大している。

Mobile Weapon



## 汎用モビルスーツ [RMS-099] リック・ディアス

【各部名称】①モノアイ ②メインコンピュータユニット ③スラスター・バーニア ④熱核反応炉 ⑤リニアアクチュエータ ⑥ロータリーエンコーダ ⑦脚部メインフレーム ⑧補助バッテリーユニット ⑨膝部ロータリーアクチュエータ ⑩足首部ロータリーアクチュエータ ⑪スラス

ターバーニアノズル ⑫コックピット ⑬ビームビストル ⑭バーニア燃料（反応剤）タンク ⑮腕部制御用コンピュータ ⑯腕部ジェネレータ ⑰バーニアバインダー・メインバーニア ⑱スラスター・バーニア

## 機動兵器

可変モビルアーマー

可変MAは第2世代MSと第3世代MSの中間的存在である。(開発史から見ての話で、むろん例外的機種もある)

ムーバブルフレームは、マグネットコートティング技術を導入し、短時間での変形が可能である。もともとフレームに使われているガンダリウム合金は磁性を帶いでいるため、一種のリニアドライブ機構として機能する。

推進システム、装甲、対敵  
視認システム、操縦システム  
は前出の第2世代MSと変化  
ない。(もちろん、ジエネレ  
タ出力、スラスター推力、装  
甲厚、火力など大型であるだ  
けに桁違ひだ)

ムとしてのムーバブルフレームの他に、ジエネレータと直結したメガ粒子砲がある。一年戦争時代のMAも、戦艦の主砲も直結型であるが、メガコンデンサーが開発され、在来型の10倍の出力を持つハイメガキヤノンの稼働が可能となつた。(この技術はさらに改良され、メガバズーカランチヤーや第4世代MSへと受け継がれていく)

また、MAは実験機的要素が強く、さまざまな技術革新の試みがなされている。MR-X-009サイコガンダム、MR-X-010サイコガンダムMK-IIは、旧公国軍が研究を重ねていたシステムがほぼ具現化した機体である。

対ビームバリアを形成するビーム偏向フィールド発生装置に、反重力システムである

ミニフスキー・クラフト、ジエネレータ直結型大型拡散メガ粒子砲などがそれである。MA形態は機動要塞そのもので、攻撃力は巡洋艦に匹敵する。では可変MAの1機種に絞つて機体構造を解説しよう。木星宙域での使用を前提に設計・開発されたPMX-1000メッサーラである。可変M Aとしては最も早い時期にレーピブルフレームを採用し、0・5秒でMA形態からMS形態に変形する。

メインスラスター・ユニットには熱核ロケットモーターを各3基、計6基搭載する。その先端には直結型メガ粒子砲（推定出力11・3メガワット）を装備し、自由に可動するジョイントアームにより噴射角及び発射角を変えることがで

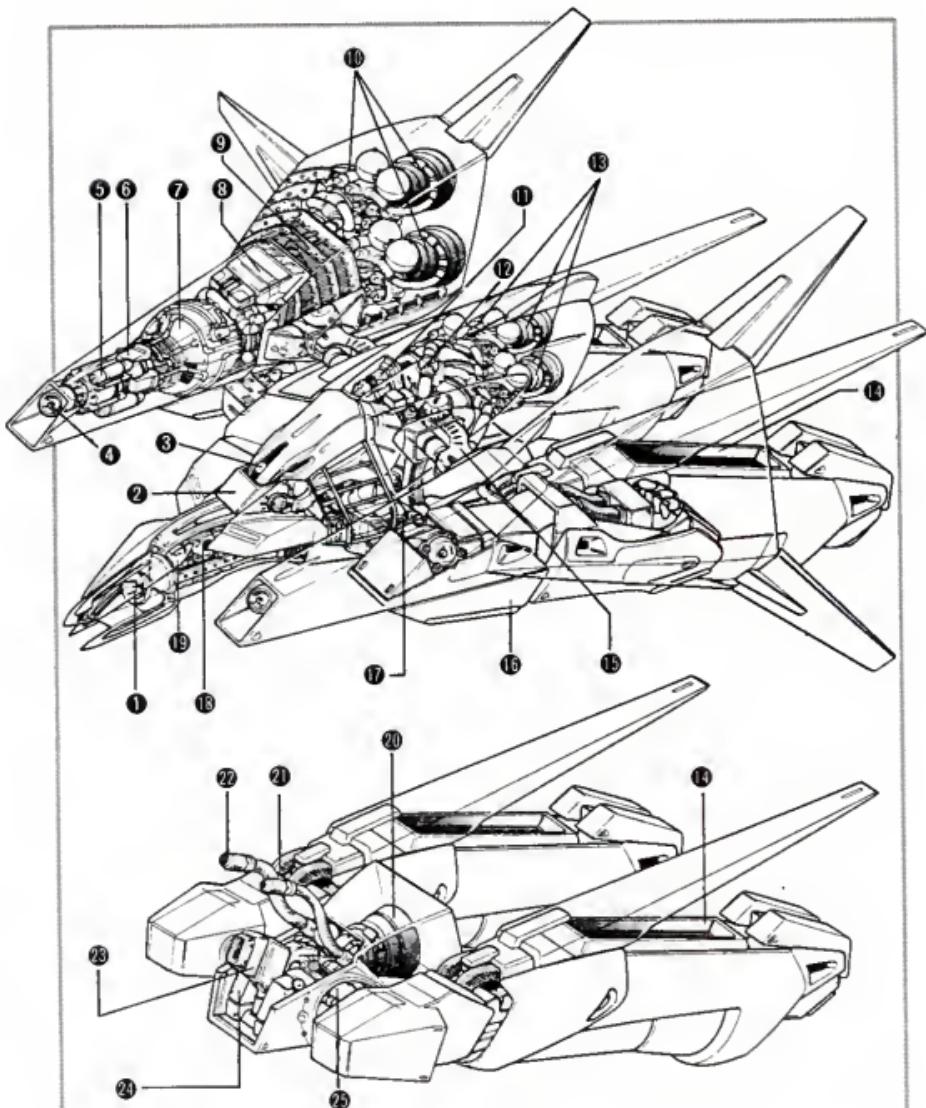
きる。他に脚部や尾部にもスラスターが搭載されているが、何故か連邦軍のデータにしている。総推力は19万6千キログラム（最低）に達するとと思われる。

武装は両肩に9連装ミサイルポッド（オプティカル・シリカー＝光学式誘導装置付ミサイル）にビームサーベル（出力0・5メガワット）が2本、それに腕部のウエポンユニット内には60ミリバルカン砲が4門、グレネイドランチャ一（装弾数3×2）、格闘戦用のバイスクローなどがある。

装甲材質は不明だが、独自の研究によりY型に近いガンダリウム合金を開発し、採用していたようである。

設計開発者はジュピトリスの指揮官、パブティマス・シリッコである。

### **Mobile Weapon**



## 可変モビルアーマー メッサーラ [PMX-000]

【各部名称】①レーダーアンテナ②コックピット③モノアイ④メガ粒子砲口⑤ビーム収束ユニット⑥ビーム加速ユニット⑦エネルギーCAP.⑧強制放熱装置⑨反応剤タンク⑩メインバーニア⑪後方カメラ⑫熱核反応炉⑬メインバーニア⑭MS形態時脚部メインバーニア⑮バーニアバ

インダー・アーム⑯マニピュレータ⑰マニピュレーター・ユニット・アーム⑯電子機器⑯アビオニクス⑰メインバーニア⑲動力系コネクター⑲制御系コネクター⑳胸部フレームジョイント⑳バッテリーパック㉑脚部ユニット・アーム

# 機動兵器

## 汎用モビルアーマー

第4世代MSは、メガコンデンサーによる直結型メガ粒子砲を多数搭載し、さらにサイコミュを操縦系に組み込んだ超高速機種である。ネオ・ジオン製のAMX-014ドーベン・ウルフは、NT能力が低いパイロットでも、サイコミュが使用できるように工夫が凝らされている。この機体のサイコミュ兵器は、腕部のハンドビームとパックパック内に搭載されたインコムだが、共に有線制御式（指揮官機のハンドビームはレーザー誘導式）で、パイロットの感應波を利用したミニットは、オールレンジ攻撃の使用法の他に、敵機に取り

付き高圧電流を送り込むショック兵器としても用いられる。

武装の充実は第4世代ではなく、ドーベン・ウルフは、ビームライフルを固定式メガ粒子砲に直結し、メガランチャーとして用いるシステムを採用している。ライフルの出力が12・5メガワット、胸部のメガ粒子砲2門が各5・3メガワット。これをメガランチャーとして使用した場合は、40・2メガワットの出力となる。もちろん大量のエネルギー消費と再充填のため、連射は不可能だが、一発でマゼラン級戦艦を撃沈する威力を持つ。

多くのビーム兵器にエネルギーを供給するジェネレータは、最大5250キロワットの高出力型で、メツサークの4900キロワットを上回

る。

メインスラスターは、パックパックに接続したバインダにて1基あたり32800キログラムの推力を持つ。また、バインダーにはアポジモーターを内蔵した可動式スタビライターを装備し、運動性を高めている。サブスラスターは股間と脚部にあり、脚部のラングドスラスターはユニットが回転し、姿勢制御の機能を持つ。アポジモーターは合計17基で標準より多く、頭頂高22メートルの重MSでありながら運動性は高い。

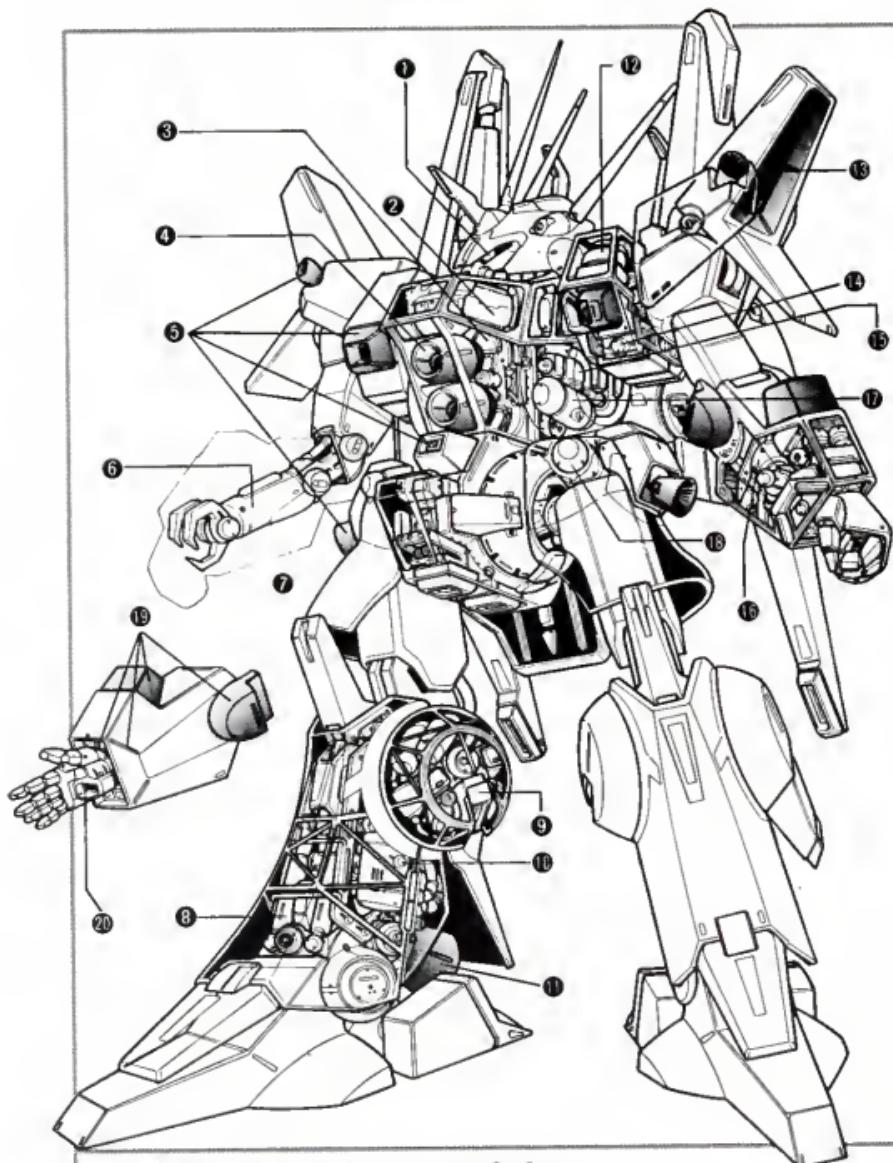
ドーベン・ウルフは、もともと連邦軍オーガスターNTで開発した、MRX-010型普及版であつた。その当時の愛称はG-1Vである。この機体をネオ・ジオンがティタ

ーンズ併合の際に接収し、頭部を始め、各部に改修を加えて、制式機として少數を量産した。なお、一般人用サイコミュは、ネオ・ジオン側の技術である。

同時に採用されたAMX-015ゲーマルクと比較されると、アポジモーターは17基で標準より多く、頭頂高22メートルの重MSでありながら運動性は高い。

第4世代MSは、運用面において第3世代可変MSに劣るが、その攻撃力は極めて高い。MSZ-010ZZガンダムのような両方の要素を満たす機体もあるが、このような超々高級機は例外といわねばならない。

# 機動兵器



## 汎用重モビルスーツ ドーベン・ウルフ [AMX-014] Doeben-Wolf

【各部名称】①モノアイ②コックピット③エネルギーCAP.④ビーム発射口⑤スラスター・バーニア⑥ライト・サブアーム⑦スラスター・バーニア⑧リニアアクチュエータ⑨スラスター・バーニア⑩バーニア用反応剤タンク⑪脚部メインバーニア⑫サ

ブジェネレータ⑬肩部スラスター・バーニア⑭グレネードランチャー⑮エネルギーCAP.⑯レフト・サブアーム⑰冷却剤タンク⑱ビームサードベル⑲スラスター・バーニア⑳ビーム砲

Mobile Weapon

ガンダム・オフィシャル・レポート、4

# MSサポート システム

MS support system

U.C.0080~0089

サブフライシステム

一年戦争以降、MSの機能  
を補助する、いわゆるMSサ  
ポートシステムが急速に発展  
した。

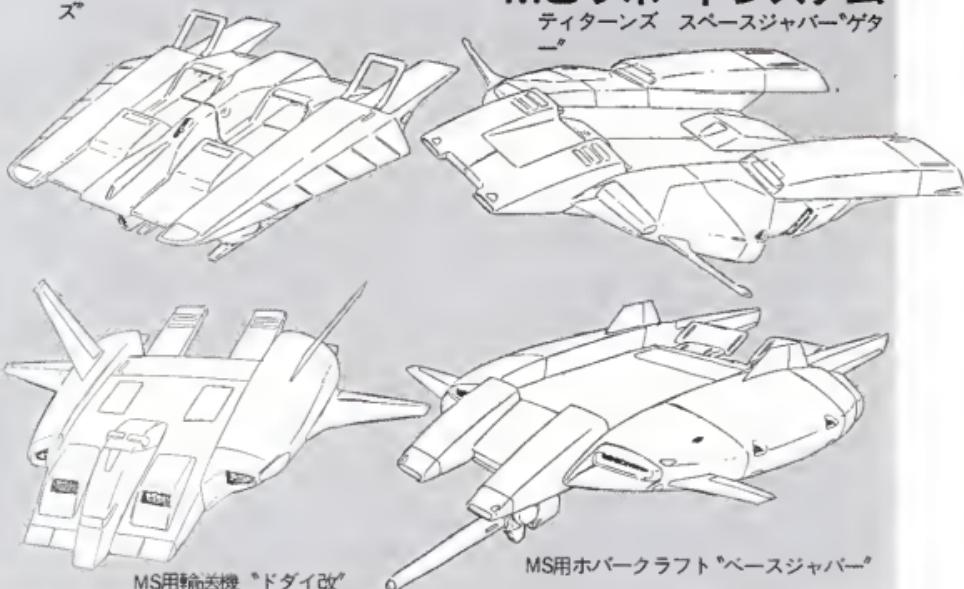
その代表格がサブフライ  
システムである。一部のMA  
や可変MSを除けば、MSの  
作戦行動半径は前大戦中のM  
Sと比べ、さほど向上してい  
ない。だが、旧公国軍ドダイ  
YSを発展させたMS用輸送  
機が急速に普及し、MSの戦  
術に加わったのである。

●ベースジャバー

熱核・ジェット推進式の無人  
ホバークラフト。機首にメガ  
粒子砲（空対空、空対地用）  
1門を搭載する。最高速度  
マッハ0・83

●ドダイ改  
有人MS輸送機。専用のコ

## MSサポートシステム ティターンズ スペースジャバー"ゲタ ー"



MS support system

# MSサポートシステム

ンテナを搭載して、ガルダ・地上間のシャトルとしても活用されている。最高速度／マツハ0・93。

● ゲター  
連邦軍制式宇宙用ブースタ  
1。MSの行動半径を3倍に伸ばす。スペースジヤバーと呼ばれる。

● シャクルズ

エウーゴ製スペースジヤバ

1。MSの脚部に装着する使  
い捨てブースター。航続性能  
はゲターより劣る。

● Gディフェンサー

RX-178ガンダムMK

II用可変アーマーシステム。  
MK-IIをキヤリングして大気  
圈内飛行が可能。さらに変形  
してMS用増加装甲になる。  
変形後はコクピットが分離し、  
軽戦闘機となる。変形後、火  
器管制はMS側に移行する。

## メガランチャ

メガランチャーは、グリップ  
ス戦争で初めて投入され、急速  
に進歩した兵器である。そ  
の射程性能と破壊力は戦艦級  
である。

● メガランチャー

連邦軍製MS用大型メガ粒  
子砲。初期型でハイザックク

ラスのMS2機分のエネルギー  
・バクアップが必要。

● メガバズーカランチャー

エウーゴ製。可変型で単体  
での移動力がある。メガコン

デンサーの性能向上により、  
単機で使用可能。ただし連射  
はもう1機のバクアップが  
必要。

● メガライダー  
エウーゴ製有人MS用輸送  
機。サブフライテシステムに  
メガランチャーを搭載する。

エウーゴ  
MS支援兵器 "メガライダー"

ティターンズ  
メガランチャー

エウーゴ メガバズーカランチャー

連邦軍  
MS専用輸送船  
"スーツキャリア"

連邦軍 MS専用月面輸送  
ホバートラック

# ワーカー

Worker

U.C.0030~0089

## 作業用MS

MSは兵器ばかりではなく、  
作業用、いわゆる民間機も数  
多く存在する。その起源は軍  
用機より古く、0030年代  
にコロニー建設用に開発され  
ている。軍用機の技術進歩は、  
スピノオフし、民間機にまで  
派及している。

### ●キヤトル

初期型のコロニー建設用  
大型ワーカー。ホバーによつ  
て移動する。4本のマニピュ  
レーターは用途により使い分  
ける。動力はディーゼルエン  
ジンと燃料電池。駆動系は油  
圧アクチュエータとモーター  
駆動の併用式。主にコロニ  
内で使用された。

### ●Jr(ジュニア) MS

月面作業用小型ワーカー。低  
重力下用の設計で、右肩にビ

Jrモビルスーツ用ハイバービーム砲

ワーカー

コロニー用  
ブチ・モビルスーツ

月面作業用Jrモビルスーツ

Worker

# ワーカー

ーム削岩砲を装備可能。エウレゴはこの砲にエネルギーCAP技術を導入し、ハイパー・ビーム砲に改造した。股間にジャンプ用のロケットモーターを装備する。

## ● プチ・MS

汎用小型ワーカー。コクピットは気密性があり、ノーマルスース未着用でも、宇宙に出ることができる。プラスチックボディの軽量設計で、1Gでも軽快な運動性を見せる。右マニピュレータにはワインチを内蔵する。

## ● ミドル・MS

汎用中型ワーカー。大型クレーンを装備し、右腕にワインチを内蔵する。歩行能力は低いが、ロケットモーターでジャンプ可能。コロニー内作業用。

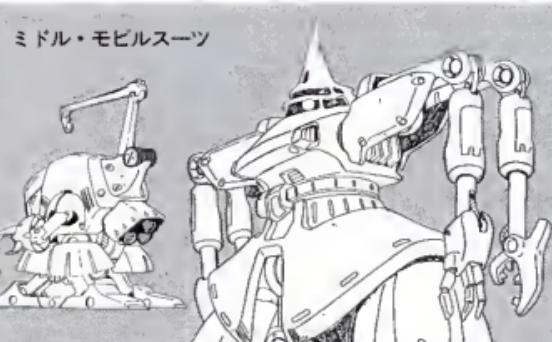
汎用大型ワーカー。4本の作業用マニピュレータを装備し、そのパワーは軍用機並みである。コクピットカーゴは胸回りを移動できる。

ワーカーのメーカーは、アナハイム社が最大手で、市場の8割を独占している。

また、この時代ワーカーの他にもホビー用として、軍用MSのレプリカがはやっていた。(金持ちの道楽!) 中でも軍の放出品、あるいは宇宙を漂流していた残骸をレストアした機体は価値が高いといわれている。もちろん、武装は廃除されているが、エネルギータはそのままになっている。

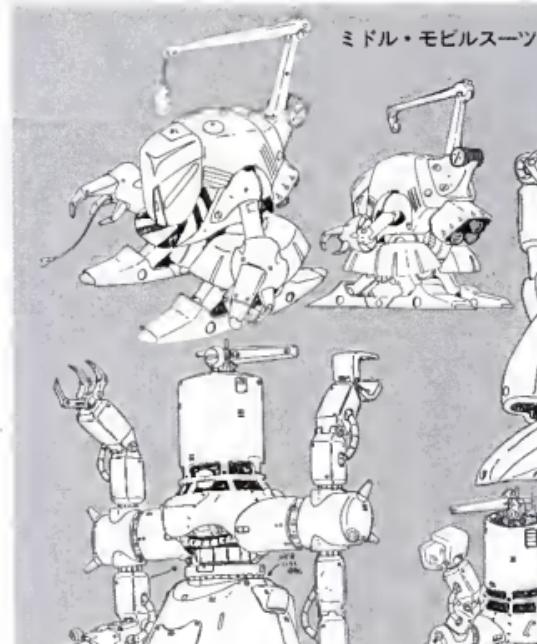
お手軽なホビーピットとしては、Jr MSによる格闘技がスポーツとして定着し、市販機を改造する愛好者が急増している。

ミドル・モビルスーツ



カスタムワーカー“ゲゼ”

コロニー建設用ワーカー“キャトル”



# 宇宙開発

Space frontier

U.C.0001~0089

## 交通

このコーナーでは前巻の補稿として、宇宙交通に関するさまざまなメカについて解説する。なお、紹介するメカの大半は一年戦争以前に登場していたものである。

### ●ガルダ型巨大輸送機

連邦軍が開発した史上最大の輸送機である。全長317メートル、翼長524メートル、最大積載量は9800トンに達し、熱核ジェットエンジン10基により、無補給で地球を2周できる。軍用機ではあるが、民間シャトルの打ち上げにも使用される。開発は0075年から開始され、1番機ガルダは0082年に就航、現在までにアウドムラ、スードリなど5機が建造されている。なお、この輸送機に

## 各種メカ

地球連邦軍 ガルダ型輸送機“アウドムラ”



Space frontier

# 宇宙開発

合う滑走路はほとんどなく、着陸、離陸は主に海上を用いている。また、低速飛行用に

船底にはホバー・ノズルが装備されている。(離水時にも使用)

## ● HLV

旧型シャトル。化学燃料式ロケットエンジンを搭載し、外部に8基の燃料タンクを装備する。タンクは燃料がつき段階で投棄する。地上・衛

星軌道間の往復に使われているが、現存するのは北米ヒツコリーの1機のみ。

## ● ル テンプテーション級シャトル

連邦軍所属。地上・宇宙間にとどまらずコロニー間の連絡船としても使われている。

軍用ではあるが、武装はない。ダブル輸送機から高々度打ち上

げ也可能だ。大気圏離脱時はブースターを装備する。

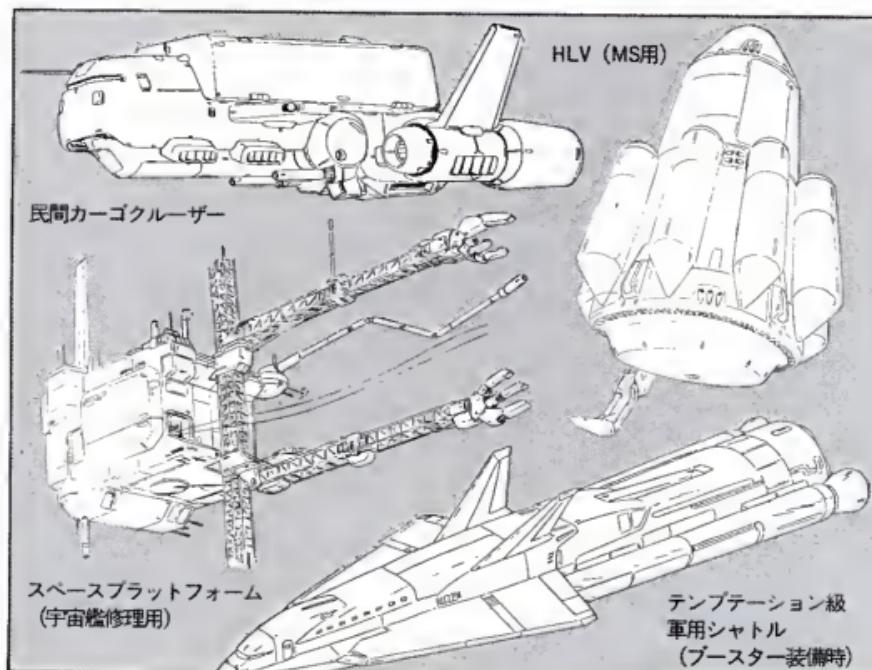
## ● カーゴクルーザー

民間宇宙貨物輸送船のひとつ。この他にも多くのバリエーションが存在する。一年戦

争以降は海賊まがいのゲリラ組織の襲撃事件が群発し、自衛のためレーザー砲やミサイルランチャーを装備するようになつた。

## ● スペース・プラットホーム

小型の宇宙船修理用浮きドック。いわゆるドック船とは異なり移動能力がない。こういったプラットホームは、軍用・民間を問わず、多数存在する。



Space frontier

# MS用語辞典③

## トリモチ・ランチャーリニアシート

トリモチ・ランチャー [英: *trime launcher*] 外壁充填剤である

ウォールフィルムを改良し、MSの指から発射できるようとした。このトリモチは電波を吸収する。この他にもMSの指には、各種信号弾、ダミー、消火剤などが装填されている。

### バイオセンサー [Bio-sensor]

MSZ-006Zガンダム、MSZ-0-0ZZガンダム、PMX-003ジ・0に装備されていたサイコミュの一種。

バインダー [Binder] MSの四

肢とは独立した動きができるスラスター・モデュール。テール・スタビライタと並びMSの運動性、加速性能を向上させる付加装備である。

### バー・ニア——「ショルダーバー・ニア——「ワインダ——」など

どのバリエーションがある

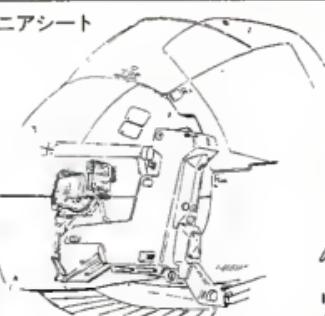
ムーバブルフレーム [Moveable frame] MS・MSの駆動内骨格。アクチュエータと制御機器だけで四肢の駆動が可能で、第一世代MSと異なり装甲の支持を必要としない。可変MSはムーバブルフレームなしには考えられない。

リニアシート [Linear seat] ない。

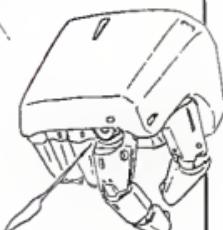
状の全天周囲モニターの中央に備えられたMS用パイロットシートのこと。電磁石により、パイロットに加わるGや衝撃を中和する。全天周囲モニターは機外カメラが捕えた映像をコンピュータが再構成したCG画面をリアルに投影する。第2世代以降のMSは全てこのリニアシートシステムが採用されており、第一世代も操縦装置の規格統一のためこのシステムが組み込まれた。また、このコクピットブロックはイジエクションボツドを兼ねており、さらにシートはアボジモータが装備され、独立したイジェクションシートとなつていて。

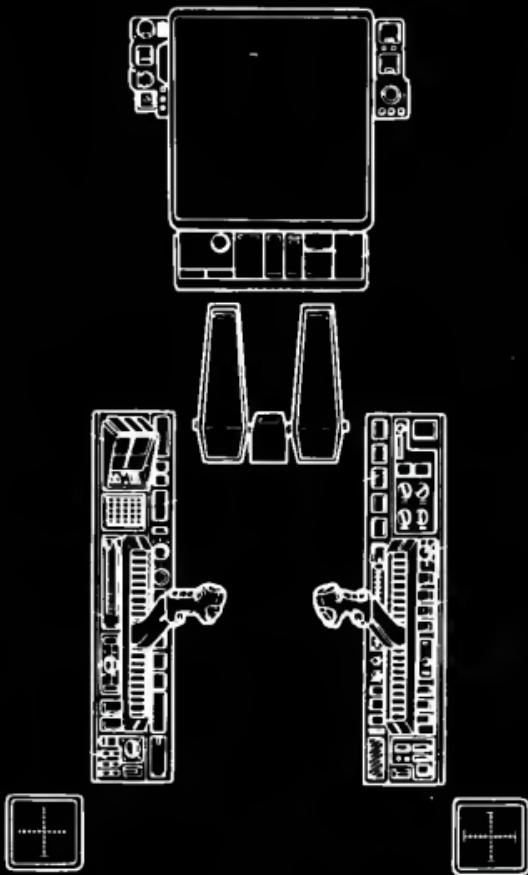


ハイ・ザックのリニアシート



リック・ディアスのトリモチ・ランチャー





モビルスーツ

# MS操縦マニュアル

M.S. Pilot Manual.

●MSは前大戦から7年間で長足の進化を迎えた。リニアシートの詳細解説に加え、新装備によるMS運用について考える。

Illustration by Shingo Takeba.

# 1. コンソール解説

この普及型リニアシート（J TS-17F）は、0084年にアナハイム・エレクトロニクス社で開発された。旧型よりも機体制御・火器管制航法COMの性能が優れ、そのバックアップによりパイロットワークは大幅に軽減されている。

全天周囲モニターは、液晶方式のディスプレイで、パイロットの視点を中心に360度の視界で機外の映像を再現する。モノアイと10数ヶ所のサブカメラによる映像情報を機体管制COMに送りC Gにより再構成している。戦

年にアーナハイム・エレクトロニクス社で開発された。旧型よりも機体制御・火器管制航法COMの性能が優れ、その

バックアップによりパイロットワークは大幅に軽減されて

いる。

開時は照準用となる。また、敵機が複数の時はシート上部両脇の投影式ディスプレイが全天周囲モニター上の敵機映像に照準を投影する。

また、通信用として全天周

囲モニターが用いられている。これらの操作はボード右脇のディスプレイ・モードセレクターと、右サイドコンソール上のディスプレイコントローラーによって行われる。なお、

照準火器管制COMの担当である。ディスプレイコントローラーの操作により、敵機の走査データが表示される。COMに機体制御データが入力され

ていれば、性能や武装などの

情報も求めることができます。

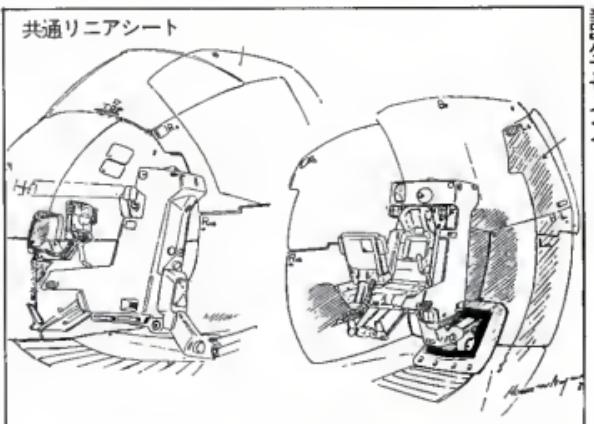
機体制御データの入力は、ボード左脇のI/Oポートに入力

用のCOMを接続すればよい。

火器管制は両サイドボード上のコントローラスティックだけではなく80パーセントを制御する。スティックには火器のセレクター、トリム、トリガーガーがあり、両サイドで使用できる火器が決められている。残りの20パーセントはオプションの制御であり、左サイドコンソール上のウエポン系ペネルを使用する。

機体制御は、フットペダルとコントロールスティックで行う。ジェネレータ系、燃料系などの補助的作業は両サイドコンソールで操作する。戦闘時は機体制御COMのパックアップがあるため、ほとん

ど気にとめる必要はない。MSは各種のオプション装備サポートシステムを用いるが、大半の制御ソフトを入力済みである。機体制御COMを呼び出し、概当機器をセレクトすればよい。



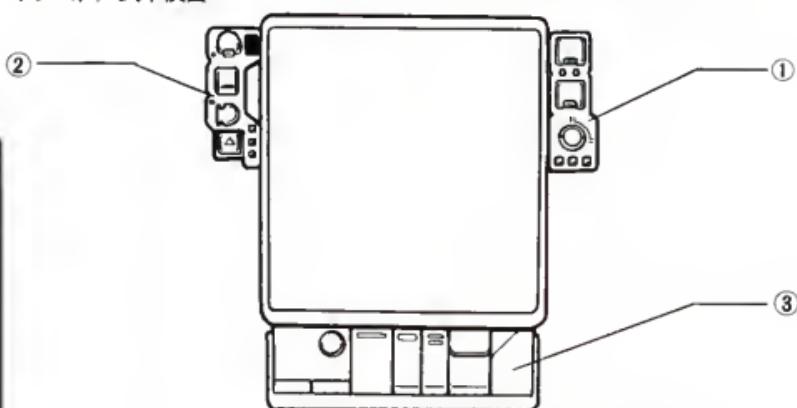
設定デザイン

# MS.PILOT MANUAL

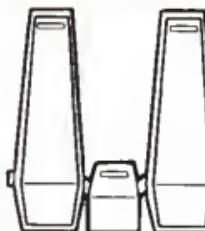
イラスト／武半慎吾

パネル&コントロール展開図

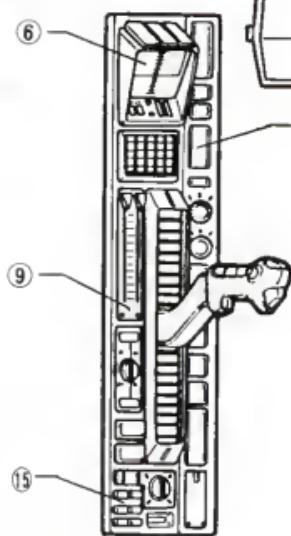
## ●CRTディスプレイボード



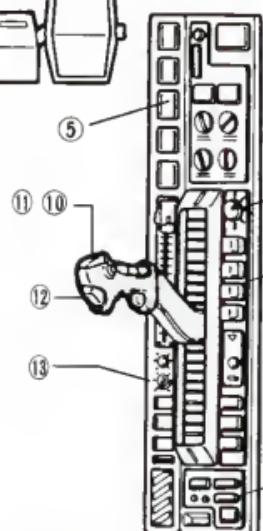
## ●フットペダル



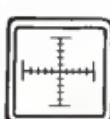
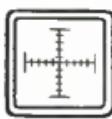
## ●L サイドディスプレイ



## ●R サイドディスプレイ



## ●Rディスプレイ



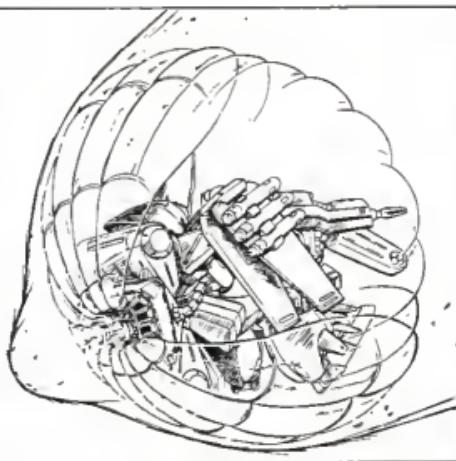
## ●Lディスプレイ

【コントロール各部名称】①ディスプレイ・モードセレクター②1/0ボード③ディスプレイ起動スイッチ他④ディスプレイコントローラー⑤ワーニングモニター⑥サブディスプレイ（多目的）⑦コクピットコントロ

ール系スイッチ⑧スクリーンコントローラー⑨ジェネレータ系⑩セレクター⑪トリム⑫トリガー⑬コンピュータ系⑭通信系パネル⑮ウェポン系

## 2. 第2世代モビルスーツの付加機能

現在、連邦軍（エウーゴ、ネオ・ジオンを含む）で使用されているMSは、全てバリュートシステムが装着可能だ。バリュートとは、大気圧突入用の装備で、展開したバルーンにそつて高压エアーを吹出し、磨察熱を遮断する。空



気の抵抗によつて減速したのちに、バルーンを廃除し、胸部や脚部に装備したホバーユニットにより地表に降り立つ。

なお、燃料の残量があれば電撃作戦に使える。（第2世代

以降のMSは脚部スターの推力が増大し、地表をホバー走行すれば激しく、短時間の使用では推進剤の消費率が激しく、（燃料が切れた時は、ユニットを除去できる。

MSサポートシステムの代表格としてメガランチャヤーが掲げられる。これは大型のメガ

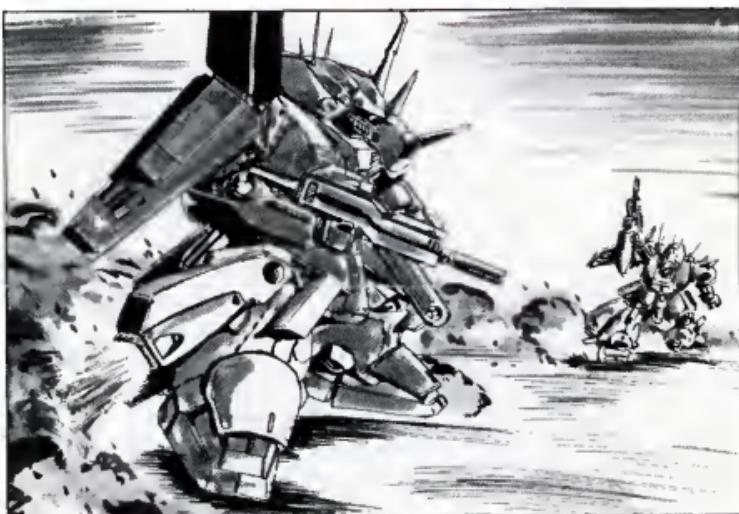
粒子砲で、艦載砲クラスの射程と性能を持つ。

砲の内部にも核融合炉があるが、稼働するためにはMS側からもエネルギーを供給する必要がある。メガコ

ンデンサーの性能向上とともにバックアップの必要はなくなつた。いつたが、初期型ではハイザック2機分のエネルギーを消費した。

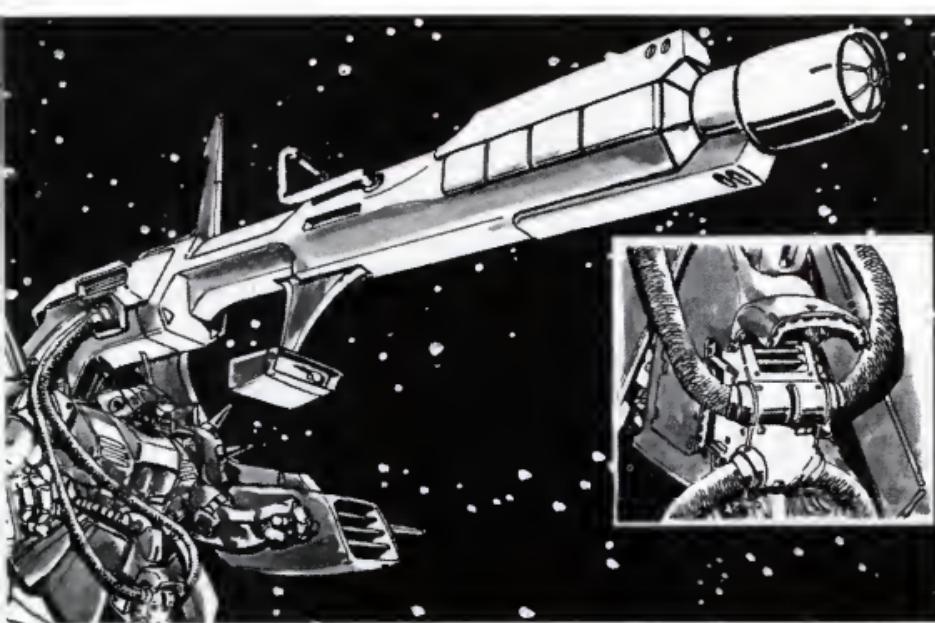
ランチャヤーには長距離型のセンサーが装備されており、操作するMSのモノアイの正面にあるスコー

プに情報が表示される。ランチャヤーの照準はMS側で行うが、照準用のアポジーモータ



# MS.PILOT MANUAL

メガランチャー。稼動のためには MS 2 機分のパワーを必要とする

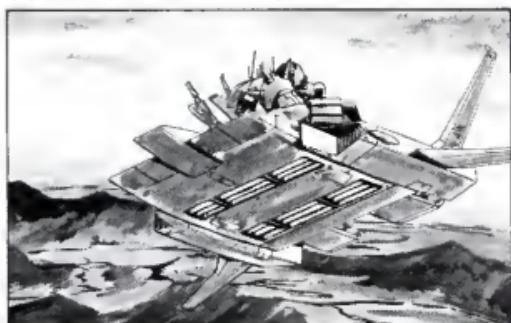


エネルギー・コネクター

一が装備され、操作そのものはビームライフルと変りない。ランチャーの欠点は、再発射のためのエネルギー再充填の時間がかかることである。また、バックアップ用のエネルギー供給も高出力であるため、MS側の核融合炉がオーバーヒートする危険性がある。

サポートシステムの中にはサブフライティシステムも含まれる。大気圏内用と宇宙用の2種類があるが、基本的にMSを乗せて飛ぶという点では変りない。ドライ改を除けば無人機で、グリップとMSのミニピュレータを接続し、機体を制御する。無線による遠隔制御も可能だが、ミノフスキーパーティ子散布下では制御を失う。従つてフライトイニットに乗つたまま射撃戦を行うのがセオリーだが、練度の高

サブフライティシステム“ドライ改”



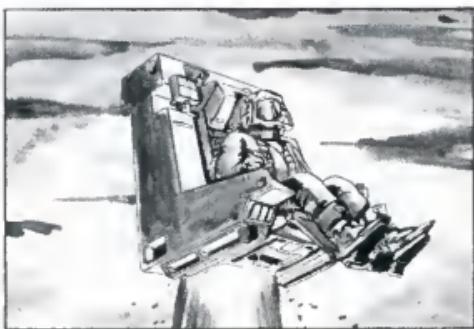
いパイロットは、MSを単独で飛行させ（短時間に限る）。推進剤が切れれば墜落する）敵を倒し、再びフライトイニットとドッキングする高等戦術をマスターしている。

### 3. 脱出システム



第1次装甲を爆破除去して、ポッドを射出する

現在使用されているMSは、一部の例外（コアプロックシステムを採用しているMS-Z-1010ZZガンダム）を除いて、イジェクションポッドを採用している。この脱出システムはコクピットプロックごと機外に射出するもので、一年戦争時のシート単体の脱出システムより生残性が高い。手順は、機体に重大な損傷が生じると、機体管制COMがそれをメインCOMに伝え、メインCOMがコクピットブロック周辺の第1次装甲を仕掛けられた炸薬によって吹き飛ばす。次にインジェクションポッドをやはり炸薬で機外に射出する。ポッドは飛ばされた慣性のまま宇宙を漂流する。あとは救難ビーコンを出しながら救助を待つ。リニアシートは、アームを



大気圏内ではシートをイジェクションシートとして使用する

外してポッド外に出すことができる。シートにはアポジモーターがあり、移動が可能だ。大気圏内ではシートの下のスライスターを利用して、イジェクションシートとする。パラシートなしで、シートごと安全圏に離脱できる。



モビルスーツ

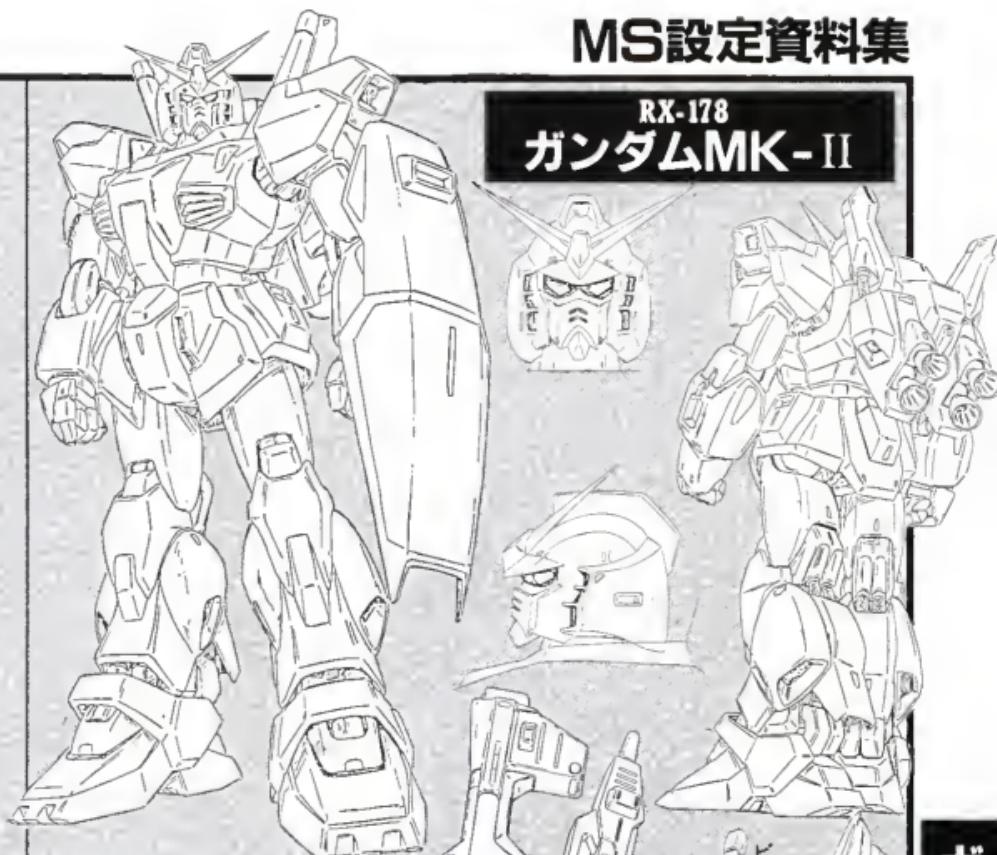
# MS設定資料集

**M.S. Design collection.**

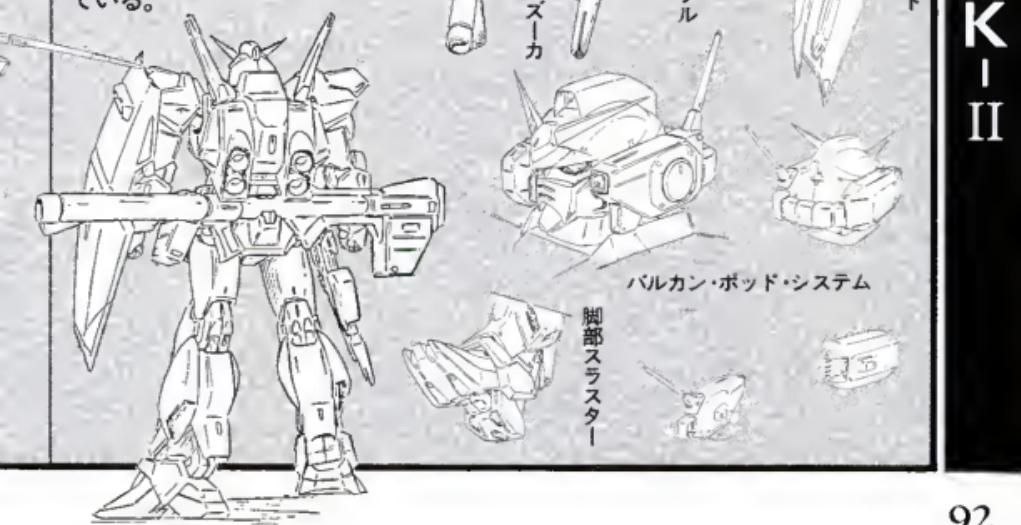
●「機動戦士Ζガンダム」「機動戦士ガンダムΖΖ」「Ζ-MSV」「ΖΖ-MSV」に登場するMS、MAのデザイン画を解説付きで紹介する。

RX-178

## ガンダムMK-II

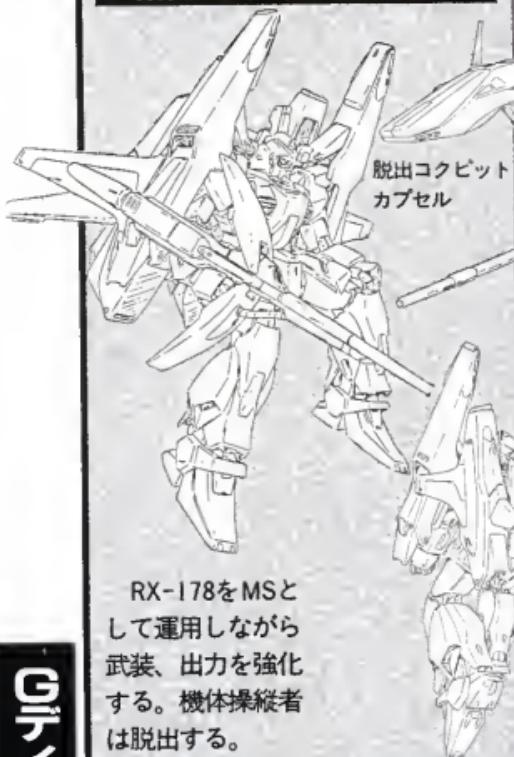


ティターンズがグリップスⅠで開発していたMS。汎用型だが、コロニー内戦闘を重視した設計となっている。RX-78の再設計機だが、コアプロックシステム等は排除されている。



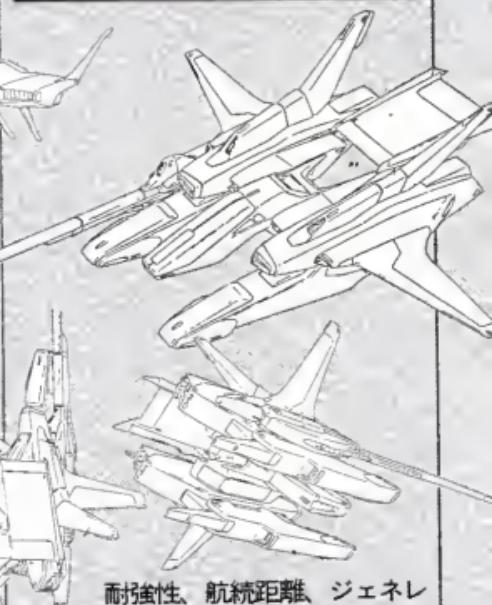
ガンダムMK-II

## MK-IIディフェンサー



RX-178をMSとして運用しながら武装、出力を強化する。機体操縦者は脱出する。

## FXA-05D Gディフェンサー



耐弾性、航続距離、ジェネレータ出力等の問題を解決するため開発された機体。

## Gディフェンサー／フライングアーマー

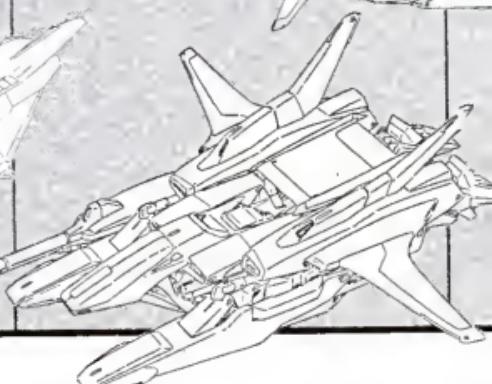
### フライングアーマー



大気圏突入が可能で、降下中の戦闘にも対応できる。地上ではホバー走行による移動可能。

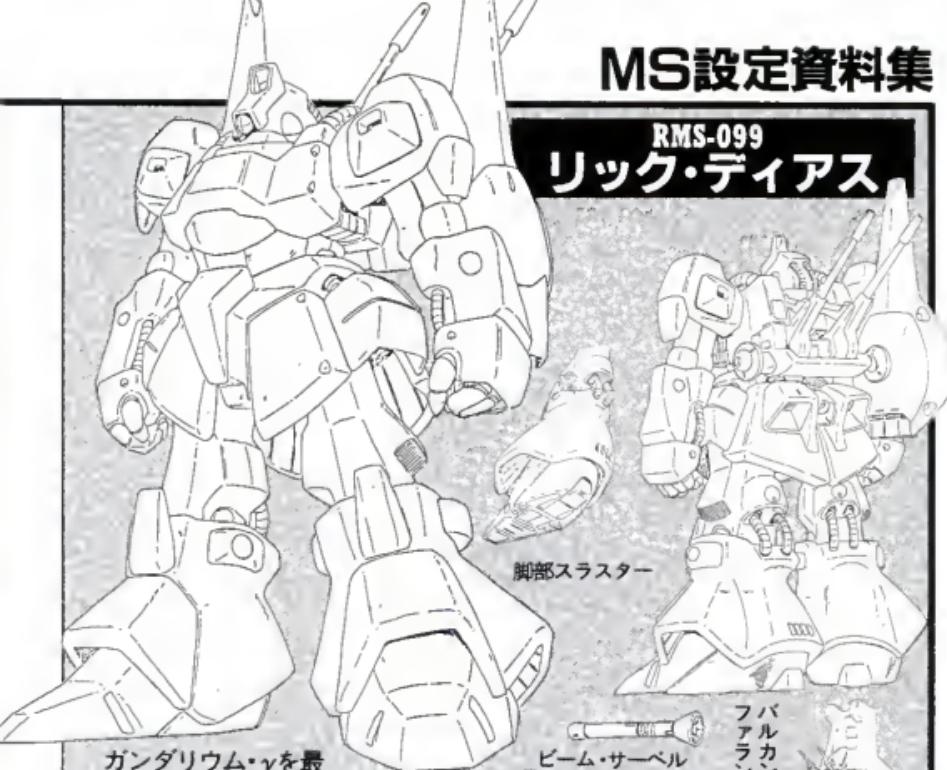
### Gフライヤー

長距離航行時の形態。機動性、航続距離が飛躍的に向上する。



RMS-099

## リック・ディアス



ガンドリウム・γを最初に装甲として装備した機体。そのため軽量化とプロペラント増加が可能となる。連邦をあざむくため、正式ナンバーのMSA-009はふせられていた。



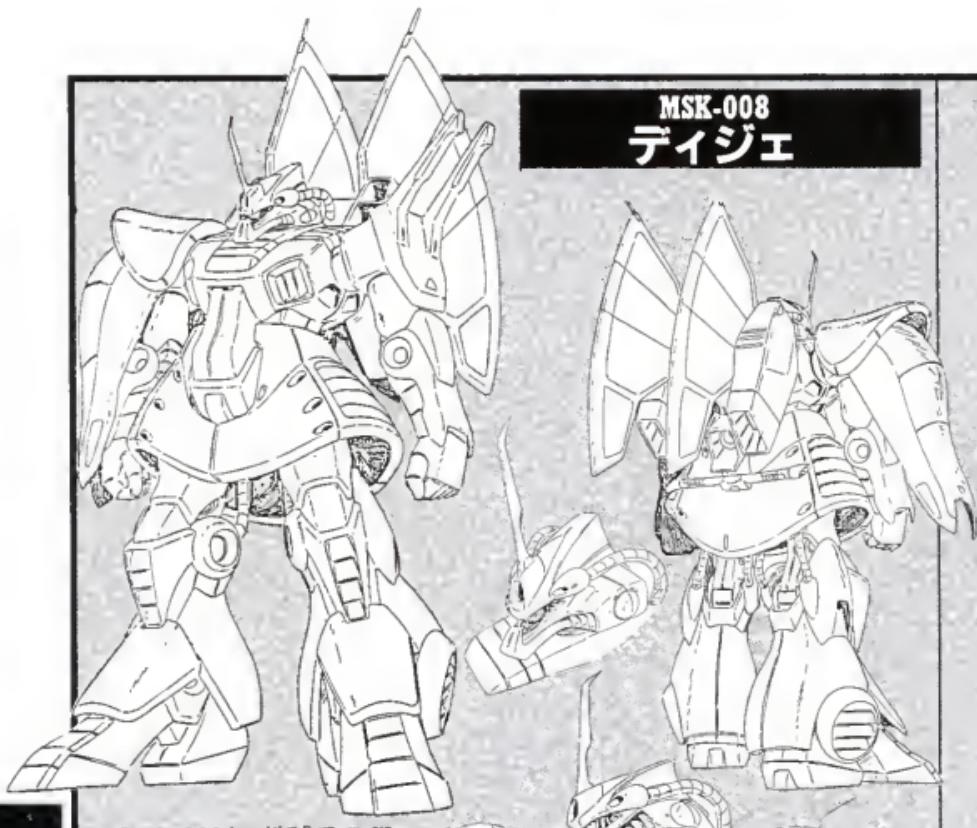
## RGM-79R ジムII



一年戦争当時、主力機として量産された機体を改修したもの。性能に大きな変化はみうけられない。

リック・ディアス／ジムII

## MSK-008 ティジェ



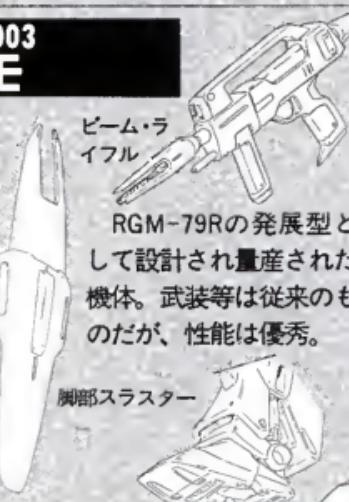
RMS-099を、地球での運用に対応するようラストスティーに改造した機体。ジェネレータ出力等が地球用に調整された。



## MSA-003 ネモ



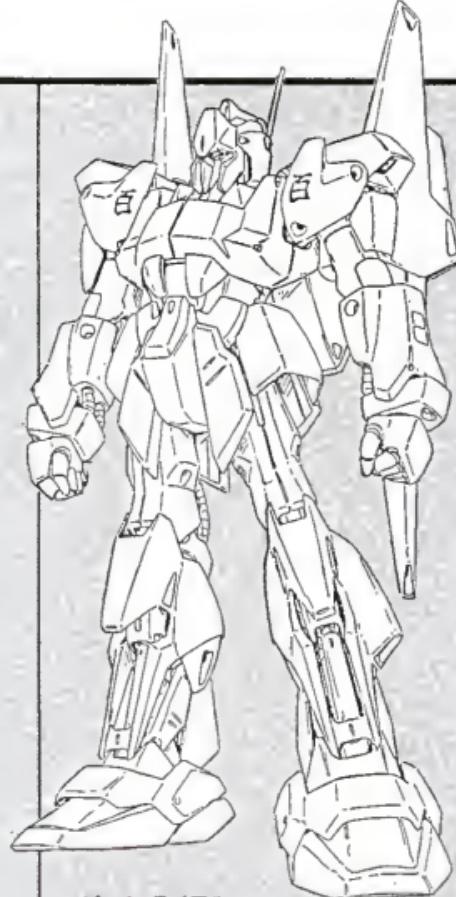
シールド



RGM-79Rの発展型として設計され量産された機体。武装等は従来のものだが、性能は優秀。

脚部スラスター



MSN-100  
百式

ビーム・ライフル

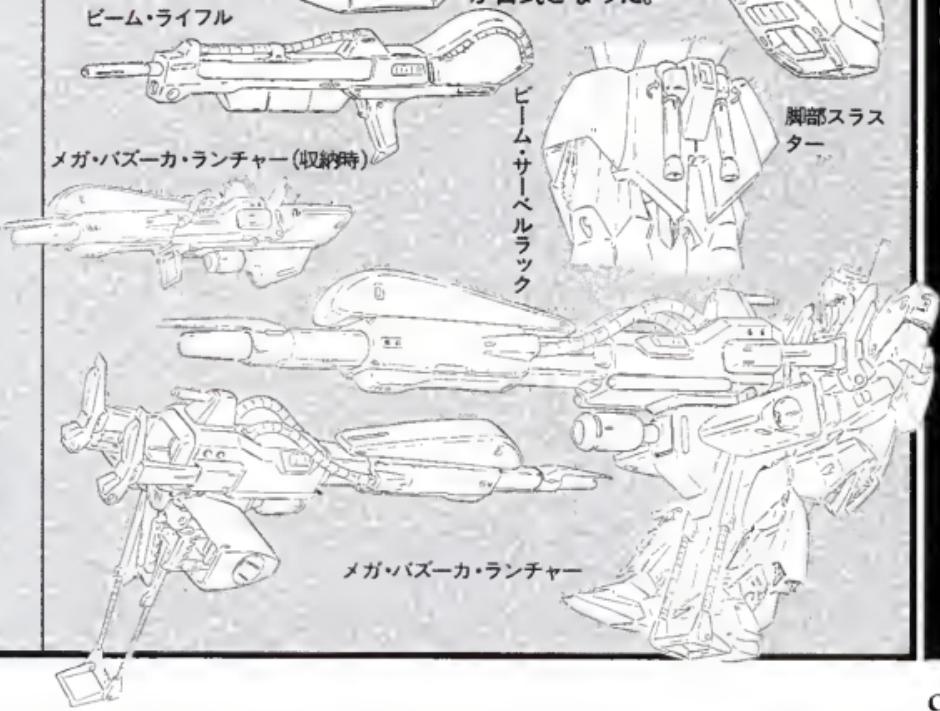


Z計画試作MSの一機。予定の可変機構は廃止されたが、基本性能が優秀だったので、現在の機体に改修された。M・ナガノ博士の提案で名称が百式となった。

メガ・バズーカ・ランチャー(収納時)

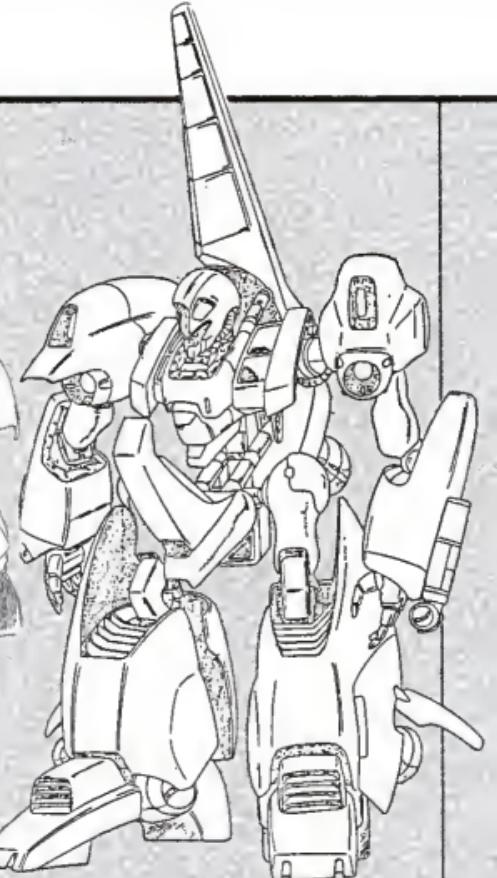
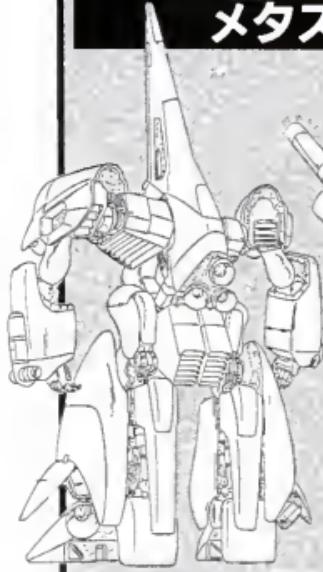
ビーム・サーベルラック

脚部スラスター



百式

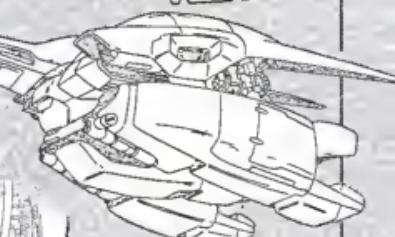
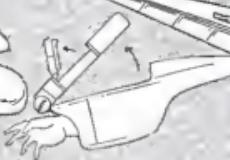
## MSA-005 メタス



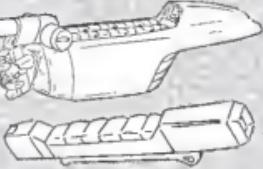
Z計画試作MSの一機。可変MS開発のため試作された。運動性、加速性能は充分だったが、機体自体の耐久性に問題があり量産化は見送られた。



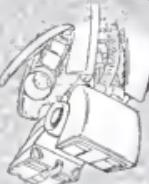
アーム・ビーム・ガン



モビルアーマー形態



ビーム・サーベル、ヒート・ホーク 胸部スラスター



MSZ-006

## Ζガンダム



Ζ  
ガンダム

単独で大気圏突入能力を持つ唯一のMS。サイズを超えた  
ポテンシャルを持ち、後にバイオセンサーが搭載され機体  
の追従性が大幅に向上した。

シールド

グレネード・ランチャー

ビーム・サーベル

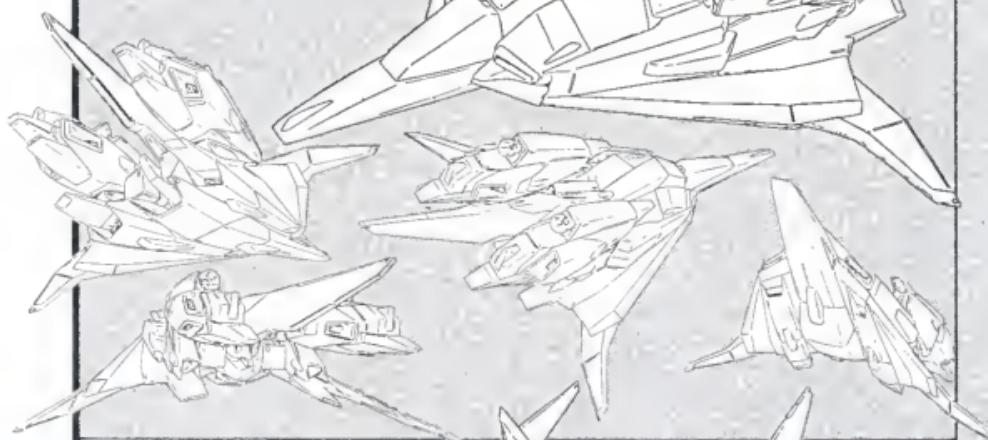
ビーム・ライフル

脚部スラスター

ハイパー・メガ・  
ランチャー

## ウェイブライター

MSZ-006が変形したもので、大気圏突入能力を持ち、大気圏内での飛行も可能である。



変型システム

## ウェイブライター

RMS-106

## ハイザック

一年戦争後、連邦軍が初めて開発、量産した機体。ジオン、連邦の技術が混在し、特徴がなく出力不足。

ビーム・ライフル

ザク・マシンガン改

ヒート・ホーク

ビーム・サーベル

ザク・シールド

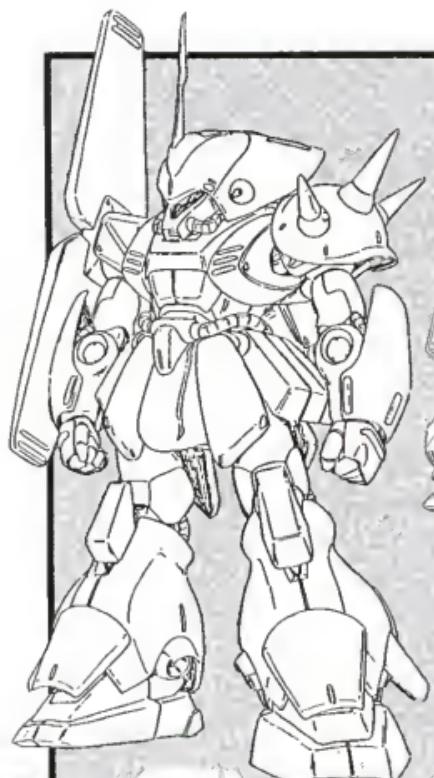
ミサイル・ポッド

## RMS-106CS ハイザック・カスタム

RMS-106の改造型、専用の狙撃銃を持ち、装甲の強化もなされている。

ビーム・ランチャー(狙撃用)

ハイザック→ハイザック・カスタム



## RMS-108 マラサイ

バリュート装着



RMS-106の発展型。装甲にガンダリウムを採用し、ジェネレータ出力も向上し、複数のビーム兵器も使用できる。



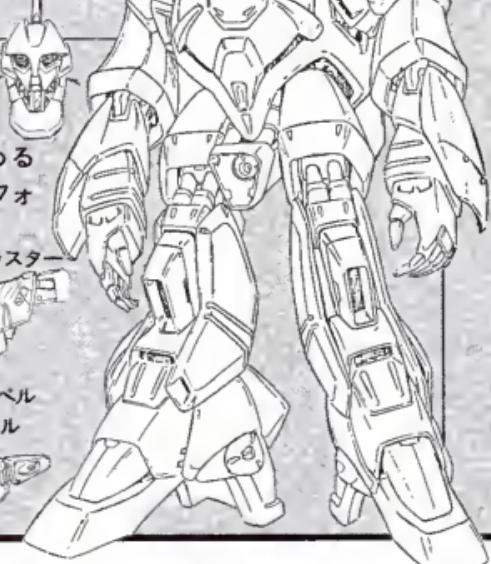
脚部スラスター



## RMS-154 バーザム

RMS-79Rに代わる  
量産機。コストパフォ  
ーマンスが高い。

脚部スラスター



## RMS-117 ガルバルティβ

MS-17Aの改修機。外装を改修し軽量化により運動性が向上。戦後連邦が改修量産した。

シールド

脚部スラスター

ビーム・サーベル

信号弾



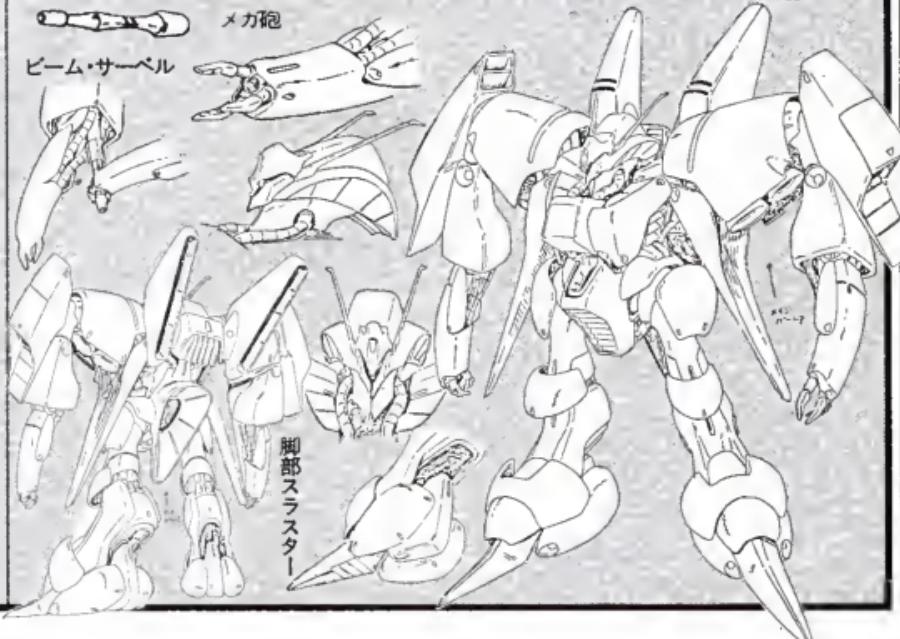
## RX-160 バイアラン

機体の変形によらずに大気圏飛行性能を持つMS。スラスターを換装することにより、宇宙での運用も可能。

ビーム・サーベル

メカ砲

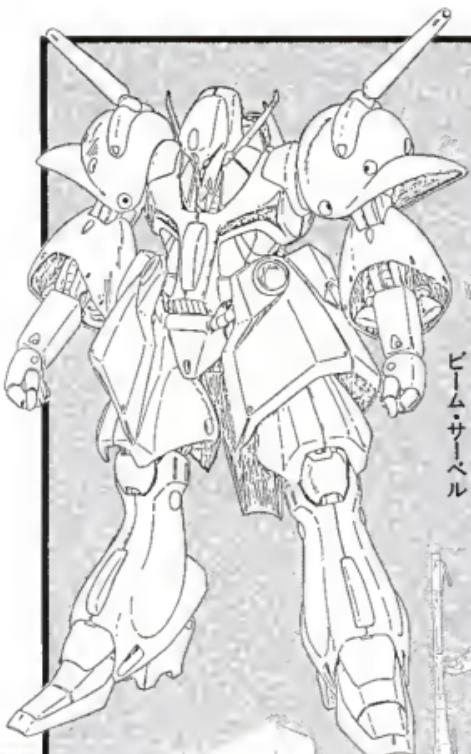
脚部スラスター



ガルバルティβ→バイアラン

## RX-110 ガブスレイ

砲撃戦、格闘戦共に性能が高い可変MS。MA形態では高い運動性を発揮、巨大なクローアームが特徴。



ビーム・サーベル



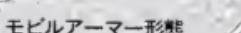
脚部スラ  
スター



中間形態



フェーダイン・ライフル



モビルアーマー形態

ガブスレイ

## ORX-005 ギャプラン

高々度迎撃用に開発された可変MA。変形時の推力は高いが大気圏内で長時間の飛行はできない。MS形態でもブースター装備可能。

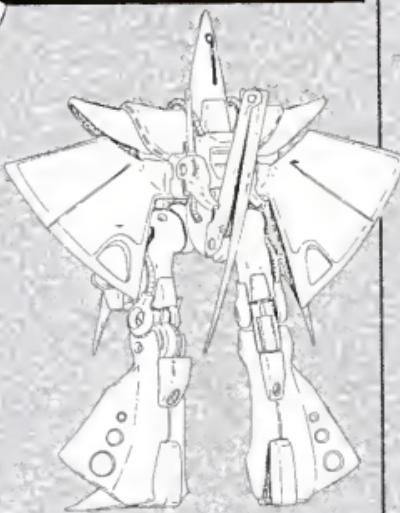
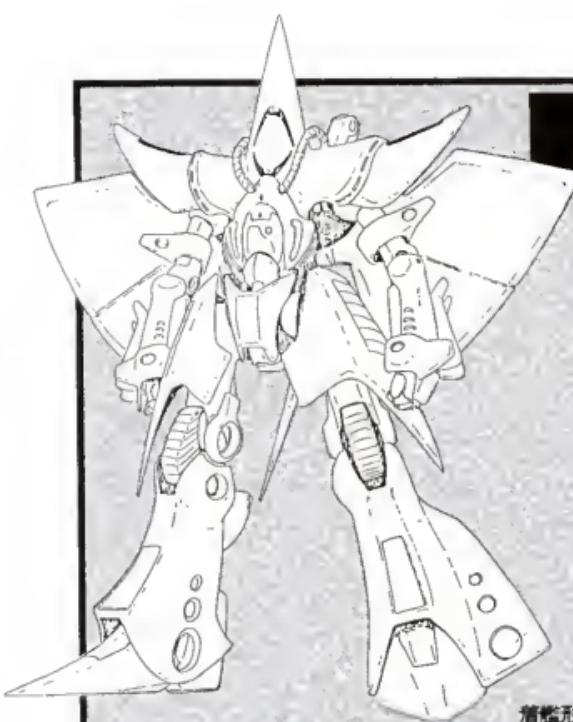
ビーム・サーベル

モビルアーマー形態

ブースター  
ブースター装備

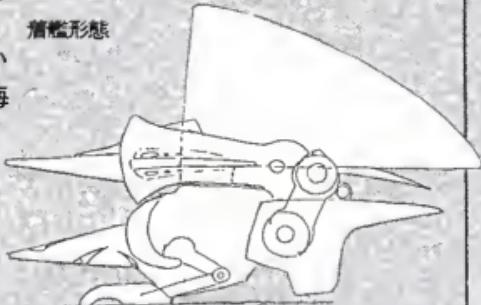
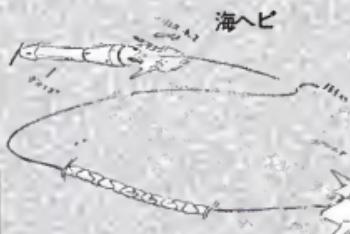
ギャプラン

# RX-139 ハンブラビ

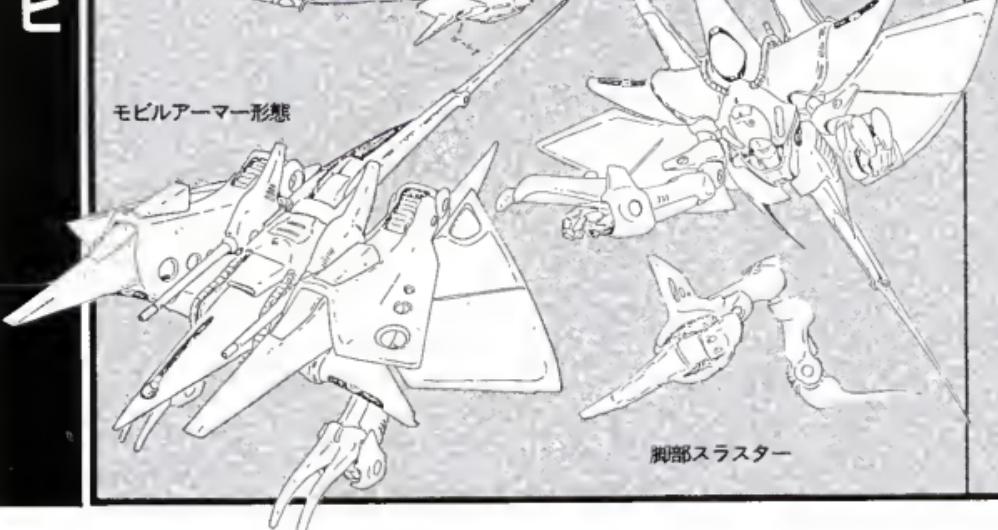


着艦形態

変形機構が単純で、量産しやすい  
可変MS。パワーが高く、特殊武器“海  
ヘビ”による電撃攻撃が特徴。



モビルアーマー形態



脚部スラスター

## NRX-004 アッシマー

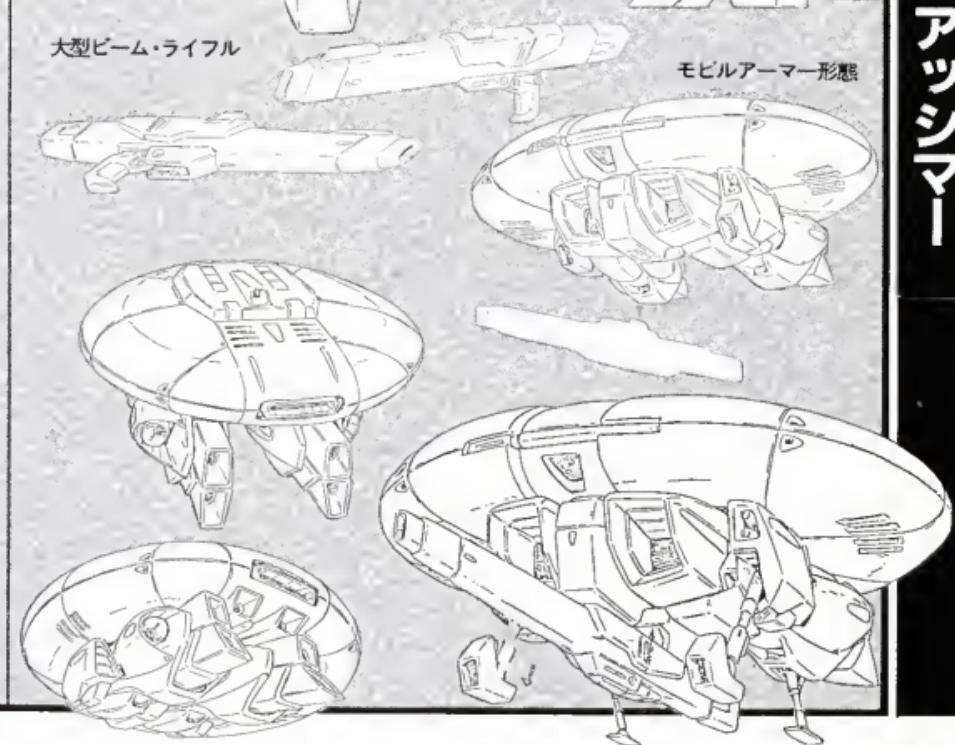
独特の円盤状のフォルムを持つ連邦軍の、空戦用としては初めての可変MA。耐久性、耐弾性が高く、量産性も高いため、連邦軍の各基地に配備されている。

胸アーマー  
オープナー

大型ビーム・ライフル

モビルアーマー形態

アッシマー



## NRX-055 バウンド・ドック

サイコミュを搭載した連邦軍の可変MA。実験機ではあるが、NRX-055-1～3の3機が生産されている。優秀な機体だといえ、後発機のデータ収集に活用された。

ビーム・ライフル

メガ拡散粒子砲

クランク  
アーム

モビルアーマー形態

MRX-009

## サイコガンダム

ムラサメ N T 研究所で開発された可  
変M A。形状はRX-78に似るが、設計  
思想はMSN-02を元とする。

サイコガンダム

モビルアーマー形態

MRX-010

## サイコガンダムMK-II

MRX-009の発展型。サイコミュ兵器を各種装備している。出撃し破壊されるが、ネオ・ジオンが回収する。

有線サイコミュ式  
ビーム・ソード

レフレクター・ビット

シールド・アーマー

モビルアーマー形態

サイコガンダムMK-II

PMX-000

## メッサーラ

ジュピトリス製可変MA。木星の大重力に対応した大推力スラスターを搭載しているため、機体自体がかなりの大型となっている。格闘戦でも能力が高い。

ミサイル・ポッド

グレネード・ランチャー

ビーム・サーベル

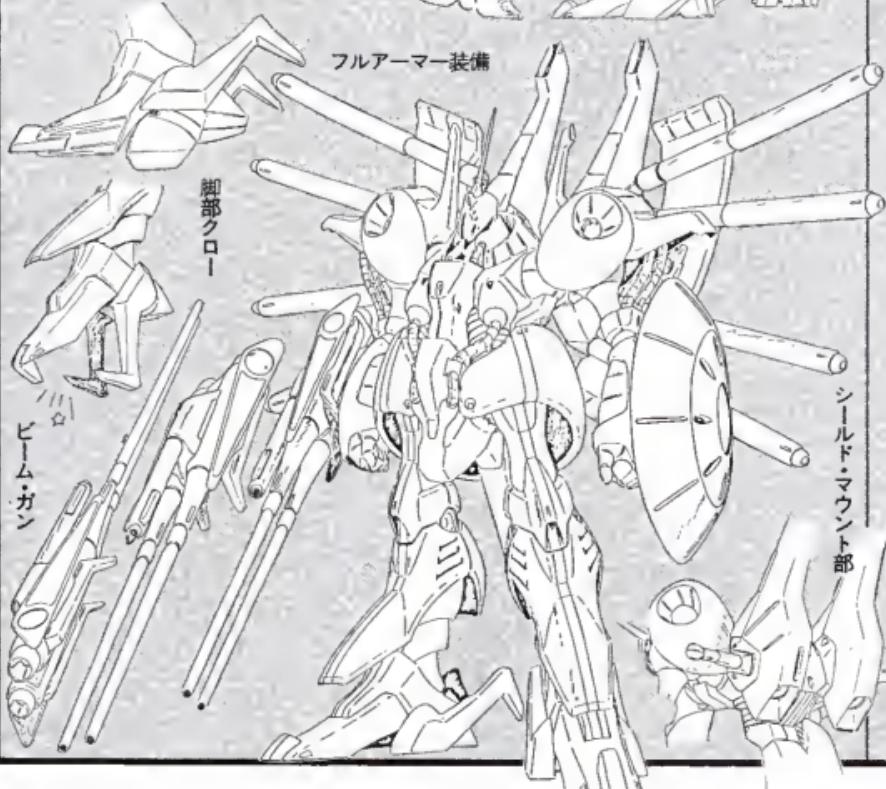
モビルアーマー形態

メッサーラ

## PMX-001 パラス・アテネ

ジュビトリス製重MS。対艦戦用の大型ミサイルを装備でき、さらに多彩な武装を持っている。火力ではMAに匹敵するが、全備重量が大きく、運動性は決して高いとはいえない。

## パラス・アテネ



## PMX-002 ポリノーク・サマーン

ビーム・サーベル  
トマホーク

ジュピトリス製MS。機体  
自体のポテンシャルに特筆  
すべき点はないが、偵察お  
よび、索敵能力に秀れてお  
り、斤候として充分な能力  
を発揮する。

シールド

## PMX-003 ジ・オ

ジュピトリス製重MS。サイコミュ  
の一種であるバイオセンサーを  
装備し、駆動系を始めとし  
て試験的装備  
が数多い。

ビーム・ソード

隠し腕

ビーム・ライフル

ポリノーク・サマーン／ジ・オ

## AMS-004 キュベレイ

アクシズ製MS。基本コンセプトとしてMAN-08のMS化がある。ビットに代りファンネルを搭載する。



モビルアーマー形態

ビーム・サーベル

## AMX-001 ガザC

アクシズ製可変MS。作業用MSのガザA、Bの発展型。アクシズでの制式番号はMMT-1。生産性が高く、量産されている。

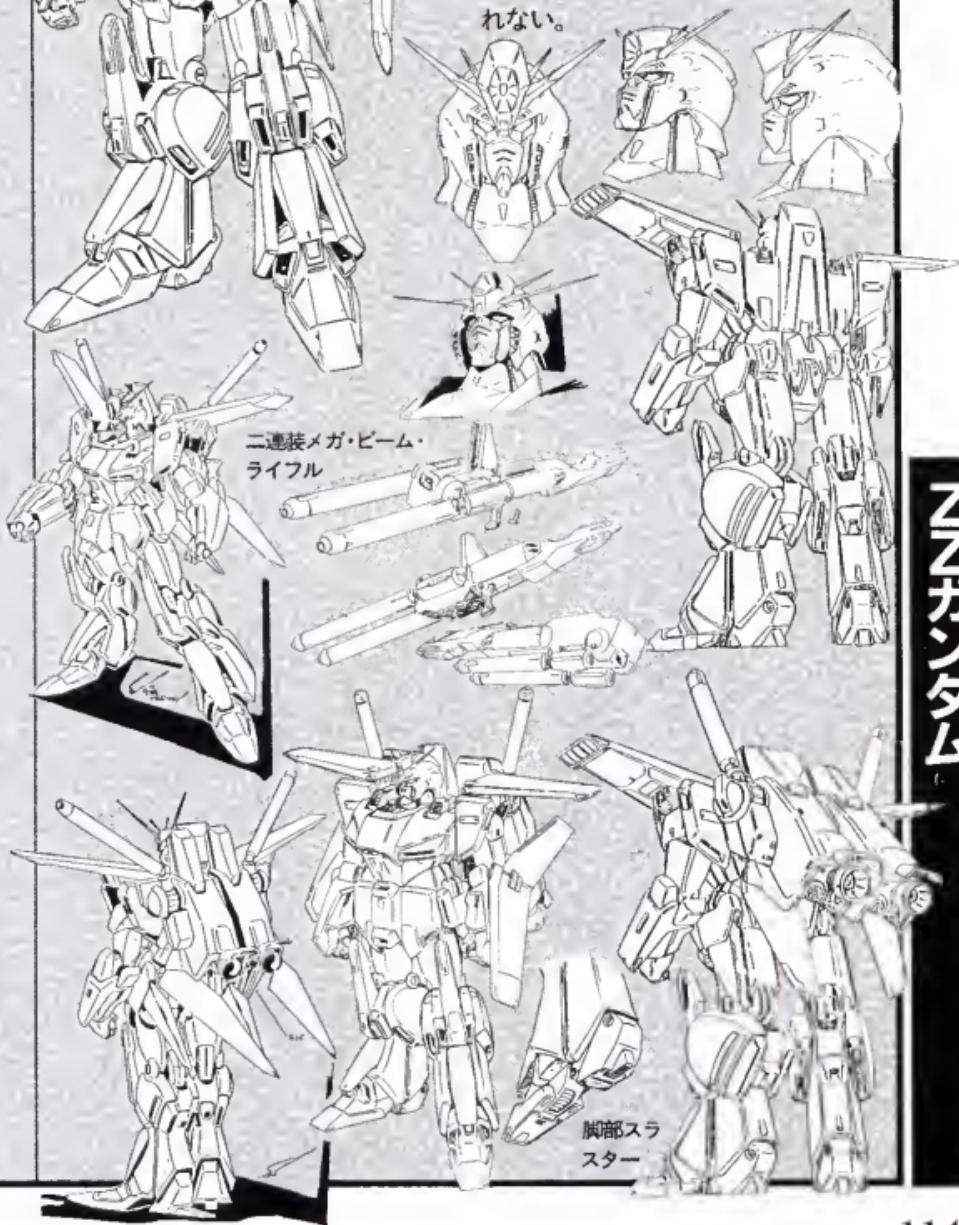
# キュベレイ／ガザC



MSZ-010

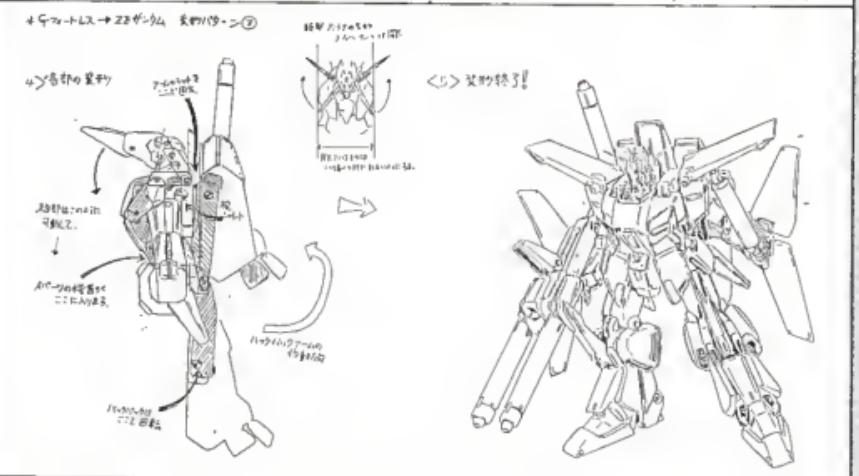
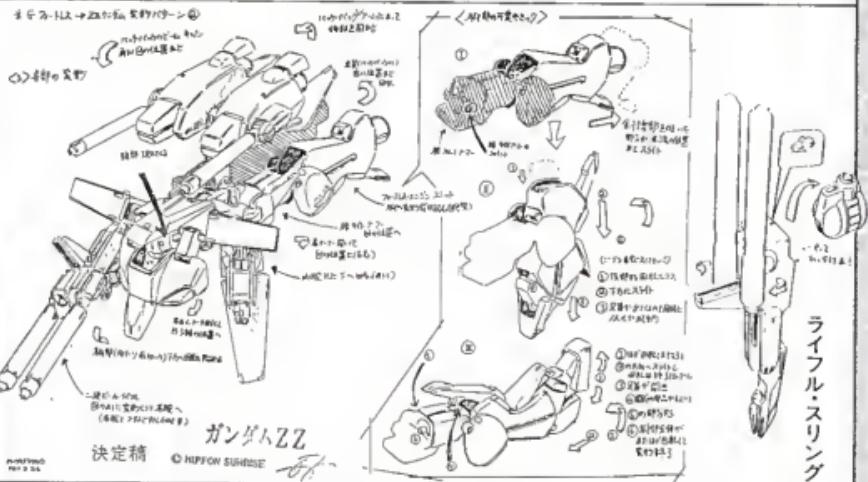
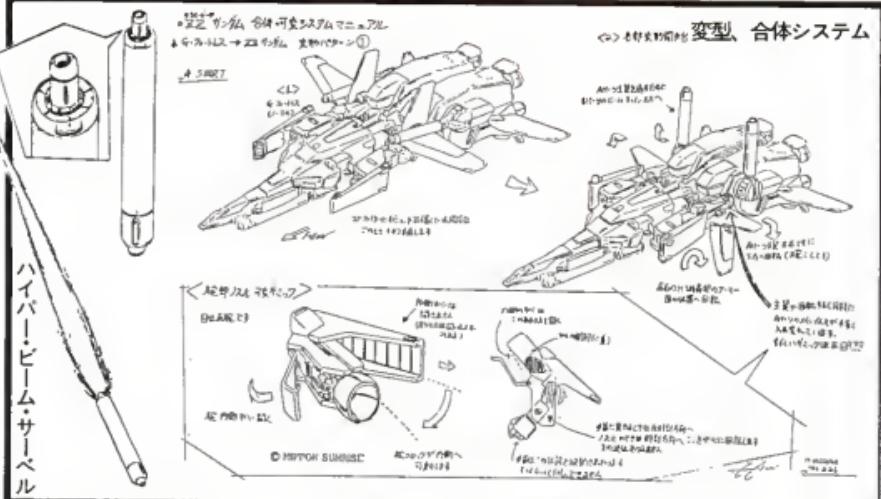
## ZZガンダム

RX-78とGアーマーの機構を合わせ持った可変MS。ジェネレータ出力が圧倒的に向上し、大型のビーム兵器を搭載している。しかし、エネルギー消費が激しく長時間の戦闘に耐えられない。



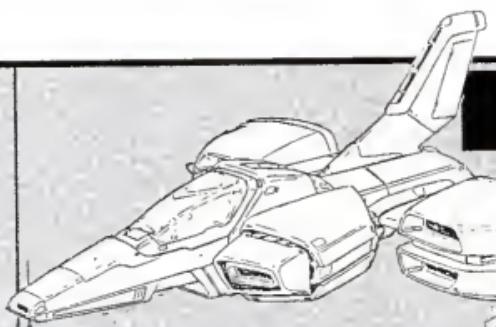
ZZガンダム

# ZZ ガンダム

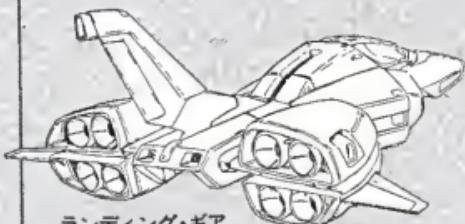


FXA-07GB  
コア・ファイター

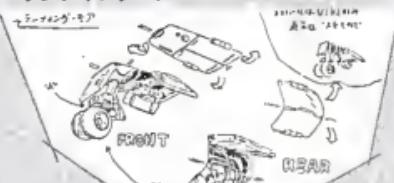
MSZ-010のシステムの中核をなすコア・ブロックが変型した戦闘機。MSZ-010が分離した2機の戦闘機に装着して運用されることもある。



マイクロ・ミサイル・ランチャー



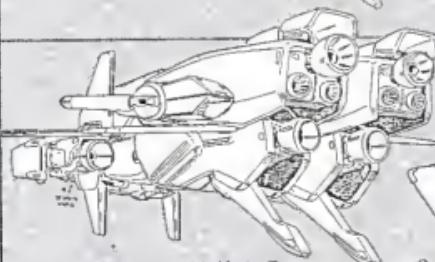
ランディング・ギア



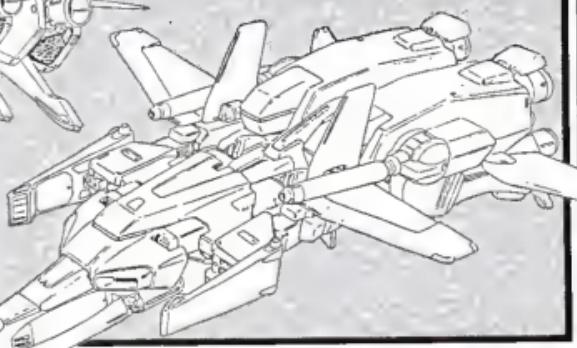
コア・ブロック形態



## Gフォートレス



MS形態から、機体を分離せずにそのまま変型した形態で、重戦闘爆撃機として運用することができる。



コアファイター／Gフォートレス



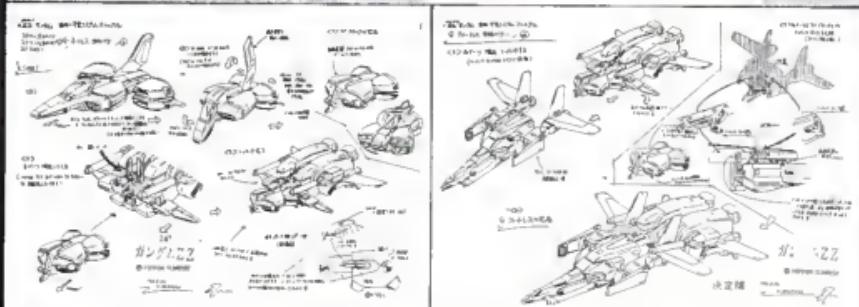
## コア・トップ

MSZ-010の上半身、ダブルビームライフルとコアプロックで構成される戦闘機。



## コア・ベース

MSZ-010の下半身とコアファイタ  
ーによって構成された攻撃機形態。  
武装も充実している。



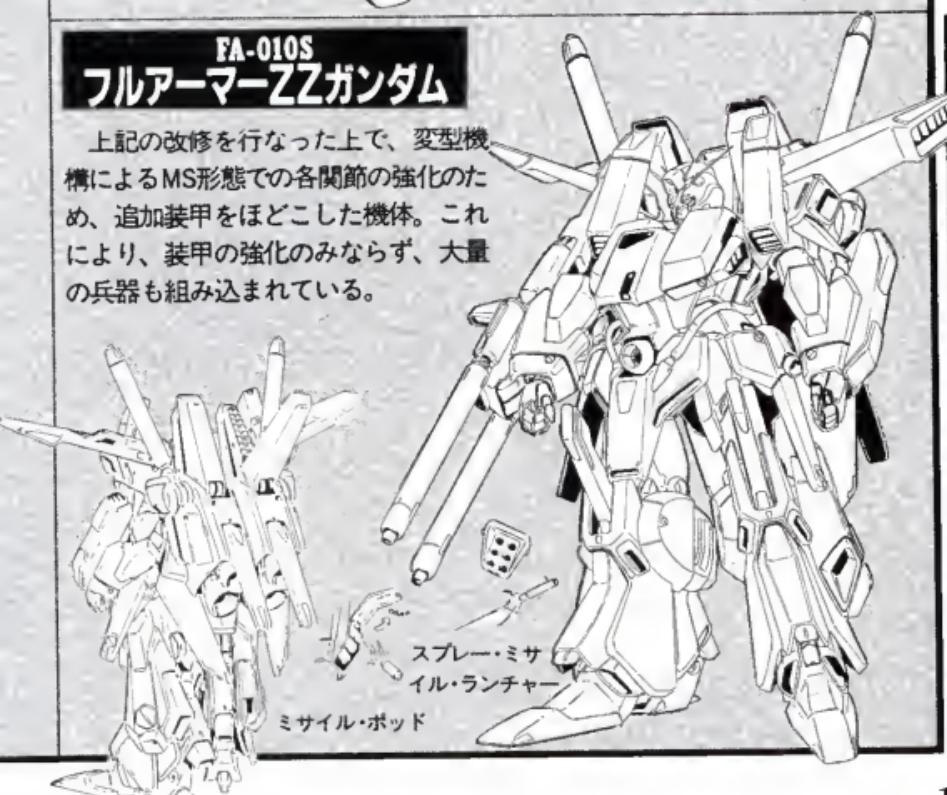
MSZ-010S

## ZZガンダム強化型

ネオ・ジオン軍のNZ-000に対抗するため、ランドセルの大型化。ジェネレータの高出力化などが行なわれた機体。細部にわたり改修されている。

FA-010S  
フルアーマーZZガンダム

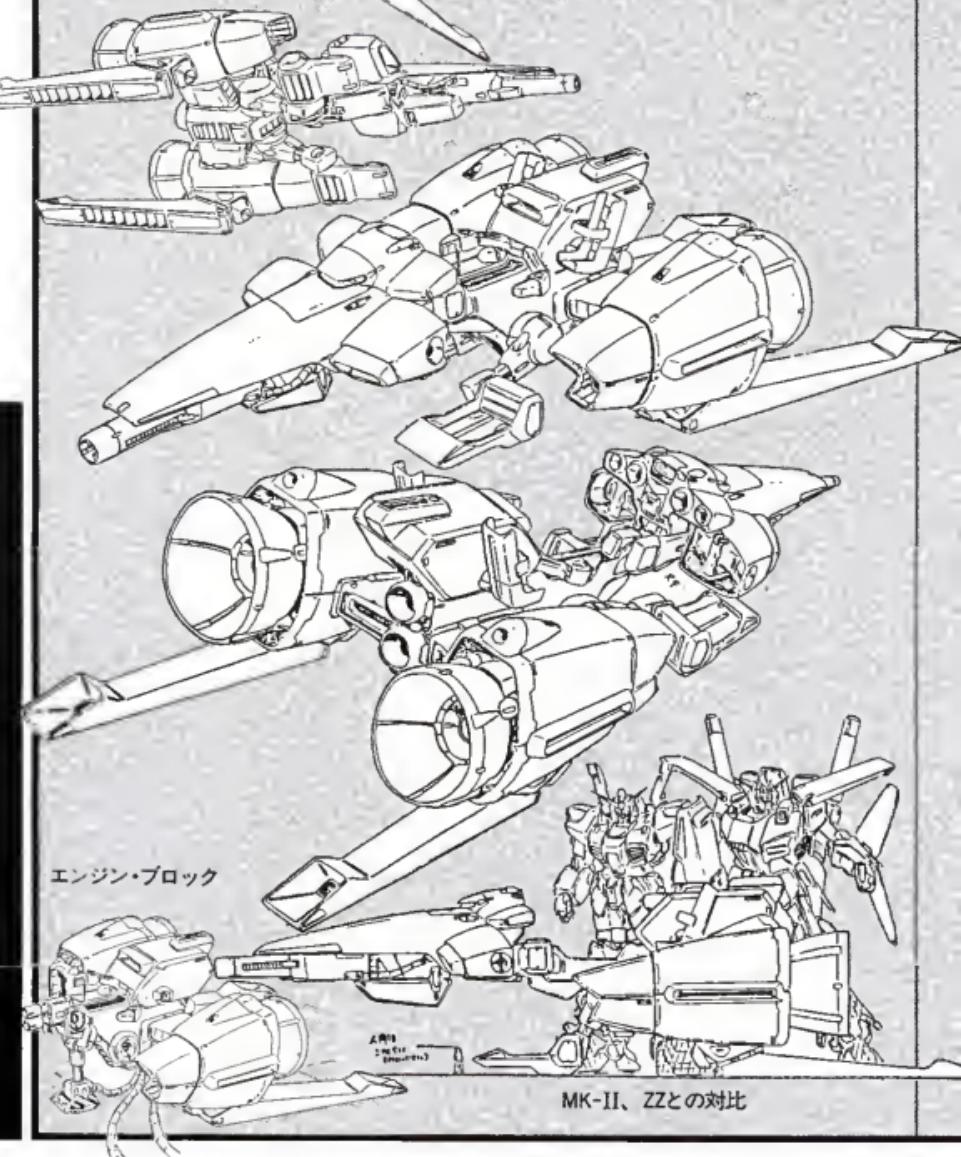
上記の改修を行なった上で、変型機構によるMS形態での各関節の強化のため、追加装甲をほどこした機体。これにより、装甲の強化のみならず、大量の兵器も組み込まれている。



NZ-ガンダム

## FXA-08R メガライダー

一年戦争当時に構想があったバストライナーのコンセプトを生かし、地上用に設計しなおした機体。メガバズーカランチャーとベースジャンパーの機能を持たせ、MSの移動距離を延長させる。短期間の居住設備をあわせもつ。



MK-II、ZZとの対比

AMX-101

## ガルスJ

ネオ・ジオン軍が、ガザシリーズとは別に、地球攻略用に開発した、陸戦用MS。生産性は高いが、AMX-009より性能は低い。



アームパンチ機構

フィンガー・ランチャー

ミサイル・ポッド

脚部スラスター

AMX-103

## ハンマ・ハンマ

機体各所にスラスターを持つ高性能機。サイコミュによるオールレンジ攻撃が可能だが、一般人用の開発が遅れ、量産化はされていない。



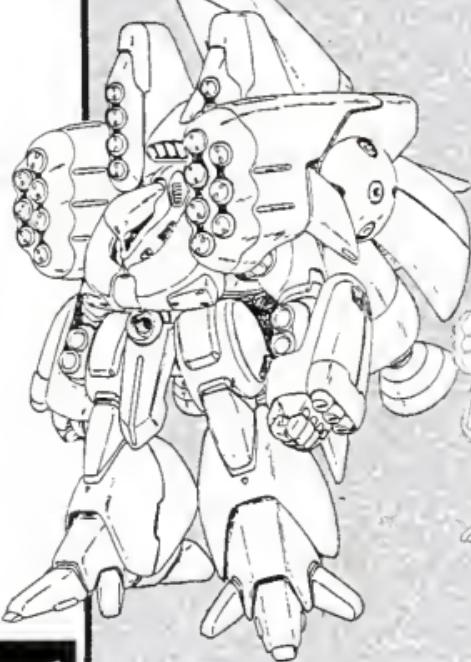
シールド

ビーム・サーベル

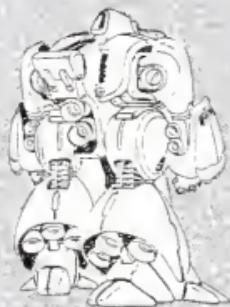
ガルスJ→ハンマ・ハンマ

## AMX-102 ズサ

AMX-101との共同作戦を前提に作られた機体でブースター装着により飛行可能。後方支援と強襲攻撃が主任務で、白兵戦にも対応する。



モビルアーマー形態



ミサイル



脚部スラスター

大型ミサイル

ズサ

## アル AMX-104 R・ジャジャ

MS-15と同じ設計思想で開発された機体で白兵戦力が高い。量産はされなかったが、騎士(指揮官)用として改造され実戦に投入された。



## AMX-109 カブール

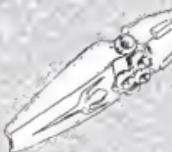
MSM-03Cの発展型で、ガンダリウムによる二重装甲を持ち、手足を収納した状態では耐弾性が飛躍的に向上する。



アル  
R・ジャジャ→カブール

## AMX-107 ハウ

機体を二つに分離し、それぞれ  
が可変機構をもつ可変MS。下半身の  
操縦者はおらず、上半身からコント  
ロールできる。後に量産された。



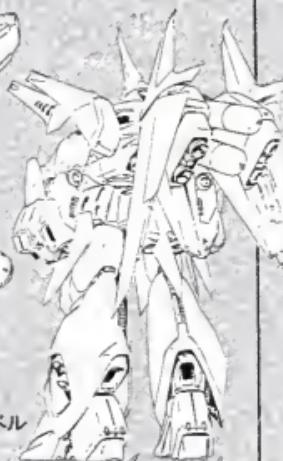
シールド



ビーム・ライフル



ビーム・サーベル



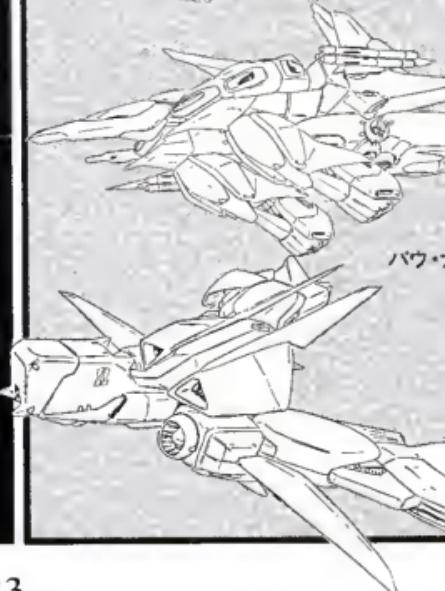
ハウ・アッカーモード



ランセル

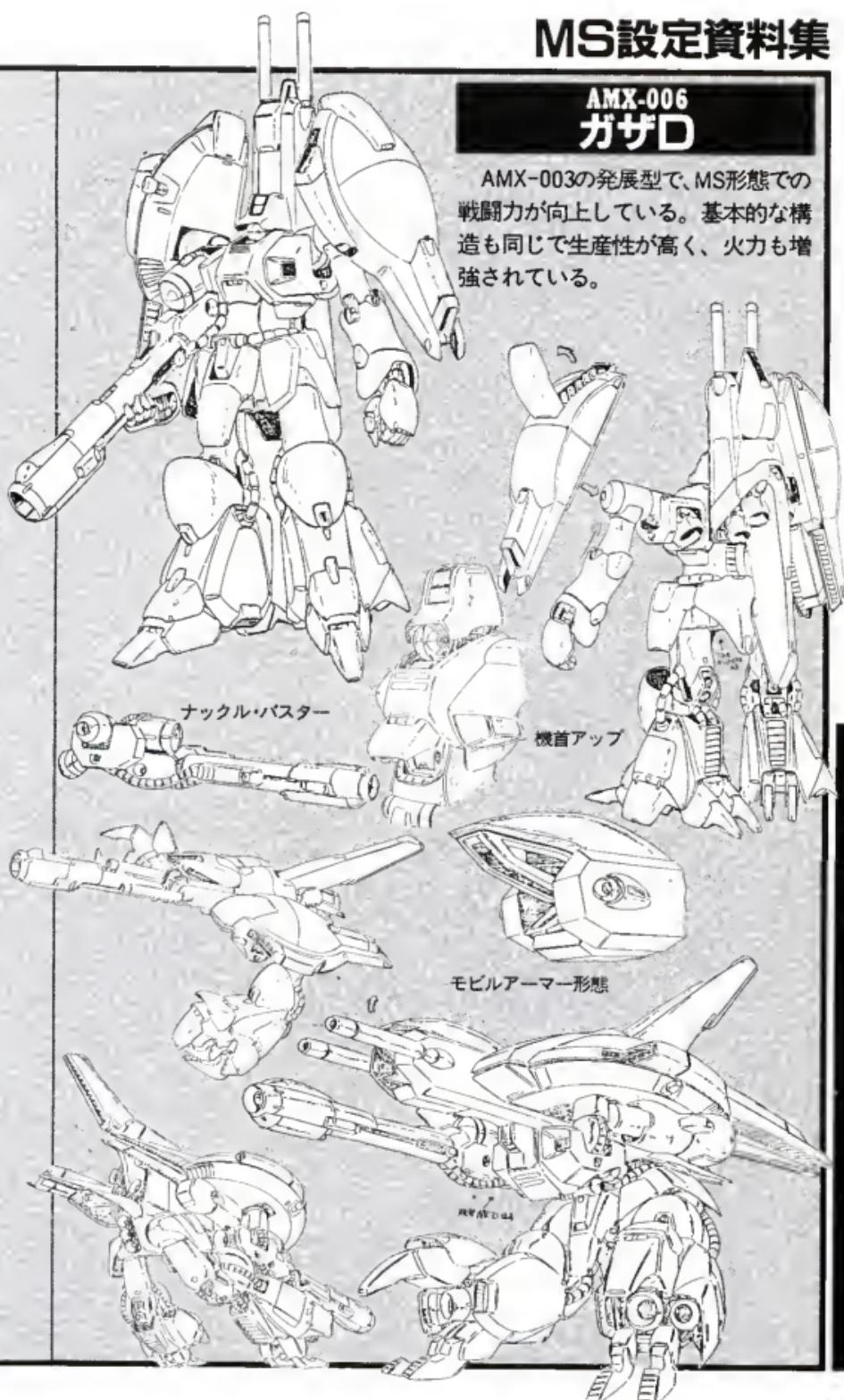


ハウ・ナッターモード



## AMX-006 ガザロ

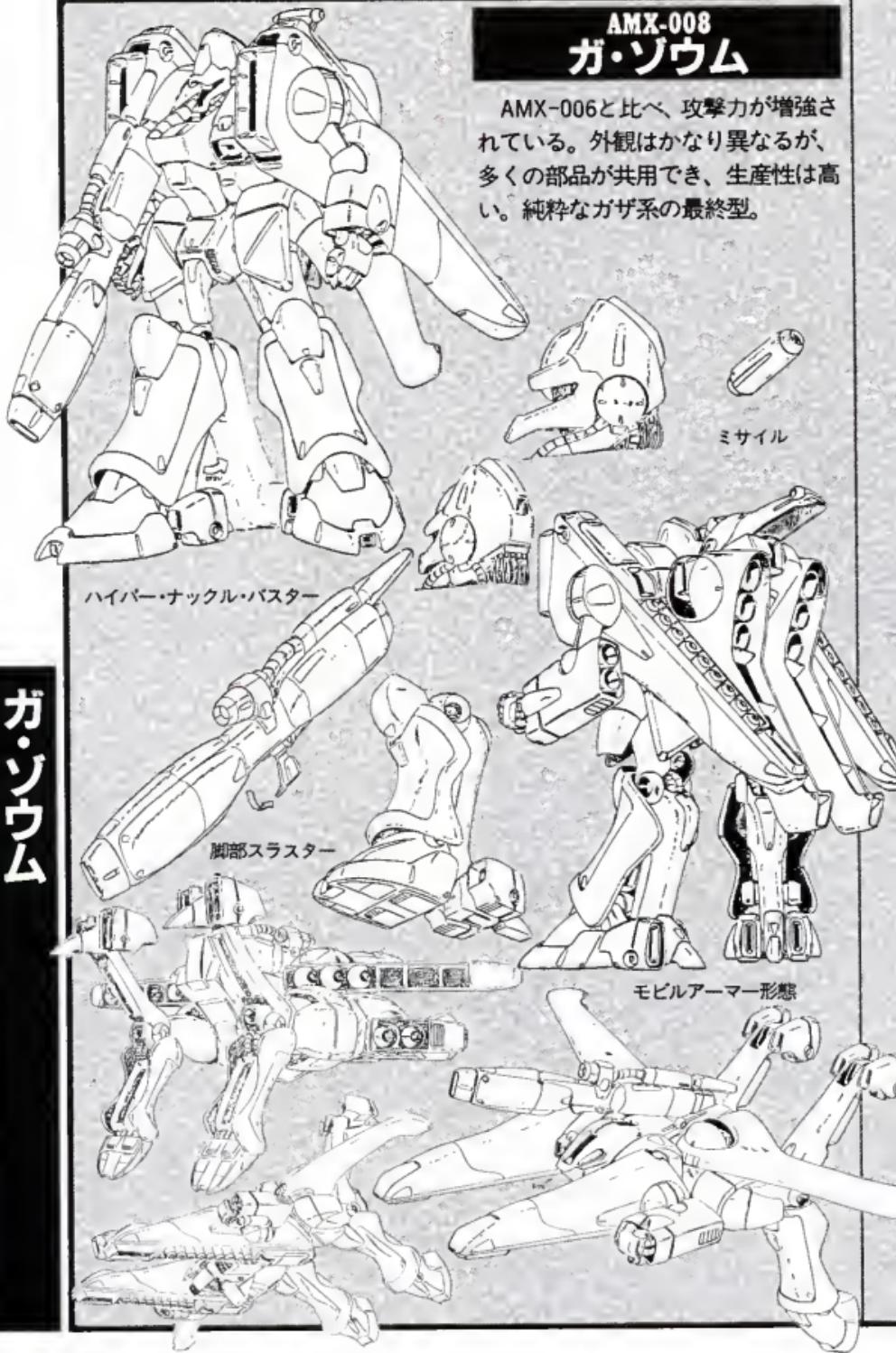
AMX-003の発展型で、MS形態での戦闘力が向上している。基本的な構造も同じで生産性が高く、火力も増強されている。



ガザロ

## AMX-008 ガ・ゾウム

AMX-006と比べ、攻撃力が増強されている。外観はかなり異なるが、多くの部品が共用でき、生産性は高い。純粹なガザ系の最終型。



ガ・ゾウム

## AMX-117R(L) ガズアル(ガズエル)

一年戦争時量産されたMS-17Bの改造機。肩アーマーに各種武器を内蔵できる新衛隊専用機。



ビーム・サーベル

ビーム・キャノン、サーベル

ガズエル用ビーム・ライフル

ヒート・ランス

ガズアル用ビーム・ライフル

## ガズアル／リゲルグ

### MS-14J リゲルグ

MS-14の高機動型。ウィングバインダー内にスラスターを持つ。在来機をアクシズで改造したもの。

ミサイル



ランドセル

グレネード・ランチャー

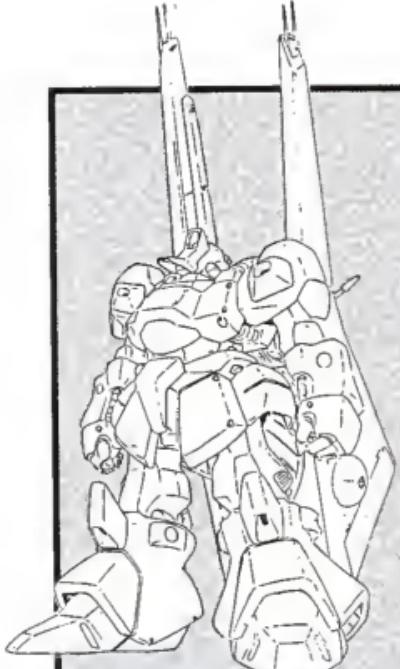
グレネード弾

ビーム・ライフル

指揮官用ビーム・ライフル

## RMS-099B シュツルム・ティアス

RMS-099にメカ粒子砲内蔵のグラ  
イバインダーを取り付けたもの。裏  
取引でジオン側に譲渡された。



## RGM-86R ジムIII

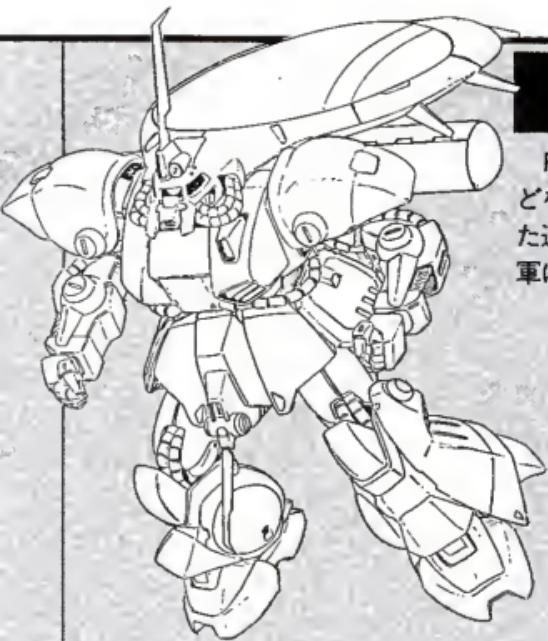
RGM-79の発展型で、79Rと違い、  
生産性を重視しつつ新技術が投入さ  
れ、支援用MSとして優秀。



RMS-119

## アイサック

RMS-106の頭部、バックパックなどを改修した偵察用MS。開発していた連邦軍の基地から、ネオ・ジオン軍によって奪われた機体。



## AMX-011S サクIII改

AMX-011の改造機。顎部のメガ粒子砲が廃止され、側頭部に30mmバルカン砲が装備された。推力の増強と稼働時間の延長がなされた。

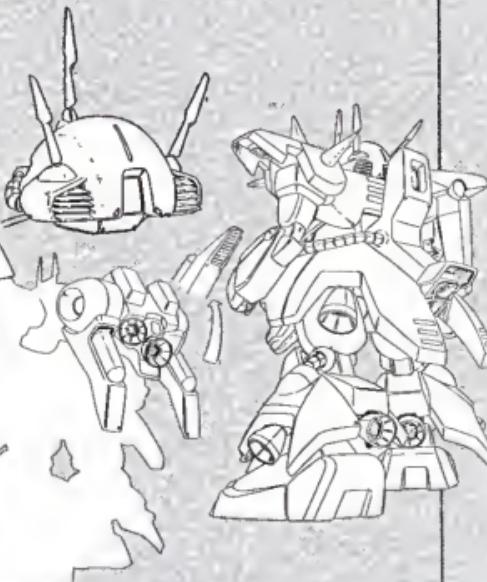


アイサック／サクIII改



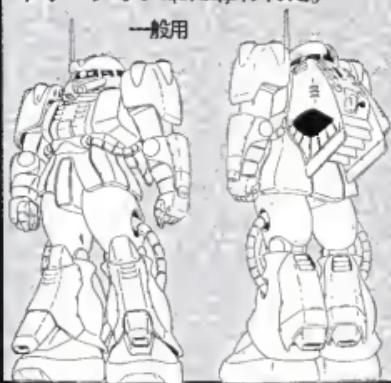
## AMX-011 サクIII

バックパックなど各部アーマーを換装することによる各種戦闘に対応可能な、基本ポテンシャルが高い機体だが、量産化はされなかった。

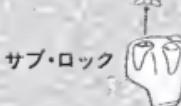


## RMS-192M サク・マリナー

MS-06Mをベースに連邦が再設計した機体。陸戦時にはハイドロジェットを排除できる。RMS-119同様、ネオ・ジオン軍に奪われた。



指揮官用



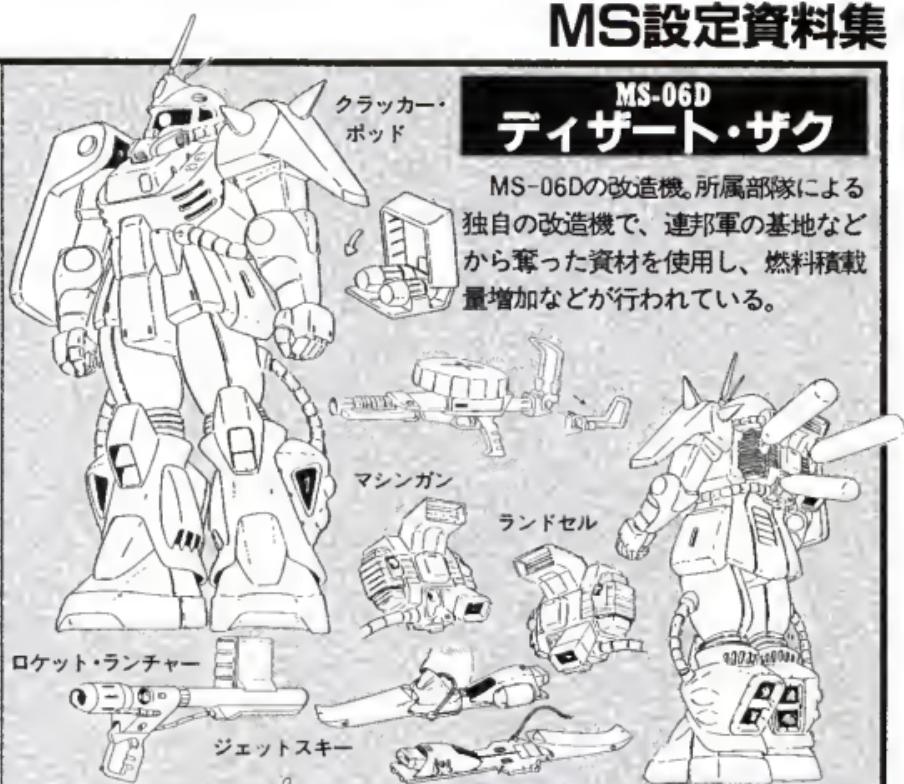
サブ・ロック



マグネット・ハーケン

## MS-06D ティザート・ザク

MS-06Dの改造機。所属部隊による独自の改造機で、連邦軍の基地などから奪った資材を使用し、燃料積載量増加などが行われている。



## MS-09G ドワッジ

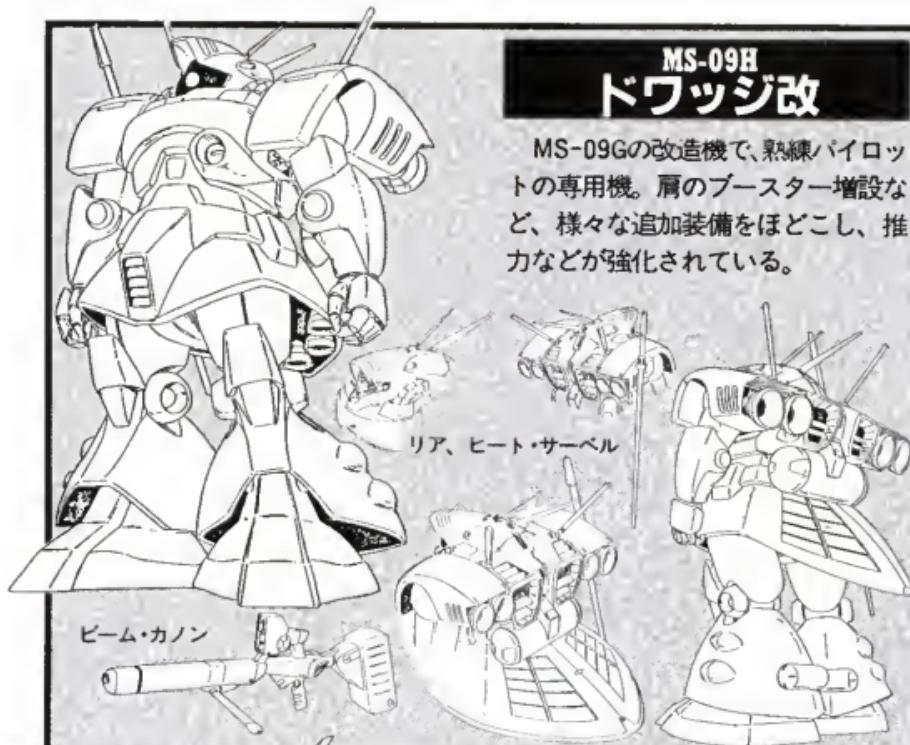
MS-09の後期量産型で、陸戦能力が飛躍的に向上している。プロペラントの增量などが行なわれており、ホバーの稼働時間が延長された。



ティザート・ザク／ドワッジ

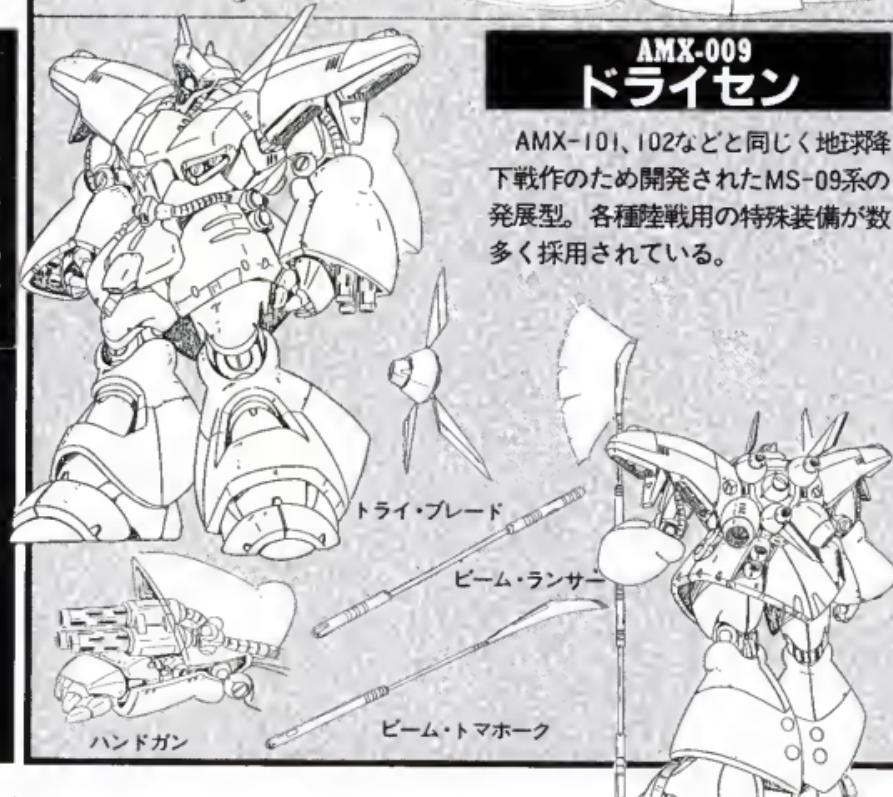
## MS-09H ドワッジ改

MS-09Gの改造機で、熟練パイロットの専用機。肩のブースター増設など、様々な追加装備をほどこし、推力などが強化されている。



## AMX-009 ドライセン

AMX-101、102などと同じく地球降下戦作のため開発されたMS-09系の発展型。各種陸戦用の特殊装備が数多く採用されている。



AMX-004-2(3)

## キュベレイMK-II

AMS-004と基本性能に大きな差はないが、兵装や細部に若干の変更があったのみであるが、3号機は外部からの制御が可能となっている。

ファンネルポッド

ファンネル

バインダー

ビーム・サーベル

AMX-004G

## 量産型キュベレイ

AMX-004の量産機であるが、性能は向上している。武装が大型化し、ファンネルの積載量も増え、一機あたりの攻撃力が強化されている。

ファンネルポッド

バインダーマウント

ビーム・サーベル

キュベレイMK-II 量産型キュベレイ

## AMX-014 ドーベンウルフ

MRX-010を参考にして開発された機体。一般人に対応のサイコミュを装備した重MSで多彩な隠し武器を持つ。量産型の腕部は有線。

脚部スラスター

メガ・ランチャー

隠しランチャー

ビーム・サーベル

隠し腕

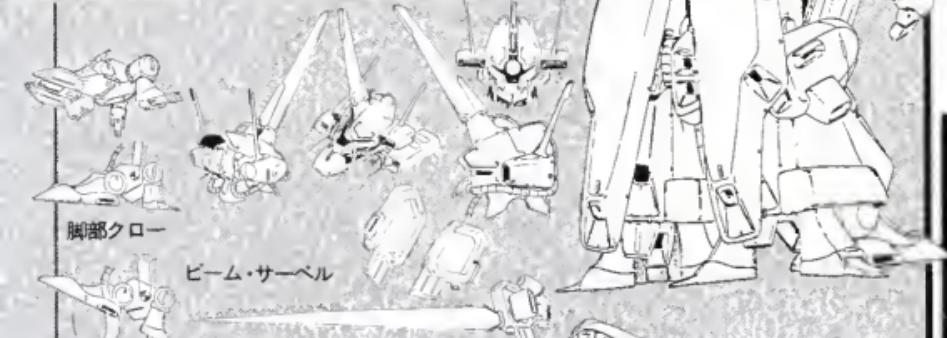
リレーインコム

ドーベンウルフ

AMX-015

## ゲーマルク

強化人間専用のMS。火力ではAMX-014に匹敵し、マザーファンネルシステムにより長距離のファンネル攻撃が可能となっている。



脚部クロー

ビーム・サーベル

マザー・ファンネル

チルド・ファンネル

ゲーマルク

AMA-01X  
ジャムル・フィン

開発中のボディーに仮設の首と手足を取り付けた可変MA。強力なメガ粒子砲を装備していて、長距離移動時にはメガブースターを装着する。

モビルアーマー形態



メガ・ブースター

メガ・ビーム砲

超長距離巡航用核バルス推進ブースター

メガ・ランチャー



ミサイル・ランチャー

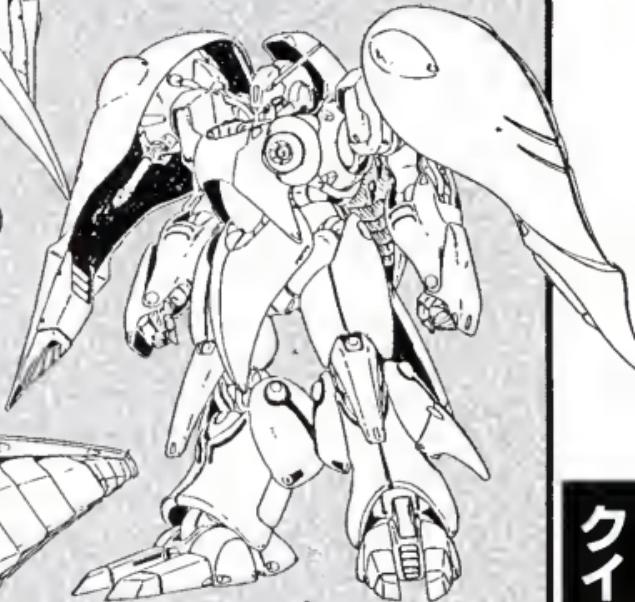
NZ-000

## クイン・マンサ

ネオ・ジオン軍最大最強のMS。バインダーにはメガ粒子偏光機が装備され、ファンネルはAMS-004の約3倍で、頭部は単独飛行可能。



ファンネル・コンテナ



コンテナ分離状態



カメラ・アイ



クイン・マンサ

MSZ-007

## 量産型Ζガンダム

MSZ-006の非  
変形型として開発  
されたが、計画は  
中断された。



FA-178

## フルアーマーガンダムMK-II

RX-178の強化  
装甲システム。試  
作段階で計画が中  
断している。



MSZ-006-X1~X3

## プロトΖガンダム

MSZ-006の試  
作機。この時点で  
は、可変機構は導  
入されていない。



X 1 (バスター・ヘッド型)

X 2 (ディアス・ヘッド型)

X 3 (ネモ・ヘッド型)

フルアーマーガンダムMK-II / プロトΖガンダム

MSF-007

## ガンダムMK-III

RX-178をもとに、アナハイム社の技術スタッフが開発した機体。人体の構造に近いムーバブルフレームを採用しているいわゆる発展型。

## MSZ-008 Z II(ゼッツー)

MSZ-006の発展型。変形機構を単純にして生産性と操縦性が向上している。大気圏突入はできないが、宇宙戦闘機としても優秀である。

ガンダムMK-III ゼッツー

アーマー形態

## MSA-099-2 リック・ディアス改

MSA-099の改良型。バインダーのみならず、各所を大幅に改修している。



## MSR-100 百式改

MSN-100の改良機。高機動デバイスを装備し、武装も強化されている。



## SE. DJ-1R ディジエSE-R

MSK-008をベースに開発された超高性能機。様々な革新的機能を持つ。



脚部スラスター

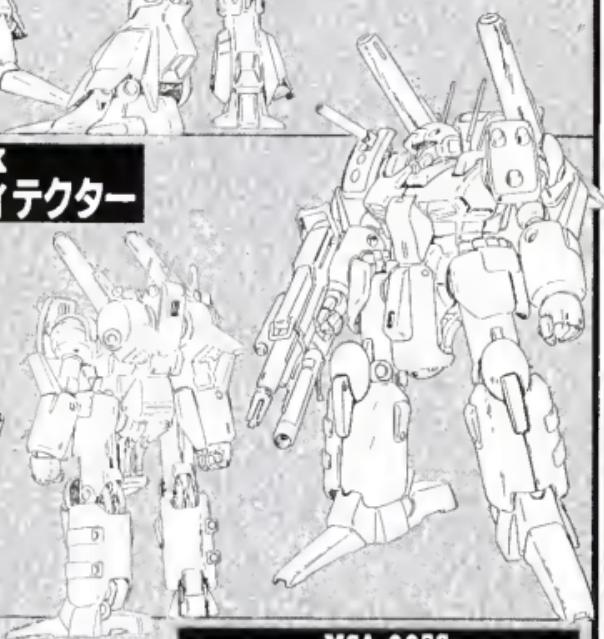
## MSA-004K ネモIII

MSA-004の武装強化型。火力、運動性、防御力すべての点で強化がなされている。

## MSA-005K

### ガンキャノン・ティテクター

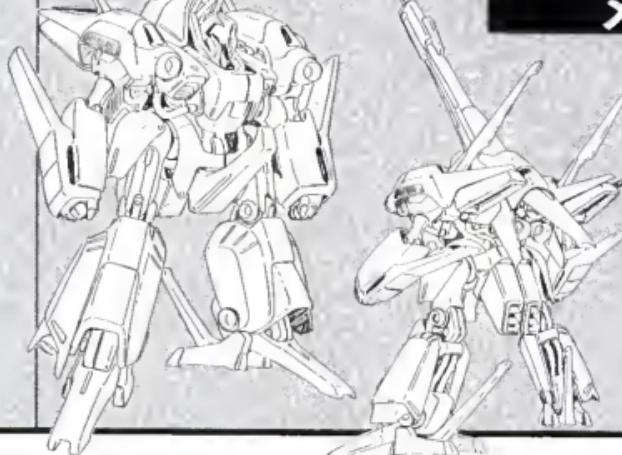
MSA-005の変型機構を流用して開発した機体で、地上戦に対応して設計された。



## MSA-005S

### メタス改

MSA-004の砲撃戦仕様で各部関節も強化。ハイメガキャノンの水平射撃も可能。

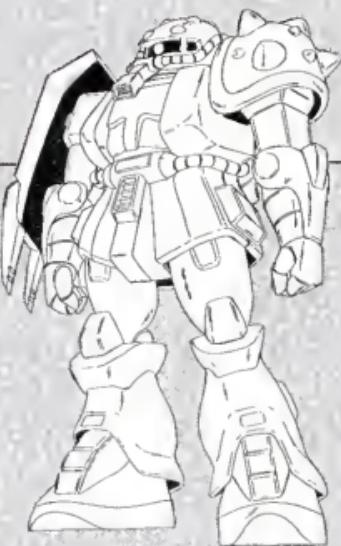


ネモIII メタス改



## RMS-188MD ザクダイバー

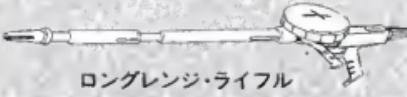
MS-06Mの改造機。  
従来の水中用機を超える  
深海潜航能力を持っている。



## MS-06DRC テサートザク・ロンメルカスタム

MS-06Dのバーンナルカスタムタイプで、専用武装も装備している。

シールド・  
アーマー



## MS-14DC テサートゲルグク

MS-14の改造機で、  
砂漠戦の改修がされて  
いる。特殊武器アーム  
ドバスターを装備。



Jr. MS (ジュニア・モビルスーツ)	80
ジュピトリス	67
スーツキャリア	78
スペースジャバー	78
ゼダンの門	8、 64
接触通信	58
全天周囲モニター	38、 86
<b>タ行</b>	
ダミー	58
チベ改	71
ティターンズ	4、 36、 64
ドゴス・ギア	66
ドダイ改	78
トリモチ・ランチャー	58
<b>ナ行</b>	
ネエル・アーガマ	69
ネオ・ジオン	12、 44
<b>ハ行</b>	
バイオセンサー	58
ハイパー・メガ粒子砲	66
バインダー	58
ハリオ	66
バリュート・システム	88
ファンネル	58
ブチ・モビルスーツ	80
ベースジャバー	78
防空戦闘衛星	67
<b>マ行</b>	
ミドル・モビルスーツ	81
ムーバブルフレーム	58
ムサイ改	71
ムラサメ研究所	44
メールシュトローム作戦	10
メガ・バズーカ・ランチャー	79、 89
メガライダー	79
メガ・ランチャー	79
モウサ	14、 62
MS (モビルスーツ) サポート・システム	78
<b>ラ行</b>	
ラーディッシュ	68
ラビアンローズ	69
リニアシート	36、 38、 58、 86

RX-110	ガブスレイ	20, 103
139	ハンブラビ	20, 104
160	バイアラン	19, 102
178	ガンダムMK-II	15, 92
SE・DJ-IR	ディジエSE-R	139
	キャトル	33,
	ゲゼ	34,

## 兵器&用語

### ア行

アーガマ	4, 68
アーマー	48
アクシズ	10, 62
アレキサンドリア	66
イジェクション・ポッド	48, 90
インコム	76
エウーゴ	4, 62
エンドラ	71
オーガスタ研究所	44

### 力行

かくし腕	48, 76
可変MA (モビルアーマー)	40, 74
可変MS (モビルスーツ)	42
カラバ	7
ガルダ	82
ガンダリウム合金	38, 48, 72
強化人間	44, 58
グワダン	70
グワンバン	70
グリップス2	8, 64
グレネイド・ランチャー	58
クローン	58
ゲター	78
コア3	14

### サ行

サイコミュ	58
サダラーン	70
サブ・ライト・システム	78
サラミス改	66
30バンチ事件	64
Gディフェンサー	
ジオン共和国	60

09H	ドワッジ改	30、131
14D	ディザートゲルググ	34、141
14J	リゲルグ	30、126
MSA-003	ネモ	15、95
004K	ネモIII	25、140
005	メタス	17、97
005K	ガンキャノンディテクター	25、140
005S	メタス改	25、140
099-2	リック・ディアスII	25、139
MSF-007	量産型Ζガンダム	23、137
MSK-008	ディジエ	17、95
MSN-100	百式	17、96
MSR-100	百式改	24、139
100S	百式改量産型	24
MSZ-006	Ζガンダム	17、98
006-X1	プロトタイプ・Ζガンダム	23、137
006-X2	プロトタイプ・Ζガンダム	23、137
006-X3	プロトタイプ・Ζガンダム	23、137
007	ガンダムMK-III	24、138
008	ゼッツー(ΖII)	24、138
010	ZZガンダム	27、114
NRX-044	アッシマー	20、106
055	バウンド・ドッグ	22、107
NZ-000	クイン・マンサ	33、136
ORX-005	ギャプラン	20、105
PMX-000	メッサーラ	21、110
001	バラス・アテネ	21、111
002	ボリノーク・サマーン	21、112
003	ジ・オ	21、112
RGM-79R	GMII	16、94
86R	GMIII	27、127
179	GMII(グリップス製)	16、94
RMS-099	リック・ディアス(MSA-099)	16、94
099B	シュツルム・ディアス	27、127
106	ハイザック	18、100
106CS	ハイザック・カスタム	18、100
108	マラサイ	18、101
117	ガルバルディβ	19、102
119	アイザック	31、128
154	バーザム	19、101
188MD	ザクダイバー	34、141
192M	ザク・マリナー	31、129

# 索引

## INDEX

●「機動戦士Ζガンダム」「機動戦士ガンダムZZ」「Ζ-MSV」「ΖΖ-MSV」に登場した主要MS・MA、及び主要兵器と主要用語をアルファベット・50音順にまとめました。見出しの単語を選び、記されているページ

数を見て下さい。その単語が解説、あるいは関連する事項がわかるようになっています。なお、MS・MAに関しては、型式番号をアルファベット順に検索できるようになっています。

## MS&amp;MA

AMA-01	ジャムル・フィン	32、135
AMX-003	ガザC(MMT-1)	19、113
004	キュベレイ	26、113
004-02	キュベレイ MK-II	26、132
004-G	量産型キュベレイ	26、132
006	ガザD	29、124
008	ガ・ゾウム	29、125
009	ドライセン	30、131
011	ザクIII	32、129
011S	ザクIII改	32、128
014	ドーベン・ウルフ	33、133
015	ゲーマルク	33、134
101	ガルスJ	28、120
102	ズサ	28、121
103	ハンマハンマ	28、120
104	R・ジャジャ	28、122
107	バウ	32、123
109	カプール	31、122
117R	ガズアル	29、126
117L	ガズエル	29、126
FA-178	フルアーマーガンダムMK-II	23、137
010S	フルアーマーZZガンダム	27、118
MRX-009	サイコガンダム	22、108
010	サイコガンダムMK-II	22、109
MS-06D	ディザートザク	31、130
DC	ディザートザク・ロンメルカスタム	34、141
09G	ドワッジ	30、130

## STAFF

### 企画

株式会社メディアワークス  
第4編集部・書籍編集課（安藤利明）

### 構成・編集

仲薗舎

### 装丁

タケモトアツシ (t-DESIGN LAB.)

### カバーイラスト

As'mりあ

### デザイン

シイバミツヲ

### 協力

株式会社サンライズ

## 宇宙世紀ボックス

### 機動戦士ガンダムMS大図鑑 PART.2【グリップス戦争編】

## CONTENTS

MS戦史 MS War History	4
MS名鑑 MS Catalogue	15
MS開発史 MS Development History	35
MS性能比較 An ability symmetry of MS	49
ガンダム・オフィシャル・レポート GUNDAM Official Report	59
歴史 History	60
宇宙艦船 Space Battle Ship	66
機動兵器 Mobile Weapon	72
MSサポートシステム MS Support System	78
ワーカー Worker	80
宇宙開発 Space Frontier	82
MS操縦マニュアル MS Pilot Manual	85
MS設定資料集 MS Design collection	91
MS用語辞典 MS Glossary	48, 58, 84
索引 Index	145

※本書は1989年3月に株式会社バンダイ・出版課より発行されたエンターテインメントバイブル・シリーズ「機動戦士ガンダム MS大図鑑Part2【グリップス戦争編】」を復刻した物です。文章・データに2005年現在と合致しない部分がございますが、原書のままでご容赦下さい。  
※ご協力いただいた方々の所属は発行当時のまま記載しております。

発行 2005年3月20日 初版発行

発行者 佐藤辰男

発行所 株式会社メディアワークス  
〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館  
TEL.03-5281-5243(編集)

発売元 株式会社角川書店  
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3  
TEL.03-3238-8605(営業)

印刷所 共同印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えします。

©創通エージェンシー・サンライズ

分売不可

Printed in Japan

【】本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、  
禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡下さい。



# MS ENCYCLOPEDIA

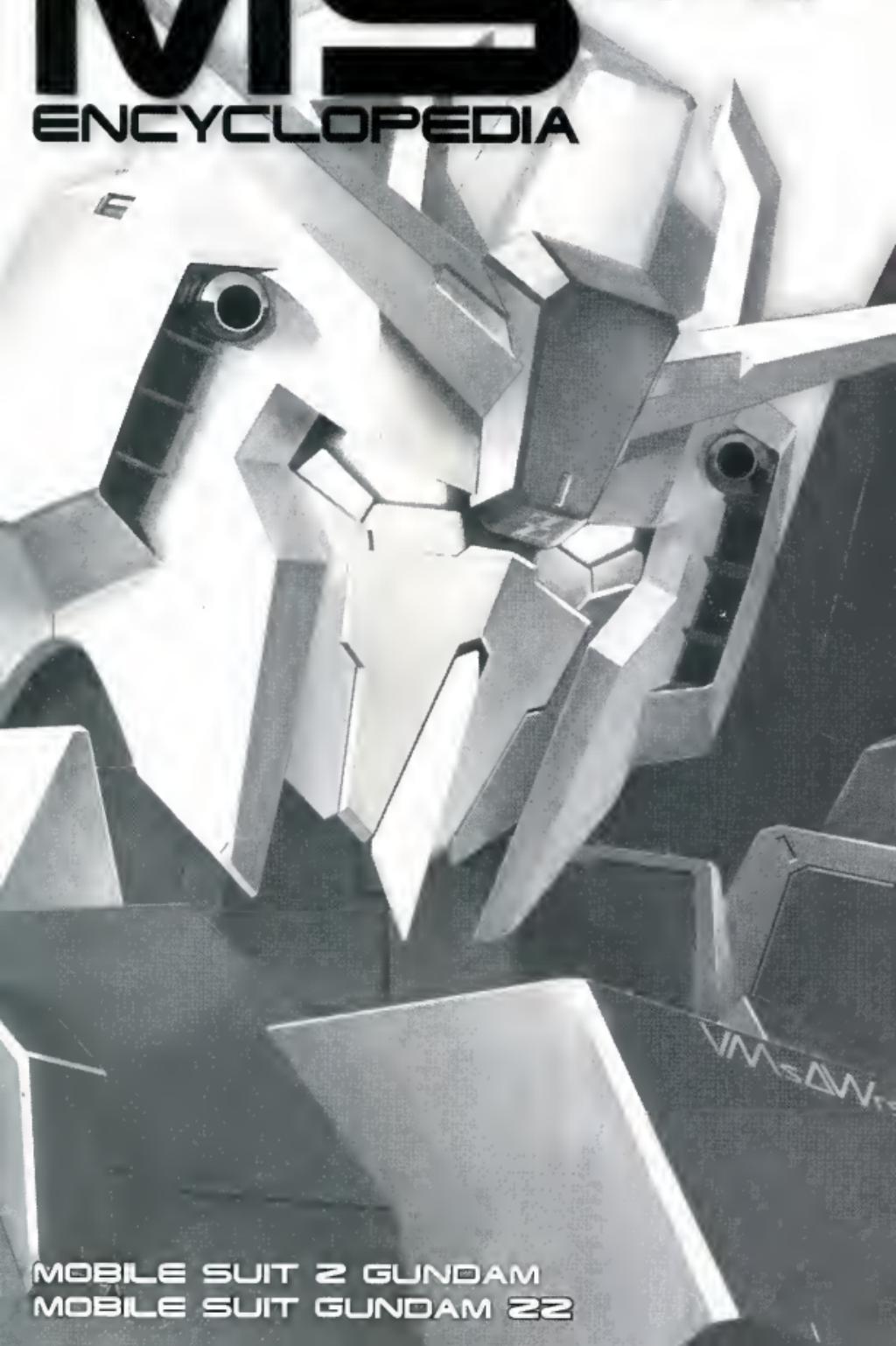
NO.02

MS大図鑑  
[PART.2 グリップス戦争編]

MOBILE SUIT 2 GUNDAM  
MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# MS NO.02

MS大図鑑  
[PART.2\_グリップス戦争編]



MOBILE SUIT Z GUNDAM  
MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# MS NO.02 ENCYCLOPEDIA

---

MOBILE SUIT Z GUNDAM

MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# MS NO.02 ENCYCLOPEDIA

---

MOBILE SUIT Z GUNDAM  
MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

